

全日本大学ソフトボール連盟機関誌

ウインドミル

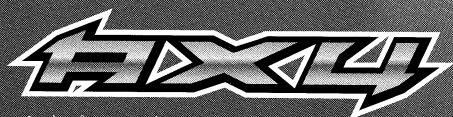
第14号



全日本大学ソフトボール連盟

ひと振り で 四重の パワー。

スイング感が異なる
2タイプが新たに登場。



〈ミズノプロ〉AX4 (エーエックスフォー)
【革・ゴムボール用】 ¥39,900 (本体¥38,000)
●カーボン+グラス ●φ57mm ●中国製

太めのグリップ、パワーの2TP-523 2TP-52340 (84cm・平均750g) ●グレー (05) / 2TP-52360 (86cm・平均760g) ●グリーン (35)

2011年2月発売



カウンターバランスも追加、シュアな2TP-519 2TP-51940 (84cm・平均700g) ●ゴールド (50) / 2TP-51940 (84cm・平均710g) ●パープル (67)

2011年2月発売

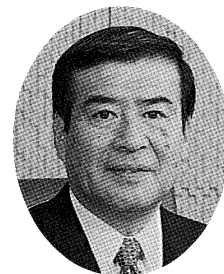


ミズノは、全日本女子ソフトボールチームの
オフィシャルサプライヤーです。



全日本大学ソフトボール連盟

ごあいさつ



全日本大学ソフトボール連盟会長

一 谷 宣 宏

学連機関誌 **ウインドミル**第14号が発刊されるにあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

学連として当初計画しておりました平成22年度の諸行事も皆様方のご支援とご協力のもと、力強く推進する事が出来ました。全日本大学ソフトボール選手権大会を核にして、各地区でも有意義な活動が展開されてきました。残念ながら、予定されていた第3回世界女子大学選手権大会が開催国の都合で中止になったことです。学連としてもこの大会に大きな期待を寄せていただけて誠に残念でありました。しかし、結成された女子代表チームの「ソフトボールへの国際化に傾ける情熱」と「更なる技術力向上を目指したい」との思いから、12月には台湾遠征試合が実現されました。このことは次の世界大学選手権大会に繋がる大きな遠征でありました。これからも、挑戦する全日本大学ソフトボール連盟であること願っております。

さて、本機関誌は、唯単にゲームの記録を残すのみでなく、ソフトボールに関する貴重な論文・技術論を掲載し、皆様のお役に立てばの願いから創刊されました。どうかこのことを再確認して頂き、機関誌 **ウインドミル**から得る情報・研究成果をご熟読下さい。

最後になりましたが、第14号の発刊にあたり、情報や記録をお寄せいただきました皆さまをはじめとする、関係各位様に深く感謝を申し上げご挨拶いたします。

ウインドミル

第14号

目 次

ごあいさつ ●会長 一谷 宣宏	1
〔巻 頭 言〕 ●ソフトボールと経営学	4
副会長 丸山 悟	
〔事業報告〕 ●平成22年度の事業報告と今後の活動方針	6
理事長 高橋 伸次	
〔特 集〕 ●2010全日本学連女子選抜チーム台湾遠征	7
中野 元 他	
〔調査報告〕 ●高反発バットにまつわる事故等の実態調査	15
岩間 英明 他	
〔研究レポート〕 ●バッティングにおける「体を開く『くせ』」を持った プレイヤーへの指導について --	21
森田 啓之	
〔研究資料〕 ●イエローボールへの変更による記録への影響について --	22
水谷 博	
〔研究報告〕 ●大学男女ソフトボール選手におけるバッティング中の スイングスピードおよびスタンス幅の関係性 --	24
伊藤 皓二 他	
〔都学連活動紹介〕 ●大学男子ソフトボール選手における身体的 および体力的特性	29
石井 新菜 他	
●第1回ピッチング講習会レポート	31
●第1回 ソフトボールセミナーレポート	32
〔紹 介〕 ●ソフトボール指導法の情報交換会開催報告	34
児玉 公正	
全国大会の記録 ●文部大臣杯第45回全日本大学男子選手権大会	35
●文部大臣杯第45回全日本大学女子選手権大会	44
●第56回全日本総合男子選手権大会	52
●第62回全日本総合女子選手権大会	53
共催大会の記録 ●第25回東日本大学選手権大会	54
●第42回西日本大学選手権大会	56

後援大会の結果●第9回東海オープン	-----	58
●第1回城西大学学長杯大学女子ソフトボールIN埼玉	--	60
●第12回千葉オープンフェスティバル	-----	60
●第10回「峠のまち」Matsuida Cup	-----	61
●第7回北信越大学オープン大会	-----	62
●藤原初男杯第2回秋季東海オープン	-----	62
●第41回関東大学選手権大会	-----	64
各地区の大会結果●北海道・東北地区 選手権大会	-----	66
秋季大会戦	-----	66
●関東地区 春季リーグ戦	-----	67
第18回関東学生選手権大会	-----	70
秋季リーグ戦	-----	71
●北信越地区 選手権大会	-----	73
新人選手権大会	-----	73
●東京地区 春季リーグ戦	-----	74
インカレ2次予選	-----	76
秋季リーグ戦	-----	77
●東海地区 春季リーグ戦	-----	79
第7回東海地域大学選手権大会	-----	83
秋季リーグ戦	-----	84
●近畿地区 春季リーグ戦	-----	88
秋季リーグ戦	-----	93
●中国地区 インカレ予選会	-----	97
選手権大会	-----	98
●四国地区 春季大会	-----	99
インカレ予選会	-----	99
秋季大会	-----	100
●九州地区 春季大会	-----	101
秋季大会	-----	102
調査研究委員会●原稿等の募集	-----	103
●投稿規定	-----	104
広報記録委員会●全日本大学ソフトボール連盟表彰	-----	104
資料●全日本大学ソフトボール連盟役員名簿	-----	105
●平成22年度加盟大学一覧	-----	107
編集後記	-----	109

【巻頭言】

ソフトボールと経営学

副会長 丸 山 悟 （日本福祉大学）

本学ソフトボール部は、特に男子部において経済学部や福祉経営学部の学生が多いので、ソフトボールには、現代における広義の経済学、とりわけ経営学を学ぶための基礎的な理論やタームがたくさんあると、私は常日頃、選手たちに説いてきた。

それは、私が法人の企画広報担当の理事であり、総合企画室長という学園・大学の将来計画の策定や各年度事業の企画調整を行う職務に就いている関係で、経営・マネジメント関連の専門用語を、ある程度“自然体”で使ってしまうことへの「釈明」という要素も少なからず存在している。また最近では、秋元康氏と一緒にアイドルグループAKB48をプロデュースした岩崎夏海さんが書いた『もしドラ』と呼ばれる小説が話題（ベストセラー）となり、強豪チームが犇めく西東京地区で公立高校を甲子園に送り込むまでに強くする方法として、ドラッガーの『マネジメント』が大きな手助けになるということを知ったことも、経営学をソフトボールに近づけた要因となっている。真のマーケティングは「顧客」から出発し、「感動」という「顧客」の真のニーズを発見することで、野球部という組織の定義ができたとする『もしドラ』から、私たちは平易な言葉でたくさんのことを学び、身に付けることができる。

しかし、同じベースボール系のスポーツでも、野球ではなく、まさにソフトボールこそが今日の経済学や経営学の基本タームにフィットするということを、『もしドラ』の脚色には及ばないし、「風が吹けば桶屋がもうかる」式の迂遠な説明となるが、私は強調したい。

それは、「グローバリズム」と「スピード経営」である。

この二つが、今日の厳しい競争環境の中で「組織」が生き残っていくうえで不可欠な要素になっていることは論を俟たない。「グローバリズム」の重要性・問題性は、2008年の「リーマンショック」で痛撃を受け、私たちはその切実な意味を体得した。「スピード経営」についても、最近の政治の停滞の中で、その意義が改めて強調されている。しかし、このようなタームは本当にソフトボールと関係するのだろうか？

ソフトボールは、オリンピックという世界の檜舞台で日本が優勝した種目である。ボールゲームのチームスポーツで、バレーボール（東京、モントリオールの女子2回、ミュンヘンでの男子1回）以外に、日本が世界一になったのは女子のソフトボール（2008年の北京オリンピック）と野球のWBC優勝ぐらいしかないのではないかとそのぐらいに顕著で

貴重な「グローバル」種目にソフトボールはなっている。ただ、残念ながら、ソフトボールも野球も、2012年のロンドンからオリンピック種目から「消える」こととなった。

改めてソフトボールは世界を意識しなければならない。世界一というグローバル競争に勝つことの前に、グローバルな関係の中で、その存在（意義）を認めさせなければならない。グローバリズムは、国際的な競争の世界を意味するだけでなく、相補的な関係の多角的な形成「戦略」の問題として捉えられなければならない。ソフトボールでの留学生の受け入れ、留学体験や海外でのスポーツ交流などを通した「普及」に努めなくてはならない。そして、そのソフトボールの面白さは「スピード経営」にあることを自覚し、かつ知ってもらう必要がある。

経営には、リーダーシップとフォロワーシップが必要だ。

野球やソフトボールほど、監督（経営学で言うマネジャー）の采配が物を言うスポーツはない。選手の交代時以外でも、タイムをある程度自在に取ることができるし、攻撃のときでも守備のときでも（すなわち、ほとんどいつ何時でも）、ベンチやコーチーズボックスからサインを送ることができる。試合の組み立てをトップが行い、トップが出すサイン（指示）に従うことを選手に厳しく強制できる。リーダーシップ優先のスポーツであることは間違いない。プロ野球で優勝したチームの監督が、企業家や社員向けの「成功の秘訣」を語る講演会などに講師として引っ張り

蛸になるのも肯けるところだ。

しかし、ソフトボールは野球よりマウンドが近く塁間が短いため、選手の「瞬時の判断」が必要で、イレギュラーに対する反応を含めて、いろいろな「出来事」に対する多様で柔軟な対応が、まさに「現場」において必要になる。指示を待っている余裕はない。

組み立てにおけるトップの判断の重要性、指示の明確性・的確性が問われる一方で、サポートプレーヤーの動きを含む「現場」における「瞬時の判断」の連鎖が必要になる。まさにこれが「スピード経営」の真髄である。

スポーツ全般について言える「ルールの前での平等」。純粋な競争の世界であり、白黒の決着を付けることを強いられながら、「戦い」の後には「ノーサイド」を貫くことを潔しとする「騎士」のメンタリズムを雛型としたスポーツマンシップ。「最大幸福の追求」という名のもとで営利を求める功利主義の時代にあって「騎士道」の精神を貫き通せる「これからの『正義』」のありようについて、スポーツを追求する者は、その「型」を身に付けるだけでなく、時代の文脈の中で変化しながらも維持されていくその内実・核心を模索し、悪戦苦闘しながら掴むよう努力する必要があるのではないか。

「これからの『正義』の話をしよう ―いまを生き延びるための哲学」の著者は根っからの野球好きで、少年時代は野球の本ばかり読んでいた。いまは、毎週日曜日にはソフトボールをしているという雑誌の記事を見て、勇気づけられている今日この頃である。

【事業報告】 平成22年度の事業報告と今後の活動方針

理事長 高 橋 伸 次（高崎経済大学）

本学連の主事業である「文部科学大臣杯第45回全日本大学ソフトボール選手権大会」は、雄大な北アルプス“立山連峰”と海の幸の宝庫“富山湾”に面する、水と緑に恵まれた、まさに「立山あおぐ特等席・富山市」で開催されました。主会場となった富山県岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場は、5面のソフトボール場が隣接して設営された施設であり、選手はもとより、全国各地から詰めかけた多くのソフトボールファンにとっても、男子と女子のゲームが同時に観戦できるという素晴らしい環境でした。そのおかげで、例年以上に熱気に溢れた、たいへん賑やかな大会となりました。今後の開催においても、できる限り男女同会場での開催をめざしてまいりたいと思います。

大会最終日では、突然の局地的豪雨に見舞われ、翌日への順延を覚悟しましたが、地元協会の的確な判断と迅速なグラウンド整備によって、3時間遅れでプレイボールがかけられ、無事に全日程を終えることができました。主管していただきました富山県ソフトボール協会、富山市ソフトボール協会、そして大会に関係していただいた多くの皆様に厚く御礼申し上げます。

男子は、環太平洋大学が創部わずか4年目で初優勝しました。近年、男女ともに新しい力がこれまでの勢力図を変えつつありましたが、この優勝で、男子においても真の意味での新旧の争いが開幕したように感じます。また女子は、東京女子体育大学が8年ぶり15回目の優勝を果たしました。ここ数年、新興勢力が押し気味であった女子にあって、この優勝は古豪の意地を印象づけました。今後も、こうした新旧による覇権争いがますます

激しくなるのではないかと予測されます。

また本大会においても、学生役員が開会および閉会の宣言や各会場の運営にあたりました。これからは、学生役員の活躍の場を広げていくことで、学生による、学生のための大会運営への意識を醸成していければと考えています。

ところで、8月に予定されていた「第3回世界大学女子選手権大会」（イタリア）は、残念ながら参加国不足のため中止となりました。厳しい選考会を経て、晴れて代表に選ばれた選手たちの落胆は如何ばかりであったろうと思います。そこで本学連では、それに代わるコンテンツとして「台湾遠征」を急遽企画し、12月に実施しました。もともと計画にはなかった新事業でしたので、多くの関係者のご理解とご協力なくしては実現できませんでした。改めて厚く御礼申し上げます。なお、こうした国際交流事業の展開は、将来優秀な競技者や指導者を輩出するという意味からもますます重要なものになってくると思われます。今後とも強力に推進していきたいと考えています。

また、後援した東日本・西日本大学選手権大会、および5地区で10大会が開催されたオープン大会は、関係者のご協力により成功裡に終えることができました。地区を越えたこうした大会が、各地区の活性化と連携に繋がることを期待しています。そして、ソフトボールが地域に根ざしたスポーツとしてさらに発展していくためには、ソフトボールを通じて地域に貢献するという観点をもった学生諸君の協力が不可欠です。

今後とも、関係者の皆様の絶大なるご支援・ご協力をお願い申し上げます。

【特 集】 2010全日本学連女子選抜チーム台湾遠征

●日程

12月16日(木)：東京集合、泊
 12月17日(金)：羽田→台北・松山空港、
 午後にチーム練習
 12月18日(土)：南京工業大学・台北師範大学と対戦
 12月19日(日)：台北市立体育学院B・台北市立体育学院Aと対戦
 12月20日(月)：国立故宮博物館を観覧、
 午後台北・松山空港→羽田、解散

●スタッフ

団 長：中野 元 (熊本学園大学)
 監 督：舟山 健一 (東北福祉大学)
 コーチ：久保田豊司 (大阪国際大学)
 総 務：森田 啓之 (兵庫教育大学)
 通 訳：中田 萍

●派遣選手

No.	守 備	氏 名	所 属	年 齢
1	投 手	松浦 由佳	東北福祉大学	4
2	"	田家 由里	大阪大谷大学	4
3	"	東嶋 清華	熊本学園大学	3
4	"	末武 若奈	山梨学院大学	2
5	"	平原かすみ	東京女子体育大学	1
6	捕 手	谷井 愛	日本体育大学	4
7	"	岡田 佳織	山梨学院大学	3
8	内野手	原野 愛美	東京女子体育大学	3
9	"	林 真由	東京女子体育大学	3
10	"	洲鎌 夏子	環太平洋大学	3
11	"	山崎奈美佳	松本大学	2
12	"	相馬 満利	日本体育大学	2
13	外野手	照沼 和	日本体育大学	4
14	"	林 仁美	大阪国際大学	4
15	"	山本紗耶加	東北福祉大学	2
16	"	近藤 琴美	園田学園女子大学	3

●試合結果

◆ 12月18日 10:30 新生球場 (台北市)

大学日本代表 0 0 0 0 0 : 0
 南京工業大学 1 0 2 0 5x : 8

田家・末武ー谷井

相手チーム先発は、アジア大会中国代表である王投手。先取点が欲しい日本は初回、一番の近藤が内野安打で出塁し盗塁するも、後続が倒れて無得点。2回も先頭の山本を足がかりに、相手エラーもあり、一・二塁としたが得点ならず。終わってみれば、王投手の速球の前に散発の4安打であった。一方、日本の先発は田家、4回からは末武が登板したが、制球に苦しむところの甘い球を好打され、初戦はコールド負けとなった。

前日に初めて練習をただけであったためか、スタッフ・選手ともども流れを作れないまま試合が終わってしまった感じであった。

◆ 12月18日 14:30 新生球場 (台北市)

大学日本代表 0 0 0 3 1 0 0 : 4
 台北師範大学 0 0 0 0 0 1 2 : 3

平原・東嶋・松浦ー谷井・岡田

初戦敗戦の後、1試合をおいてチームとしての動きの確認をして臨んだ2試合目。相手先発は、台湾代表メンバーでもある素晴らしい投手であった。切れのある速球とライズボールに凡退を重ねたが、2番手に代わるやいなやヒットが続き、効果的に得点を重ねることができた。投げては、先発の平原が小気味の良いピッチングで流れを作り、続く東嶋、松浦が点を取られたものの、いい流れの継投で逃げ切った。全員一丸となつての初勝利。これで「一つのチームになれた」ようだった。

初日を振り返ってみると、あるレベル以上の投手になると、打者はなかなか歯が立たない状況であった。大学生選手の打力アップが今後の課題だと痛感した。

◆ 12月19日 12:30 新生球場 (台北市)

大学日本代表 3 2 6 0 0 : 11
 台北体育学院B 2 0 0 0 0 : 2

末武・東嶋・松浦ー谷井

前日の初勝利で意気上がる日本は、この日の中

軸である山本、洲鎌、林仁の活躍などで、立ち上がりから3回までに加点してゲームを決めた。終わってみれば、先発全員安打の16安打であった。投げては先発の末武は初回こそ甘い球を痛打されたが、2回以降立ち直り、続く東嶋、松浦にうまくバトンを渡した。

◆ 12月19日 14:30 新生球場（台北市）

大学日本代表 1000100:2
台北体育学院A 120410x:8

平原・田家一岡田 台湾での最終試合。何とか勝利したい日本は初回の攻撃で、幸先よく先取点

を挙げた。しかし、前日好投した平原の調子が良くない。おまけに守備陣のエラーも重なり、追いかける展開。攻撃ではヒットは出るものの（8安打）、後続がうまく続かず残塁を繰り返して、ゲームセットとなった。

混成チームの難しさ（チームにおける互いの役割認識の不十分さ）を露呈して負けこそしたが、「今回の遠征では、出来る限り同じ機会と経験を与える」という監督とコーチの意図を十分に汲み取ってか、選手の顔は晴れやかであった。

「2010 兩岸及大学女子日本ソフトボール交流会」に参加して

団長・学連副会長 中 野 元（熊本学園大学）

12月17日から20日にかけて、大学女子日本代表チームの団長として台湾遠征に同行させていただいた。この遠征は、昨年8月に行われる予定だった第3回世界女子大学選手権大会が突如中止となったことに代わる海外遠征であり、その実現には高橋理事長による多大な尽力と（財）日本ソフトボール協会の強力な支援があったことはいまでもない。同時に、日本の海外遠征の申し出に快く賛同していただいた台湾協会の心温まる対応にも、深く感謝しなければならない。というのも、これまで定期的に行ってきた中国、台湾と第三国による国際交流大会を、日本の申し出を受けてわざわざ12月のこの時期に移動し設定していただいたと聞いたからだ。大学連盟の国際交流大会への取り組みは、アジア地域との信頼関係を一つの柱に据えて進める必要もあるのではないかと考えさせられた。

大会は、18日、19日の2日間で行われた。参加した大学は、中国が南京工業大学（中国代表選手を含む）、台湾は台湾代表選手を含む国立台湾師範大学など3チーム、それに大学女子日本代表チームだった。試合だけでなく、18日の夜には歓迎晩餐会も催され、サプライズ企画があり、選手やスタッフ一同皆、感慨深い思い出となった。

今回、大学女子代表チームがこの大会に参加したのは本当に有意義であったと思う。全国の各大学から集められたいわば混成チームは、18日の2試合で「チーム」としてまとまることができた。そして19日の2試合では、それぞれ各選手は自らを見つめながらこれからの課題を意識できたのではないかと勝手に考えている。ただ当初は、国際試合を初めて経験する選手が多く、「緊張感」は選手に重くのしかかっていたように感じた。

「緊張感」から国際試合では実力を十分に発揮できないこともあるという。国際的経験を一人でも多くの選手に味わわせることは、当大学連盟の一つの大きなテーマではないかと考えさせられた。その意味では、こうした「緊張感」あふれる雰囲気チーム力に集約していった舟山ヘッドと久保田コーチの絶妙な指導妙味に敬意を表する。同時に、チームの雰囲気を平常に保てるよう、常に選手たちに気配りしていただいた中田通訳、森田マネージャーに感謝したい。谷井主将を中心に選手たちは本当に良く頑張ったと思う。

こうして国際経験を積んだ選手が次に各地区においてどのような刺激を与え、地区の活性化ひいては全日本のレベルアップにつながられるか、諸般の状況を鑑みると、当大学連盟が取り組むべ

き課題は多い。これが、この大会を経験しての率直な実感だ。その意味で、大学連盟に対するさら

なるご理解とご協力を、今後とも各方面に心よりお願いしたい。

台湾遠征を振り返って

監督 舟 山 健 一（東北福祉大学）

2010年12月17日から4日間の日程で実施された、全日本大学女子選抜チームの台湾遠征についてご報告し、所感を述べさせていただく。この遠征は、2010年8月に開催予定であった第3回世界大学女子選手権大会が中止となったことを受け、これに代わる事業として本連盟で急遽、企画していただいたものである。私は、世界選手権出場予定チームの監督を拝命していた関係で、そのままこの選抜チームでも監督を務めさせていただいた。

全日本大学女子選抜チームの台湾遠征ということであったが、中国からも参加があり、台湾3チーム、中国・日本各1チームの計5チームが、台北市の新生球場に集い、総当たり形式で試合を実施した。気温18～20度で晴天という、非常に恵まれた気象条件のもとでの大会となった。大会はあくまで親善試合であったが、そこはアスリートの本能、試合となれば気迫あふれるプレイが展開され、どの試合も白熱して大会はおおいに盛り上がった。

日本以外はすべて大学単独チームであったが、11月に開催されたアジア大会に出場した実力のある選手も多く、どのチームも強豪と言ってよいレベルだった。特に投手のレベルが高く、台湾の1チームと中国の南京工業大学チームは、それぞれナショナルチームのエース級を擁して、日本戦にぶつけてきた。両投手とも、球種を問わずコンスタントに100キロを超える球を投げ、さらに打者の手元で大きく上下に変化する球種を操った。日本代表チームはその迫力の前に苦戦を強いられ、結局、2勝2敗で大会を終えた。

世界の頂点に立つ日本の女子ソフトボールのレベルを考えれば、決して満足できる結果とは言えない。しかし、9大学からの選抜チームで、本番まで合同練習の機会もなかったことを思えば、大

健闘と言ってよい。チームには、東京女子体育大学1年生、平原投手を筆頭に将来性豊かな選手が多く、今後の活躍に大きな期待を持たせてくれた。また、日体大4年生の谷井主将を中心に、チームとしても良くまとまった。

試合初日の夜、台北市内のレストランでレセプションも開催された。迫力満点のプレイを展開したグラウンドとは一変、非常に和やかな雰囲気の中で、他国選手たちと交流し、異文化を肌で感じるという、大変貴重な経験もできた。日本の選手たちが、通訳も介さず身振り手振りで交流を深めていたのは、非常に頼もしい光景だった。時節柄、中国との関係に気を使うかとも思ったが、中国チームは大変友好的で、杞憂に終わったのは嬉しいことであった。選手諸姉も、こうした経験を今後のスポーツ活動やそれぞれの人生に活かし、大学女子ソフトボール界、ひいてはソフトボール界全体に還元していただきたいものである。

現在、ソフトボールは五輪やアジア大会の競技種目からの除外が決定するなど、大変な苦況に立たされている。周知の通り、ソフトボールには、サッカーのワールドカップのような、競技の人気を高め、競技人口の裾野を広げるような仕組みがないに等しい。唯一、その役割を果たしてきたのが五輪やアジア大会で、これらの大会からの除外はソフトボール競技そのものの存立に関わる問題とさえ言える。そうした状況の中、今回の台湾遠征は、草の根レベルではあるが非常に意義深い国際交流であり、選手のモチベーション強化にも役立つ遠征だった。本遠征を企画・実施してくださった大学連盟と、日程のやり繰りなどでご協力いただいた各大学チームの監督と選手諸姉に、心から感謝を申し上げ報告とする。

大学女子日本代表台湾遠征

コーチ 久保田 豊 司（大阪国際大学）

選手たちの笑顔は最高であった。今回の台湾遠征はチャンピオンシップの大会ではなかったが、国際試合の経験、選手の交流、異文化理解と、たくさんの貴重な体験ができ、選手の顔は最高に輝いていた。

第3回世界女子大学ソフトボール選手権大会が参加国の不足により中止となったため、今回の台湾遠征が計画された。これは、(財)日本ソフトボール協会をはじめ、関係各位のご尽力により実現されたものであり、まず皆様方に厚くお礼を申し上げます。

日本チームは一部の選手を入れ替え、現地で1回の調整練習を行い試合に臨んだ。初戦の南京工業大学戦は選手の殆どが国際試合の経験がなく緊張していたが、2戦目の国立台湾師範大学戦では本来の力が発揮できたようであった。2日目の台北市立体育大学戦では、即席チームの問題点は出たものの、選手は日に日に逞しく成長していった。台湾、中国共にナショナルチームの選手が所属し

ており、そのプレイは他の選手に比べ群を抜いていた。また、中国チームは、意図的・計画的に体格のある選手を強化しているようであった。

今回の遠征を通して、大学生の国際試合の参加は勝敗も当然重要ではあるが、社会に出る前に、人種や民族、国家の枠組みを超えて交流を持つこと、異文化を体験することは大きな意味があると強く感じた。この経験が今後の人生、ソフトボールの普及・発展に必ずや繋がっていくものと確信した。

最後に、台湾遠征実現のために各方面に交渉して頂いた高橋理事長、チームリーダーとしてレセプションでは突然のスピーチ依頼にも素晴らしい対応で日本をアピールされた中野副会長、チームの強化、バランス、安全面を常に考え選手を起用した舟山監督、持ち前の明るさでチームを陰ながら支えた森田事務局長、選手の母親役として大活躍した通訳のぴんさんと、素晴らしいスタッフに感謝を申し上げます。

大学生プレイヤーに育てたい資質・能力

ー 学連としての取り組みに関してー

総務 森 田 啓 之（兵庫教育大学）

今回初めて女子のチームに帯同した。これまで男子の選抜チーム（NZ遠征）には2度参加しているが、勝手が違うのでは…と不安も多かった。しかし、終わってみれば、それも杞憂であった。監督とコーチのバランスに配慮した選手起用、団長の社会人の見本となるような言動、そして通訳の中田ぴんさんの細やかな気配りのお陰で、大したことをしなかったことを申し訳なく思っているくらいである。

ご存知の通り、大学女子はここ数年幸運なことに、チャンピオンシップの国際大会への派遣が続いていたが、今回は久しぶりの、「競技力の強化

に加えて、様々な交流を目的とした遠征」であった。以下に、その中で感じた・見えてきたことを学連事務局長の立場として記したい。

最高学府の教育機関の組織である「大学連盟」の使命は、言うまでもなくソフトボールを通じて「教養のある人間づくり」に貢献することである。その中身は「高い競技能力を持つ」ことは重要であるが、同時に忘れてならないのは、「様々な事象を相対化して、判断や行動を総合的に選択できる」能力・資質の育成である。

したがって、われわれは、ともすれば目に見えやすい「競技力」（試合結果等、それも自チーム

・プレイヤーの) だけに目を向けがちであるが、数量化しづらい「人間力」という側面にも意図的に関わらねばならない。近年、学生は「内向き志向」だとも言われているが、住み慣れた環境(指導者や仲間)を絶対と信じるのではなく、自分の価値観を絶えず相対化し自身で判断できるプレイヤーを育てることが今後一層求められるように思う。その意味で、今回の女子選手たちへの経験は、「ソフトボールの相対化(プレイの仕方や指導者

のありかた等)」、さらには「異文化経験の中でわが国日本の相対化」に意味があったのではないだろうか。

このどちらかだけでは、大学連盟や大学チームの存在意義は見出せないものであり、今後は男女の両方に対して、この2つをバランスよく追求する必要があると実感したとともに、関係各位にご理解とご支援を賜りたいと切にお願いする次第である。

参加選手のレポート・感想 (注)学年は遠征時のもの

主将 谷井 愛(日本体育大学4年)

イタリアでの大学選手権がなくなった代わりに、台湾遠征があると聞いた時は嬉しい気持ちになった反面、現役を引退しているのに大丈夫かなと不安な気持ちにもなりました。しかし、海外での経験は指導者を目指している私にとってこれから必ず役に立つと思い、参加させて頂きました。

実際に海外チームの戦い方やプレイ、スタッフの先生方の言葉や指導の仕方など勉強になることばかりでした。岐阜合宿とメンバーが少し変わりましたが、台湾遠征のメンバーもとても仲が良く、試合や試合以外の台湾での生活全てが楽しかったです。普通では出来ない貴重な経験をさせて頂いたこと、そして日本の大学を代表する選手ばかりのチームでキャプテンをさせて頂いたこと、本当に感謝しております。今回の経験を生かしもっとレベルの高いソフトボーラーとして、又、指導者として教えていけるようこれから頑張っていきたいと思います。

松浦 由佳(東北福祉大学4年)

今回の台湾遠征では、4日間という短い期間でしたがとてもいい経験をする事ができました。大学の代表ということもあり、一人ひとりのレベルが高く、チームメイトから多くのことを学ぶことができました。また、私にとっては初めての国際試合であり、海外で自分の力を発揮する難しさ

を肌で感じることもできました。この遠征を最後に、私は競技スポーツとしてのソフトボールは卒業しますが、この遠征の貴重な経験を今後の人生に役立て、何らかの形でソフトボールに係わっていきたいと思っています。

照 沼 和(日本体育大学4年)

4日間色々とお世話になりました。短い間でしたが、とても良い思い出が出来、心から参加できたことに喜びを感じています。このような機会を与えて下さった方に感謝の気持ちで一杯です。私は来年の4月から教員になります。その前に、最後にもう一度だけ夢を見させてもらえて本当に幸せでした。

選手として、又指導者を目指す者として今回の海外遠征に参加し、改めてソフトボールの楽しさ、またチームづくりの難しさを感じました。今回学んだことを今後の人生に活かしていきたいと思います。またいつか、どこかで今回出逢えた全ての方に再会できることを期待しています。

林 仁 美(大阪国際大学4年)

今回、台湾遠征に参加させて頂き、本当に貴重な体験ができました。全試合を通して、大学生とはいえ、やはり日本を代表する選手たちは個々の力や技術は高いと感じました。しかし、今回初めて顔を合わせ、そして試合をするということだっ

たので、チームとして全てを出しきれたかという
と、そうではなかったと思います。世界大会が開
催されていれば、練習や強化合宿を重ね、チーム
力は向上し、もっと強いチームになれたのではな
いか、そして金メダルを狙いにいったのではない
かと思い、少し心残りです。しかし、沢山の方々
の支えのおかげで、このようなメンバーの中で
自分がプレイできたことに本当に感謝しています。

最後になりましたが、今回の遠征で指導して下
さったコーチはじめ、様々な面でサポートして頂
いたスタッフの皆さんには本当に感謝しています。
ありがとうございました。

田 家 由 里（大阪大谷大学 4 年）

台湾遠征での第一試合目は、久しぶりであるの
と、新しいメンバーも加わったのがあり、皆堅さ
がまだありましたが、2 試合目以降は連携もうま
くいき、自分達それぞれの持ち味を出すことがで
きてよかったと思います。

私が台湾遠征に参加して一番感じた事は、パワ
ーの違いです。同じアジアですが、打球はとても
早く、投手も迫力のある球ばかりで、日本のプレ
イスタイルである小技系とはまた違ったスタイル
で衝撃を受けました。また異文化にも触れること
ができ、とても充実した遠征となりました。

最後になりましたが、台湾遠征の関係者の皆様
ありがとうございました。

岡 田 佳 織（山梨学院大学 3 年）

今回台湾遠征に日本代表として参加し、貴重な
体験をさせて頂いたことに、とても感謝していま
す。スタッフのみなさん、自チームの理解や協力が
あってこそこの遠征だったなと改めて思います。

中国、台湾の大学生と試合をさせて頂いたこと
で、ソフトボールという競技を通して、文化の違
いを体験することができました。また、他国の選
手と比べることで、日本の大学生の技術の高さを
感じました。この遠征は、自分自身にとっても、
日本の大学ソフトボール界にとっても、良い刺激
になったと思います。この経験を生かし、大学ソ
フトボール界を盛り上げていけたらいいなと思い

ます。

私は現地で誕生日を迎えたのですが、中国と台
湾の方々や日本チームのみなさんに盛大に祝って
貰えたことがとても嬉しかったです。一生の思い
出となる遠征でした。ありがとうございました。

原 野 愛 美（東京女子体育大学 3 年）

今回の台湾遠征は短期間での活動となり、全員
が楽しくプレイできるチームを作ることが目標で
した。遠征中この気持ちを忘れず活動した結果、
目標を達成することができ、スタッフも選手も一
丸になったチームを作ることができました。今回
の遠征で考え方の視野が広がり、ソフトボールに
対する思いもさらに深まりました。素晴らしい仲
間とスタッフに出会い一緒に活動できたことが大
きな財産になりました。

今回の遠征の為にサポートしてくださった関係
者のかたがたに感謝し今後の活動でこの経験を活
かし恩返ししていきたいです。

林 真 由（東京女子体育大学 3 年）

今回台湾遠征に参加させて頂き、改めてソフト
ボールの難しさや楽しさを感じた 4 日となりまし
た。監督、コーチ、チームメイトも違う新たな環
境でしたが、試合を通して考え方や取り組み方な
ど、とても勉強になりました。今回学んだ事を活
かし、自チームでは学んだ事をチームメイトに伝
えながら頑張っていきたいと思います。

また、今回の遠征はたくさんの方々に支えられ
行われたものだと思います。感謝の気持ちを忘れ
ず、また全日本大学のチームに参加させて頂ける
ようにプレイヤーとしても人としても、もっとも
っと成長していけるように頑張ります。

近 藤 琴 美（園田学園女子大学 3 年）

今回台湾遠征に参加できて、行くまでは不安な
ことだらけでしたが、普段とはまた違ったメンバ
ーで試合をすることで、色々な人と話をしたり一
緒にプレイをさせてもらえたりと、とても貴重な
体験となりました。はじめは上手く噛み合わない
こともありましたが、試合を重ねるごとにコミュ

ニケーションがとれて、試合を楽しむことができました。国際試合を通じて同じソフトボールをする仲間がたくさん出会うことが出来て、本当に良かったです。ありがとうございました。

洲 鎌 夏 子 (IPU環太平洋大学 3 年)

台湾遠征を終え、日本とは違うソフトボールを見ることができました。とても貴重な経験をし、自らいろいろ学ぶことができましたし、台湾チームと試合をさせていただいて、世界に勝つというのは、そう簡単ではないことも痛感しました。新たにソフトボールの難しさを味わうことができた4日間でした。

この経験を生かして、自チームに学んだことを伝え、目標に向かって頑張っていきたいです。

最後に、この遠征もスタッフの皆様のおかげで楽しく、学ぶことができました。本当にお世話になりました。

東 嶋 清 華 (熊本学園大学 3 年)

今回、私は初めて日本 (大学) 代表として台湾遠征に参加しました。楽しみでありながらも、不安でもありました。試合では、中国、台湾の選手のレベルの高さを実感し、その緊張感のなかプレイすることが自分ではできるのかと不安でした。しかし、実際は緊張感を楽しんでプレイできて良かったです。

今回、国際試合に初めて参加して、個人個人のレベルの高さを見て、自分の未熟な点にも改めて気づくことができ、更にこれから頑張っていこうという気持ちになりました。台湾遠征で得たことはこれから自チームやまた自分を成長させる糧として活かしたいです。貴重な経験をありがとうございました。

山 本 紗耶加 (東北福祉大学 2 年)

今回台湾で試合をしてソフトボールを通じて台湾の人々と交流を持つことができました。台湾の人々の中には日本語を話すことができる人が多く、たくさんの人と話すことができ、とても良い経験になりました。海外に来て国際試合ができたこと、

異国の地で違った文化の中で自分の好きなソフトボールをすることができ、様々なことを学びました。この経験を今後の部活動、自分の人生に役立てていきたいと思っています。

末 武 若 奈 (山梨学院大学 2 年)

8月のイタリアでの世界大会は、残念ながら中止となってしまいましたが、今回の台湾遠征でJAPANとしてチームに参加出来ることになり、本当に嬉しく、そして有り難い気持ちでいっぱいです。このような試合の機会を作って頂いた方々に感謝し、これからのソフトボールを精一杯プレイしたいと思っています。

山 崎 奈美佳 (松本大学 2 年)

今回、台湾遠征に参加する機会をいただけて本当に嬉しく思います。正直、今シーズンは悩み苦しみ厳しいシーズンでした。しかし、こういう形でチャンスが巡ってきました。今季、不甲斐ない成績だった自分への試練であり、また、最大のチャンスでした。

この遠征では、たくさんの刺激を受け、多くを学びました。そのひとつが、結果なんて考えていたら出る力もでない、内容10割>結果3割で考えれば自然と力も抜けてくる、というものでした。

また、台湾遠征を通じて、ソフトボールの輪が広がりました。何より楽しかったです。今回の経験を生かして、それぞれが各大学へ広げ、大学界を引っ張っていける存在になりたいと思います。スタッフを始め、関係者の方々、いろいろとありがとうございました。

相 馬 満 利 (日本体育大学 2 年)

今回はとても貴重な台湾での海外遠征を経験させていただき、ありがとうございました。

自チームに戻った今、この経験を生かし、個人のソフトボールに対する考え方、取り組み方、それぞれのチームの情報をどんどん伝え、チームの雰囲気作り、勝てるチームに少しでも貢献出来るように、必死になって頑張りたいと思います。お金には変えられない、本当に貴重な体験が出来ま

した。

これに恥じない人間、態度をとりいろいろな方に認められる人になれるよう、精一杯努力して参ります。これに奢ることなく、謙虚に、そして、大学ソフトボール界を盛り上げられる選手になれるように頑張ります。

平 原 かすみ（東京女子体育大学1年）

今回この台湾遠征に参加する事ができて、本当に良かったと思っています。今後、日本の強いチ

ームと対戦する上で、台湾の選抜チームと対戦できたことは大きな自信になり、活かしていけると思います。

いつもは敵同士の人達と、同じチームになり戦うことは大変でしたが、それも勉強になりました。プレイ以外でも、観光をしたり、文化に触れたり、海外遠征をする時に注意しなければいけないことなど、勉強になることがたくさんありました。とても良い経験になりました。今後に繋げていきたいです。ありがとうございました。

第3回世界女子大学選手権女子大学日本代表

第3回世界女子大学ソフトボール選手権大会は、8月29日(日)～9月5日(日)の間に、イタリア・マチュエラタで開催が予定されていましたが、参加国数の不足により、中止となりました。しかし、(財)日本ソフトボール協会は、この大会に派遣する代表選手の選考会を4月23日(金)～25日(日)の3日間にわたり、静岡県伊豆市の天城ドーム及び野球場を会場に開催していました。この選考会には全国各地から58名が参加し、厳しい選考が行われ、次のとおり代表選手17名が選出されました。

- | | | | |
|----|-----|-------|-----------|
| 1 | 投 手 | 松浦 由佳 | 東北福祉大学 |
| 2 | 投 手 | 平原かすみ | 東京女子体育大学 |
| 3 | 投 手 | 末武 若奈 | 山梨学院大学 |
| 4 | 投 手 | 田家 由里 | 大阪大谷大学 |
| 5 | 投 手 | 西岡 里恵 | 園田学園女子大学 |
| 6 | 捕 手 | 谷井 愛 | 日本体育大学 |
| 7 | 捕 手 | 岡田 佳織 | 山梨学院大学 |
| 8 | 内野手 | 近藤 弘実 | 東北福祉大学 |
| 9 | 内野手 | 井上 愛 | 東北福祉大学 |
| 10 | 内野手 | 粕張 舞 | 東北福祉大学 |
| 11 | 内野手 | 原野 愛美 | 東京女子体育大学 |
| 12 | 内野手 | 相馬 満利 | 日本体育大学 |
| 13 | 内野手 | 森田 涼 | 園田学園女子大学 |
| 14 | 外野手 | 照沼 和 | 日本体育大学 |
| 15 | 外野手 | 林 仁美 | 大阪国際大学 |
| 16 | 外野手 | 田邊 奈那 | IPU環太平洋大学 |

- 17 外野手 森 さやか 東京女子体育大学

かつて、1996年のアトランタ・オリンピックでは、藤本佳子（当時・東京女子体育大）、高山樹里（当時・日本体育大）、2人の大学生の「若い力」が、あわやメダル獲得というところまでチームを引っ張り、2000年のシドニー・オリンピックでは、増淵まり子(当時・東京女子体育大)が、銀メダル獲得の原動力となった。2004年のアテネ・オリンピックでも佐藤理恵(東京女子体育大卒／当時・レオパレス21)が銅メダル獲得に貢献。一昨年の北京オリンピックでも、その佐藤理恵と藤本素子(日本体育大卒／当時・レオパレス21)、伊藤幸子(中京大卒／当時・トヨタ自動車)の存在なくして、悲願の金メダル獲得はなかっただろう。

日本のソフトボールの輝かしい歴史の中で、常に「大学生」の存在があり、その存在が非常に重要な位置を占め、時には「時代」を動かし、ソフトボールの歴史を刻む上で、大きな意味を持っていたことは間違いのない事実である。それだけに、今後もこの女子大学日本代表の中からも、プレイヤーとしてはもちろん、指導者として日本のソフトボールを牽引していくような存在が現れてくれることに期待したい。

※本文は、(財)日本ソフトボール協会HPから転載させていただきました。記して感謝いたします。

【調査報告】

高反発バットにまつわる事故等の実態調査

岩間 英明（松本大学） 高橋 伸次（高崎経済大学） 水谷 博（至学館大学）

1. はじめに

近年、飛距離を追求したバットが各メーカーによって次々と開発され、現在ではそうした高反発のバットを使用することが一般化している。それにとともに、打球スピードに対応できずに直撃を受けて大怪我をするなど、高反発バットに因ると思われる事故が多発するようになってきた。また、バットそのものの価格の高騰化や耐久性についても問題視されるようになってきた。

そこで本連盟においても、かかる対策への基礎資料を収集することを目的に、その実態を調査することとした。

2. 調査方法

2010年12月～2011年1月の期間に、全日本大学ソフトボール連盟に加入する男子152大学、女子99大学、合計251大学のソフトボール部に対し、以下のような設問構成によるアンケート調査を実施した。

- Q1. 高反発バットに因る事故等が発生する危険性を、普段どの程度感じていますか？
- Q2. 過去3年の間、練習中や試合中において高反発バットが原因と思われることや怪我がありましたか？
- Q3. 小さな事故も含めておよそ何件ぐらい発生していますか？
- Q4. 事故が発生したポジションはどこですか？
- Q5. 特に報告すべき大きな事故がありましたら具体的にお願いします。
- Q6. バットの価格が高いと思いますか？
- Q7. バットの耐久性が低いと思いますか？
- Q8. 最近の打球の伸びには、バットだけでなくボールも影響していると思いますか？
- Q9. 高反発バットに関するご意見や、事故の防止や耐久性を保たせるために行っている対策などがありましたらご自由にお書きください。

設問に対する回答は、Q1・Q6～Q8は4段階の評定尺度法、Q2とQ4は選択法、Q3・Q5・Q9は自由記述とした。

調査に対し、男子110大学、女子83大学、合計193大学から回答を得た。回答率は男子72.4%、女子83.4%、計76.9%であった。貴重なデータをお寄せいただいた回答者の皆様に、誌面をお借りして感謝いたします。

なお、集計は統計的な処理は一部に限り、「全体」・「男女別」・「過去3年間の全国大学選手権大会（以下インカレと称す）出場の有無」の3分類によるものとして概略の把握に努めた。

3. 結果と考察

3-（1）回答者

アンケートに回答した者の役職や立場は図1の通りである。

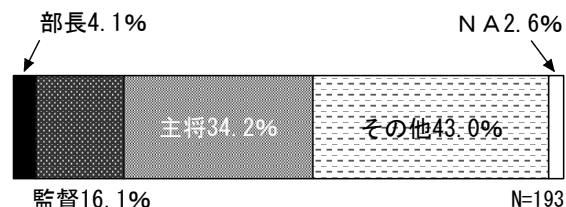


図1. 回答者

3-（2）事故の危険性の認識

危険性の認識については図2に示した（数字は%、以下同様）。

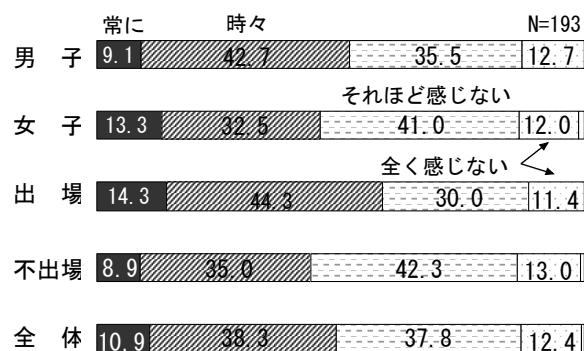


図2. 危険性の認識

図2に示したように、事故の危険性に対しては、「時々感じている」を含め「感じている」という回答と「それほど」を含めて「感じていない」という回答は、ほぼ拮抗していた。

また、男女別に危険性の認識を集計してみると、男子の場合、51.8%の過半数が危険を認識していた。しかし、それに対して女子は「常に感じている」と「時々感じている」と回答した大学は、45.8%と半数に満たなかった。このことから、危険性の認識は、女子に比して男子の方が高い傾向が認められた。さらに、過去3年間にインカレに出場したことがある大学（男子39校、女子31校、計70校）と、出場したことのない大学（男子71校、女子52校、計123校）について分類した結果、インカレに出場している大学の方が、出場していない大学に比べ、有意な差は認められなかったが、危険性の認識はるかに高い傾向を示した。

3-（3）高反発バットによる事故の発生

高反発バットにより事故や怪我の発生については、表1に示した。

表1. 事故・怪我の発生の有無
() 内%

区 分	事故怪我有	事故怪我無	計
男 子	20 (18.2)	90 (81.8)	110
女 子	8 (9.6)	75 (90.4)	83
出 場	14 (20.0)	56 (80.0)	70
不出場	14 (11.4)	109 (88.6)	123
合 計	28 (14.5)	165 (85.5)	193

表1に示した通り、過去3年間に高反発バットが原因と思われる事故や怪我は、14.5%の大学に於いて発生していた。一見してわかるように、男子の事故発生率は、女子のそれを大きく上回って2倍近い値を示した。さらに、その状況をインカレ出場校と不出場校に分けてみると、インカレ出場校のうち20.0%の大学で1回以上の事故や怪我が発生しており、出場していない大学の事故発生

率は、およそその半分の11.4%であった。これは、有意差は認められないものの、インカレ出場校の方が事故や怪我の発生が多いことが見て取れる。

3-（4）事故・怪我の延べ発生件数

一方、事故の延べ発生件数を見てみると表2の通りとなる。延べ発生件数からみれば、女子の方が男子よりも多かった。これは発生していても各大学数例以下であるが、一大学のみで半数の15件と記した大学があったからである。また、インカレ出場校の方が不出場校よりもかなり多い割合で事故や怪我が発生している状況であった。

表2. 事故・怪我の発生件数

性 別	出 場 校	不 出 場 校	計
男 子	23	18	41
女 子	30	13	43
合 計	53	31	84

3-（5）ポジション別事故発生率

今回回答のあった84件の事故件数のうち、ポジションが明確であった50件について図3に示した。

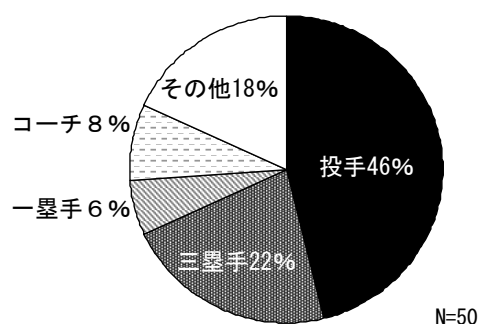


図3. ポジション別事故発生率

事故や怪我の半数近くは、投手に生じており、次いで三塁手となっている。当然のことながら、どちらも、打者の近くで守備をし、高速の打球が飛びやすいため、打球に対応できずに事故や怪我につながっているものと容易に推測できる。しかし、外野手以外のすべてポジションでも事故は発生しており、走者やコーチ・審判員にも受傷者が認められた。

また、男女別では大きな違いは認められなかつ

たが、その中で女子チームのコーチがやや多く挙げられているのは注目された。

さらに、特記すべきはインカレ出場の有無による分類で、インカレに出場していない大学では、投手の受傷が過半数を占めており、極めて多いことであった。例数が少ないことから推測の域を出ないが、これは投手力に比べて打撃力が優るという相対的な力関係によるものと思われる。

3-(6) 高反発バットの価格

高反発バット価格については、図4に示した。

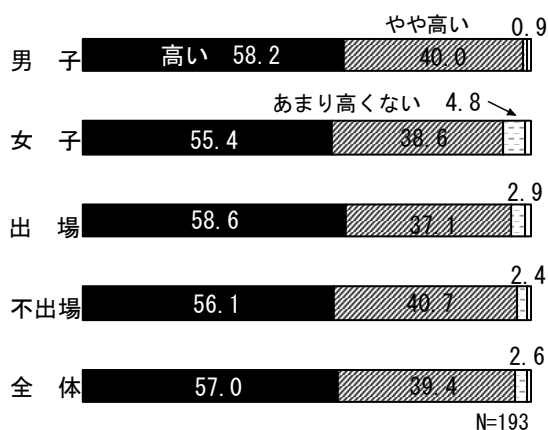


図4. 高反発バットの価格

両分類において、ほぼ同じような傾向が見られる。どのカテゴリーにおいても、「高い」・「やや高い」の合計が90%以上という高い比率での回答が寄せられており、現在の高反発バットに対して、学生あるいは学生チームとしてかなり厳しい経済的負担が強いられている状況を示していると言えよう。

(7) 高反発バットの耐久性

高反発バットの耐久性についての回答は図5に示した。

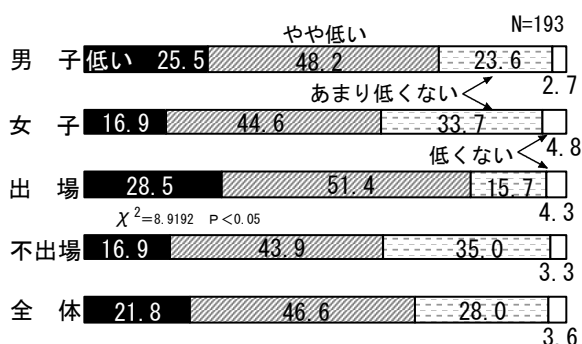


図5. 高反発バットの耐久性

全体的には「低い」・「やや低い」と回答した大学が70%前後であった。

女子でも61.5%と半数以上が耐久性が低いと感じているが、特に、男子やインカレ出場校は73.7%～80.0%と、非常に高い比率で耐久性がないことを指摘している点は注目したい。これには、男女間では有意差が認められなかったものの、出場不出場間では5%の有意水準で有意差が認められた。

3-(8) 打球の伸びに対するボールの影響

打球の伸びに対して、高反発バットだけでなくボールも影響しているかどうかについての設問については、図6に示した。

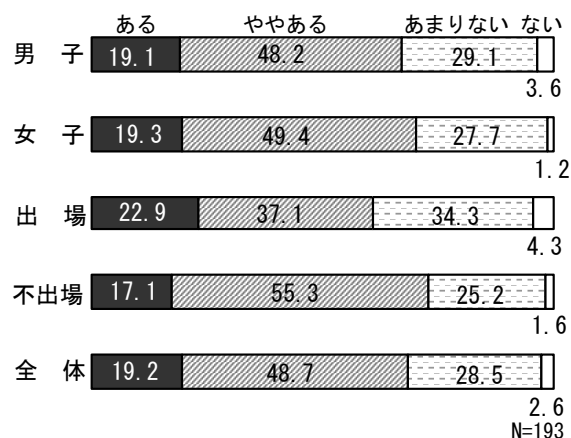


図6. 打球へのボールの影響

インカレ出場校が他と比べると、若干低い数値を示すものの、全てのカテゴリーで、3分の2以上がボールの影響を感じている状況が見て取れる。

3-(9) 大きな事故例

大きな事故や怪我の事例報告は表3の通りであるが、ここに挙げたものは代表的な事例に過ぎず、大きな事故とは言えないまでも、打撲等により練習を取りやめたり、ゲームから退場したりする例は多い。



表3. 大きな事故や怪我の代表的な事例

No.	性別	インカレ	事故の内容
1	男子	出場	試合中にピッチャーライナーが顔面に直撃(顔面打撲) し眼鏡破損 1週間の自宅療養
2	男子	出場	リーグ戦で打球が投手の右側頭部を直撃し、救急車で病院へ搬送した。異常はなかったが、メンタル面でのケアが必要であった。
3	男子	なし	ピッチャーライナーが投手の右手に当たり骨折
4	男子	なし	練習中にピッチャーライナーが顔面を直撃すて骨折により入院した。
5	男子	出場	試合中ピッチャーライナーが顔面に直撃し、眼底骨折。1ヶ月程度入院した。
6	男子	なし	三塁手の指にライナーが直撃し、骨折した。
7	女子	なし	練習試合中にサードライナーが右手の薬指を直撃し、開放性脱臼で1週間入院した。
8	女子	出場	ティーバッティングの練習中、ネットを置いていたにもかかわらず、顔面に打球を受け受診した。
9	女子	出場	ゲーム中、ピッチャーライナーが投手の右手を直撃し、打撲した。
10	男子	なし	高反発が故に作りが弱く、バットのヘッドが飛んできた。

3-(10) 高反発バットに対する自由記述の意見

高反発バットに対する自由記述の意見の主なものを表4に示した。

表4. 高反発バットに対する自由記述内容

No.	性別	インカレ	自由記述の内容
1	男子	出場	耐久性を保たせるために、マシン打撃では使用せず、対投手専用で使用している。専用ケースに入れている。ティーバッティングで使用しない。(※2)
2	男子	出場	事故防止に関しては、プレイヤーがどれだけ注意しても起きるので、現在使われている高反発バットを使っている限り防ぐのは難しい。ピッチャー側からの意見としては打球が詰まってもホームランが出るようなバットなので、ストライクゾーンを多少広くして、危険な打球を少なくするのも良いと思う。耐久性に関しては、メーカーに改良を依頼するしかない。(※1)

No.	性別	インカレ	自由記述の内容
3	女子	なし	大学からの援助が少ないため、そもそも高性能のバットを揃えることができない状況にある。部活動支援に力を入れている大学との差を感じる事もある。（※1）
4	女子	なし	ソフトボール誕生の原点に返って考え直すべきである。狭い場所でもプレーできる。安全第一に考えるべきである。経費の点を考慮しないとソフトボール人口が減少してしまう。（※2）
5	男子	出場	お金がある（高反発バットを購入できる資金がある）チームが強くなる。数年前の水着の議論と同じだと思う。純粋にソフトボールを楽しめる環境作りが必要である。（※1）
6	女子	なし	東京の女子3部では概して投手の投げるボールが遅いため、また、打撃力のある打者も少ないので、高反発バットだから危険だったという事例は少ないと思う。このクラスでは、未経験者から競技者になったプレイヤーが多いので、むしろ、革ボールの素早い反発に対処しきれず危険とを感じる場面が多くある。バットの反発力に起因する危険は、競技レベルが高いほど顕著になるのかもしれない。投手のスピードが遅いとそれほどでもない気がする。私自身がプレイをしていた頃(94～96)、革ボールの仕様変更により、打球の質が劇的に変わったことを覚えている。その後、指導者の立場になり、自分の大学にはソフトボール未経験でいきなり革ボールを扱う女子が多いので、練習の種類によってはゴムボールを併用して練習したりして、気を遣うよう心がけている。
7	男子	なし	高反発バットは高価ではあるけれど、性能がよいので、他大学が使うのであれば、使わざるを得ない。（※）
8	女子	なし	飛ぶのは良いことだが、技術だけが発達しすぎると、ソフトボールが面白くなると思う。飛びすぎないように制限をつける必要も出てくると思う。
9	男子	出場	自由打撃では投手にピッチャー返しに注意するよう指導している。危険の裏側には力のない選手でもボールが飛ばせるようになり、むしろ、ソフトボール競技を面白くさせていると思う。
10	女子	出場	高反発バットでは本来のバッティング技術を発揮することができないのではないかと 思う。（※2）

※1：同様の意見が複数出されている。

※2：多くの大学から同様の意見が数多く出されている。

4. まとめ

高反発バットについての今回の調査では、打撃力の向上、ゲームの白熱化などの競技面での面白さにつながっているという意見もみられた。しかし、それ以上に、打球の速さによる危険性の指摘が意見の大多数を占めていたと言える。実際の事故や怪我の例から考えれば、高反発バットはプレーヤーの安全を脅かす存在と言っても過言ではないだろう。

ソフトボール競技は野球以上にスピード感に溢れたスポーツであるがゆえに、ある面では野球以上の高い技術と面白さが存在するスポーツである。そうした視点から高反発バットを眺めれば、よりスピーディーで、ダイナミックなプレーを創出する道具として捉えることができる。しかし、一方でソフトボールは、誰もが楽しめる手軽なスポーツとしての側面もあり、ソフトボールの普及・発展という面から見れば、高反発バットの出現はそうしたソフトボール競技の根本的な部分を変質させる可能性を持った道具でもあるのではないだろうか。

今回の調査では、打者に近い位置で守備をせざるを得ない投手や、三塁手・一塁手、あるいはランナーコーチや審判などに打球が当たり、受傷している状況が明らかになった。こうしたプレーヤーや役割の人間が、常に打球に当たるかもしれない、大怪我をするかもしれないという不安感を抱きながらプレーをするとしたら、プレー上からも指導上からも、大きな問題としなければならないであろう。

「危険性の認識」や「事故・怪我の発生率」、「事故・怪我の発生件数」について、さらに精査してみると、次のようなことが言える。練習量の差など考慮しなければならない点は多少あるが、この調査をみる限り、男女間では女子よりも男子の方が、インカレへの出場状況という視点では、出場していないチームよりも出場しているチームの方が、いずれの項目においても高い数値を示している。

このことから、高反発バットによる事故の危険

性の度合いは、プレーにおけるパワー（スピードおよび力）、あるいは競技レベルの高さに比例しているものと推測できる。バットの反発力の点からみれば、強い力、速いスピードになるにつれ、ボールの反発力は増すのであるから、当然と言えば当然の結果と言える。しかし逆に、男子や競技レベルの高い選手は守備力の点で、女子や競技レベルの低い選手よりは高い能力を保持しているはずである。にもかかわらず、そうした選手ほど危険性が高まるというのは、本来そのスピードに対応していけるはずの技量をも超える強い反発力で打球が飛んできているということになる。換言すれば、選手が技術を向上・獲得するには、相当の努力と時間が必要になるが、そうした選手の技術を上回るバットが、いとも簡単に使用されているということである。

これまでも、スキー板や棒高跳びのポールなど、マテリアルの進歩は競技技術を革新的に進歩させてきた。その点では高反発バットも同様であろう。しかし、そのために、選手が危険にさらされるとすれば、高反発バットの開発・使用は、ソフトボールにとって望ましいマテリアルの進歩と言えるかどうか、非常に難しい判断となるのではないだろうか。

また別の側面として、高反発バットは高価であると同時に、耐久性に乏しいという面の指摘もなされた。経済的な高負担感は何の大学も感じているようであり、学生個人あるいは学生チームにとっては看過できない問題である。その中で、クラブの活動環境により高反発バットを購入できるチームとそうでないチームが出たりしているという指摘は注目すべき点である。というのも、高性能のバットであるが故に、それを使用するか否かにより、ゲームの行方や勝敗の結果そのものを左右しかねず、そのため、経済的に無理をして購入したり、耐久性を保つために試合の時にしか使用しなかったりという通常のスポーツ用具の考えからすれば、考えられないようなおかしい現象が起こっているからである。本来ソフトボールは、個々のプレーヤーやチームが対等な立場で持てる技

術や戦術を競い合うことにより成立し、そこでの多様な駆け引きや勝負に楽しさが存在しているはずである。ところが、高反発バットという高価で、高性能の道具により、勝敗が決められるとしたら、それは、純粋なソフトボール競技の中に、経済力というスポーツとは全く違う要素が混入することになり、ソフトボール競技の醍醐味を享受することはできなくなってしまうことにつながる。

高反発バットを今後、どのように扱っていくべきなのか、今回の調査から結論を導き出すことは

できない。しかし、少なくとも、高反発バットには様々な問題点が存在することだけは、ソフトボールを愛好し、現在あるいは将来、ソフトボールの指導・普及・発展に携わる私達は理解しておかなければならないだろう。そして、ソフトボールの今後を考える時には、真剣に考え、取り組まなければならないことであるということを忘れてはならないであろう。

※本論の筆者は岩間英明（松本大学）であるが、高橋伸次（高崎経済大学）が調査用紙の作成と集計を担当し、水谷博（至学館大学）が統計処理の一部と図表の作成を行った。

【研究レポート（途中経過）】

バッティングにおける「体を開く『くせ』」を持ったプレイヤーへの指導について

森 田 啓 之（兵庫教育大学）

これまで大学生にソフトボールを指導してきて感じることは、中学校・高校での経験者は、体の使い方に関して様々な「くせ」を身につけているということである。「くせ（癖）」とは、国語辞典によれば、「無意識に行う偏った言動。普通と異なった性質・傾向」とあるように、一般的・理想的状態からすれば好ましくない言動である。ただ、「くせ」は誰であってもいつの間にか身に付けて（付いて）いるため、個々人がある動きを自分のものにするうえでは不可避のことでもあるだろうし、この「くせ」が個性的な動きにもつながることも事実である。しかしながら、競技能力を向上させるうえで致命的な「くせ」は指導者として発見し、適切な対応をしていく必要があるだろう。

ところで、本学女子ソフトボール部は関西リーグの2部で活動しているものの、決して経験豊かなプレイヤーが集まっているわけではない。中学校や高校の部活動できっちりと指導を受けてきたものから、自分たちで試行錯誤を重ねながらプレイをしてきたもの、さらには全くの初心者（多種

目からのとらば一ゆ組）など様々である。したがって、ソフトボール等の部活動での様々な経験の中で身につけた「独特な体の使い方」に遭遇する。それらに対峙しながら、個性として伸ばすべき部分は大切にしながら、一方で前述の「くせ」としてマイナス要因になっている部分については、何とか修正できないものかと悪戦苦闘している。

その中の一つとして、今回はバッティング（打撃）における「体の開き」を問題にして、学生の卒業論文として取り組んでいる。野球やソフトボールにかかわる指導的立場の者であれば、強い打撃をするうえで「体が開く」ということが望ましくないことは周知のことであり、指導場面でも

「体を開くな！」という言葉をよく耳にする。

「体を開く」という状態の明確な定義は難しいが、「ボールとバットが衝突した時に、腰が投手の方向（正面）に完全に向いている」であろう。開いていると最終的に腕だけで振らねばなくなるため、特に力の弱い女子プレイヤーには深刻である。最近は大反発バットの反発が良いため、スイートスポットにさえ当てれば重い皮ボールでさえも飛ば

なくはないが、「手打ち」ではソフトボールにおける大きな楽しさである「打つ」楽しさを堪能しているとは言えないだろう。

なお、意外なことにこの「くせ」は経験者に多く、なかでも技術的にあまり指導を受けてこなかった学生に見受けられる。「悪いくせは身につけた時間の倍くらい取り去るのにかかる」などと言われるように、同じ時間練習しても大学から始めた初心者の方がきれいなスイングのバッティングになるのではと思うくらい、この「くせ」の修正は難しい。さらに、このような現象は本学学生だけに限ったことではないのである。関西リーグ女子の試合を見ても、2部以下の選手の大半がこのようなスイングをしており、1部レベルの選手においても皆無ではない。

大学に限らず、わが国において現状の部活動の大半が、自分たちで試行錯誤しながら練習を重ねているクラブである。そこには、技術認識がしっかりした指導者の手厚い指導はあまりない。つまり、自分たちで互いに技術認識をし合いながら、望ましい動作を身につけていかねばならない。そのためには、理想的な動作について解説をするとともに、多くがつまづいている事柄に対して解決ができるような情報発信も必要と考えた。なお、今回は実践者の課題にとって一助とすることが目

的であるため、「科学的」ということにこだわらずすぎないよう（ただし、科学性や客観性を無視するという事ではない）、出来る限り、平易な言語表現をしたいとも考えている。

以上のような問題意識に立って、現在、ソフトボールにおける「体が開く」という「くせ」を克服するためには、どのような指導が必要なのかについて検討をしているところである。

具体的には、以下の手順でアプローチしながら、総合的に考察を試みようとしている。

- 1) ソフトボールや野球に関する打撃動作についての捉えを文献等で明らかにする。
- 2) 「体が開く」ということをビデオ等を用いつつ、動作学的に定義する。
- 3) 体が開いているとされる運動者自身に内省（どのような意識でバッティングしているのか）を試みる。
- 4) 指導者にインタビューすることで、どのような対処法を実践しているか明らかにする。

※学部学生のモチーフ（問題意識）から出発したばかりなので、今年度は研究というレベルの成果とは程遠いですが、本稿を読んでもいただいた諸先生の意見を賜りながら、「実践的な研究成果」として公表できればと考えています。是非とも忌憚のないご意見、ご指導をお願い申し上げます。

【研究資料】 イエローボールへの変更による記録への影響について

全日本大学ソフトボール連盟広報記録部長
水 谷 博（至学館大学）

平成22年度からソフトボールの公式戦は、国際大会や日本女子リーグで使用されているいわゆる「イエローボール」と同じボールが試合球として使用されるようになった。そこで、使用されるイエローボールへの変更が試合に及ぼした影響について、インカレと東海地区大学ソフトボールリーグ戦（一部）の試合を対象に報告する。前者は第

44回（平成22年）と45回（平成23年）を、後者は試合球が変更される直前の平成21年度の春季リーグ戦と、変更直後の同年度秋季リーグ戦での試合結果のデータを比較し検討した。記録はソフトボールの記録集計ソフト、「Hi-ball」を用いて集計されたものを検討した。

なお、検討の対象としたインカレの試合数は、

男子31、女子23である。また、東海地区の一部リーグ戦は、6チームによる1回戦総当たりのリーグ戦方式で計15試合が行われた。選手は、春と秋では3分の1ほどが入れ替わっており、男子では

入替戦の結果1チームが入れ替わっていた。

インカレの打撃・守備の結果については表1に、投手については表2に示した。東海地区のリーグ戦についてはそれぞれ表3・4に示した。

表1. インカレの攻撃・守備記録の集計結果

チーム	打席数	打数	安打	得点	打点	犠打	四球	死球	三振	盗塁	残塁	本塁打	三塁打	二塁打	打撃率	守備率
44回男子打撃ホワイト	1730	1532	420	280	234	46	114	34	361	42	315	55	19	57	0.274	0.953
45回男子打撃イエロー	1667	1451	418	250	221	61	126	29	260	53	316	34	29	44	0.288	0.965
44回女子打撃ホワイト	1312	1158	322	178	155	57	31	188	49	246	410	19	20	55	0.278	0.971
45回女子打撃イエロー	1311	1120	256	92	85	89	72	30	184	33	278	2	13	31	0.229	0.976

表2. インカレの投手記録の集計結果

チーム	投球回数	打席	打数	被安打	失点	自責点	被犠打	与四球	与死球	奪三振	打妨害	被本塁	暴投	不正投	投球数	防御率
44回男子投手ホワイト	379.2	1730	1532	420	280	206	46	117	34	361	1	57	31	0	6017	3.80
45回男子投手イエロー	368.0	1667	1451	420	250	200	61	126	29	260	0	34	25	1	5812	3.80
44回女子投手ホワイト	298.0	1312	1159	301	178	134	65	58	30	188	1	19	9	0	4729	3.15
45回女子投手イエロー	319.0	1311	1120	256	92	60	89	72	30	184	0	2	4	1	4681	1.32

表3. 東海地区の攻撃・守備記録の集計結果

チーム	打席数	打数	安打	得点	打点	犠打	四球	死球	三振	盗塁	残塁	本塁打	三塁打	二塁打	打撃率	守備率
春季男子ホワイト	733	592	177	139	118	38	91	26	108	32	151	20	21	19	0.299	0.946
秋季男子イエロー	785	667	208	174	145	45	70	20	110	37	140	20	15	32	0.312	0.937
春季女子ホワイト	831	719	158	79	69	24	48	26	100	28	169	4	17	24	0.220	0.951
秋季女子イエロー	799	674	180	101	92	28	61	19	85	39	165	0	18	29	0.267	0.954

表4. 東海地区の投手記録の集計結果

チーム	投球回数	打席	打数	被安打	失点	自責点	被犠打	与四球	与死球	奪三振	打妨害	被本塁	暴投	不正投	投球数	防御率
春季男子ホワイト	147.2	733	592	177	139	112	24	91	26	108	0	20	11	7	2612	5.31
秋季男子イエロー	157.0	785	667	208	174	144	28	70	20	110	0	20	15	1	2821	6.42
春季女子ホワイト	194.1	831	719	158	79	56	38	48	26	100	0	4	2	1	2988	2.02
秋季女子イエロー	177.2	799	674	180	101	77	45	61	19	85	0	0	5	2	2851	3.03

インカレの攻撃面では、男子の打撃率はやや向上し、女子のそれはかなり低下している。男子に有意差は認められなかったが、女子は5%水準で有意差が認められた。また、長打は男女とも少なくなっており、特に本塁打の減少は顕著である。これらには男子5%、女子1%水準で有意差が認められた。しかし、男子の三塁打だけは5割ほど増加しているので、ここに、やや飛距離が落ちるというイエローボールの特徴が出たものと考えられる。守備面からみると、注目されるのは、失点の減少である。男子では1割ほどであるが、女子ではほぼ半減している。男子の防御率はまったく同じで、守備率はやや向上している。女子の防御率は大きな低下を示し、守備率はほとんど変化がない。これらのことから、得点数の減少は、攻撃力・守備力の問題であり、ボールの変更によるもの

のとは考えづらいと思われる。

一方、東海地区では、男女とも打撃率が上がっていたが、長打はほとんど変化がなかった。注目されるのは、インカレとは逆に男女とも得点数が3割近く増加している点である。守備率には変化なく防御率が1点以上低下しているので、これらのことから打撃戦が増えたものと思われる。この結果からだけでは、ボールの変更が投手力を低下させて相対的に打撃力を向上させたとは言えないが、このレベルにおいては、イエローボールへの対応不足からその要因には成り得たと思われる。

以上のように、「見やすい・投げやすい」などという感覚的な面と物理的なデータばかりでなく、実際の試合の記録の面からも、ルール変更のねらいが達成されているのかについて、検証の必要性を感じさせられた。

【研究報告】

大学男女ソフトボール選手におけるバッティング中の スイングスピードおよびスタンス幅の関係性

伊藤 皓二¹⁾ 片岡 大洋¹⁾ 亀田 亮治¹⁾ 畑 未地郎¹⁾
高橋 流星²⁾ 筒井 崇護²⁾ 利根川 勇²⁾ 小川 幸三²⁾ 船渡 和男³⁾

¹⁾ 日本体育大学体育学部体育学科 ²⁾ 日本体育大学運動方法(ソフト・野球)研究室

³⁾ 日本体育大学大学院トレーニング科学系

1. 背景

野球やソフトボール競技における打撃において、スイング速度が高いことは非常に重要である。

大藪ら¹⁾は、スイング速度と打球速度には、極めて高い相関関係があることを報告しており、ボールを強く打つことやより遠くに打つ為には、バットスイングの速度を高めることが重要であると述べられている。また、打撃技術(スキル)を決定する一要因としても非常に重要だと述べられている。

現在に至るまで、野球やソフトボール競技の打撃におけるスイング速度や、打球速度、打撃動作中の下肢、上肢の役割、または、力の加え方などに関する研究をはじめ、トレーニングが打撃動作に及ぼす影響や、各スポーツメーカーなども、バットの重量が打撃動作に及ぼす影響なども実験され、多くの研究者達が注目しているのが現状である^{1,2,4,6,7,8)}。

一方、ソフトボール競技は、1996年のアトランタオリンピックから正式種目として公認され、2008年の北京オリンピックで女子ソフトボールチームが金メダルを獲得したことは、記憶にも新しい。この金メダルを獲得した背景には、様々な要素が考えられるが、スポーツ科学の事を忘れてはならないと考えている。上記でも述べたように、野球の打撃や投球に関する研究は、非常に多く見受けられるが、ソフトボール競技に関する研究、または、大学男女ソフトボール選手を対象にした研究は非常に少なく、不明瞭な点が多い。

本研究では、自分自身のスイングスピードの速さ、また、実際の自分自身のスタンス幅はどのくらいの

距離なのか、いくつかの疑問を抱いたため本研究を試みた。また、平成23年度から文部科学省・新学習指導要領にも小学生と中学生が組み込まれてくる。そういった意味も踏まえて、本研究は、競技者にとっても指導者にとっても貴重な研究になると思う。

2. 目的

本研究は、大学男女ソフトボール選手におけるバッティング中のスイングヘッドスピードとスタンス幅の関係性について調査し、自分自身の技術向上および自分自身の指導の一助とすることを目的とした。

3. 方法

3-1 被験者

被験者は、大学男女ソフトボール選手男子18名、女子14名であり、年齢男子 20.1 ± 0.9 歳、女子 19.8 ± 0.8 歳、身長男子 171.3 ± 5.2 cm、女子 159.6 ± 3.8 cm、体重男子 68.3 ± 6.1 kg、女子 58.8 ± 9.7 kgであった(Tabel1)。被験者には、測定の内容を十分に説明した後、十分なウォーミングアップをさせた。

Tabel1.Characteristics of men's players and women's players (mean $\pm$ SD)

	n	Age(year)	Height(cm)	Weight(kg)
		mean $\pm$ SD	mean $\pm$ SD	mean $\pm$ SD
men's softball player	18	20.1 $\pm$ 0.9	171.3 $\pm$ 5.2	68.3 $\pm$ 6.1
women's softball player	14	19.8 $\pm$ 0.8	159.6 $\pm$ 3.8	58.8 $\pm$ 9.7

3-2 試技内容および測定機材

測定は、ティー台を使用し止ったボールを打つように指示した(図1)。また、測定条件を一定にするため同様のボールとバットを使用し、ソフトボールは、試合用公認球(MIZUNO150:MIZUNO社製)(図2)、バットは試合用公認バット(AX4,84cm,720g:

MIZUNO 社製) を使用した(図 3)。

打撃動作は、光学式 3 次元動作解析システム (Vicon MX-F20 : Vicon 社製) (図 4)を用いて、600fps で撮影し、3 次元動作解析を行った。

同時に、ティー台から上空約 5m にビデオカメラ (HDR-FX7 : SONY 社製) (図 5)を設置し、光学式 3 次元動作解析システムと同期して撮影を行った。

被験者は、図 6 で示したように、動きやすい服装になり帽子をかぶりランドマークを頭頂点に付けた。また、バットの先端(トップ)とブリップエンド、被験者の靴の踵とつま先(図 7)、ティー台の 3 か所、計 8 か所に反射マーカを装着した。

打撃動作は、計 8 台の Vicon カメラ(図 4)を使用して、身体および、バット、ティー台に取り付けたマーカの 3 次元座標位置を計測した。図 8~11 は、実際の測定風景である。

被験者には、打つ方向のイメージとしてセンター方向を狙い全力でスイングするように指示した。スイングは計 3 スイング行った。

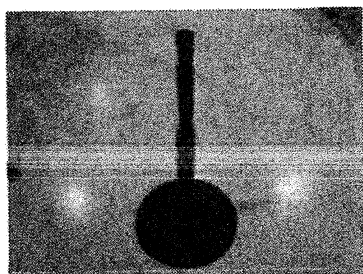


図 1.ティー台 (KENKO 社製)



図 2.使用公認球 (MIZUNO150 : MIZUNO 社製)

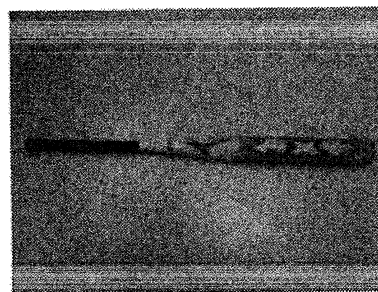


図 3.使用バット (84cm,720kg.AX4:MIZUNO 社製)

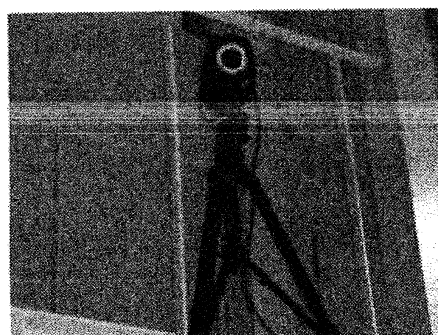


図 4.使用カメラ(光学式 3 次元動作解析システム
Vicon MX : Vicon 社製)

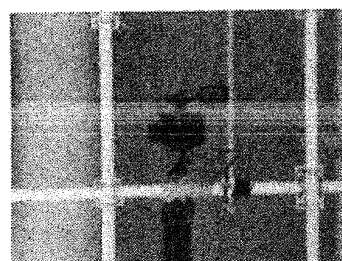


図 5.ティー台上空約 5m に設置したカメラ
(HDR-FX7 : SONY 社製)

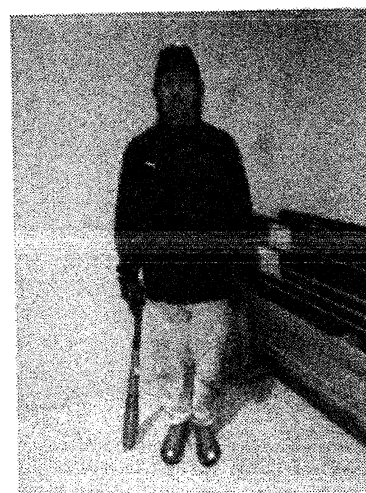


図 6. 被験者への反射マーカ箇所



図 7.靴に装着した反射マーカ

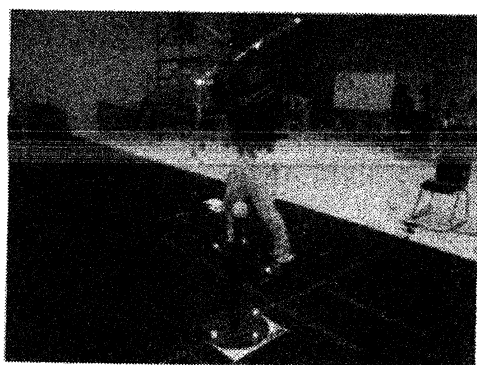


図 8.実際の測定風景 1

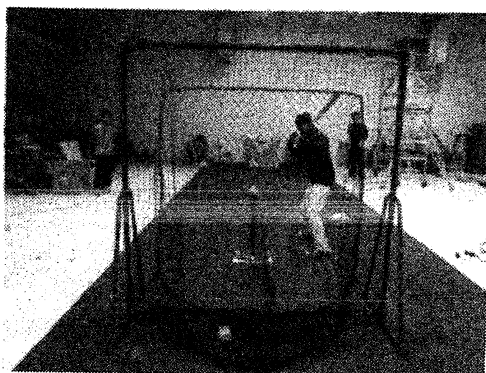


図 9.実際の測定風景 2



図 10.実際の測定風景 3



図 11.実際の測定風景 4

3-3 分析方法

Vicon カメラから得られたバットスイングの位置データを 3 次元動作分析システム (Vicon NEXUS : VICON 社製) を使用し、x、y、z におけるスイング速度の合成速度、インパクト時の速度および打者のスタンス幅を算出した。

スタンス幅は、つま先とかかとの位置座標から、足長の平均値をもとめ、右足と左足の幅をスタンス幅と定義した。また、スタンス幅は、身長に左右されることから身長比を算出した。

RAWDATA では、ノイズが激しい為、Butterworth filter(Low pass)を使用し、30Hz にて平滑化を行った。また、スイング速度とスタンス幅との関係性を見る為、Microsoft Office Excle2007 にデータを取り込み両者の相関関係を見た。

4. 結果

Table2 は、被験者が素振りおよび実打をした (各インパクト : 以下 INP、最大速度 : 以下 MAX) 時のヘッドスピード解析データの平均値および標準偏差である。男子大学生では素振り時は $INP/MAX : 125.6 \pm 10.4 / 124.8 \pm 11.1$ で、実打時は $INP/MAX : 104.1 \pm 6.6 / 129.5 \pm 7.5$ であった。女子大学生では素振り時は $INP/MAX : 105.9 \pm 5.5 / 107.1 \pm 5.7$ で、実打時は $INP/MAX : 83.0 \pm 5.4 / 108.6 \pm 4.6$ であった。

Table2. Each Head speed of men's players and women's players (mean $\pm$ SD)

	INP 素振り	INP 実打	MAX 素振り	MAX 実打
m	Head Speed (km/h)	Head Speed (km/h)	Head Speed (km/h)	Head Speed (km/h)
men's softball player	118 1.55 ± 1.04	104 ± 6.6	129 ± 11.1	155 ± 7.5
women's softball player	114 1.25 ± 0.55	83 ± 5.4	127 ± 5.7	108 ± 4.6

Tabel3 は、被験者が素振り、実打をした (INP/MAX) 時のスタンス幅解析データを平均した値である。男子大学生では素振り時は INP/MAX : 57.6 ± 7.8 / 57.5 ± 7.8 で、実打時は INP/MAX : 55.8 ± 9.0 / 55.6 ± 9.0 であった。女子大学生では素振り時は INP/MAX : 54.9 ± 11.7 / 54.9 ± 11.7 で、実打時は INP/MAX : 56.8 ± 12.1 / 56.7 ± 12.1 であった。

Tabel3. Each Stance of men's players and women's players (mean ± SD)

	INP 素振り	INP 実打	MAX 素振り	MAX 実打
m	Stance (cm)	Stance (cm)	Stance (cm)	Stance (cm)
men's softball player	118 57.6 ± 7.8	55.8 ± 9.0	129 57.5 ± 7.8	155 55.6 ± 9.0
women's softball player	114 54.9 ± 11.7	56.8 ± 12.1	127 54.9 ± 11.7	108 56.7 ± 12.1

図 13 は、実打における最大速度時のスタンス幅をグラフにしたものである。男子大学生は 55.6 cm であった。女子大学生は 56.7 cm であった。

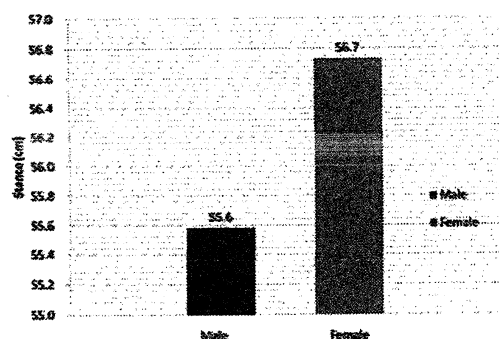


図 13. 実打における最大速度時のスタンス幅

図 14 は、実打における最大速度時の身長比のスタンス幅である。男子大学生は 32.5% であった。女子大学生は 35.4% であった。

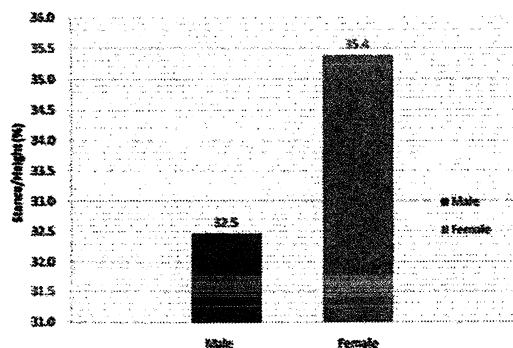


図 14. 実打における最大速度時の身長比スタンス幅

図 15 は、ヘッドスピードと体重および身長との相関関係である。体重と身長との両者共に、0.1%水準で有意な相関関係が示された。

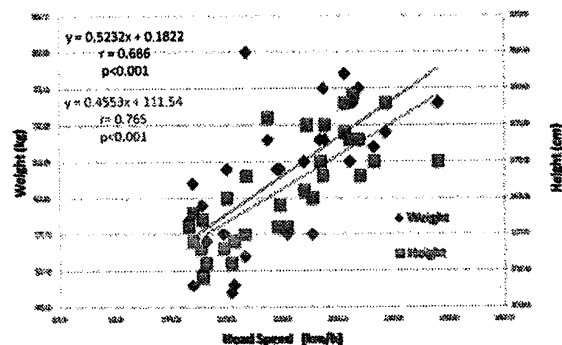


図 15. ヘッドスピードと体重および身長との相関関係

図 16 は、ヘッドスピードとスタンス幅/身長との相関関係である。男女とも、スタンス幅の身長割とヘッドスピードには、関係性が得られなかった。

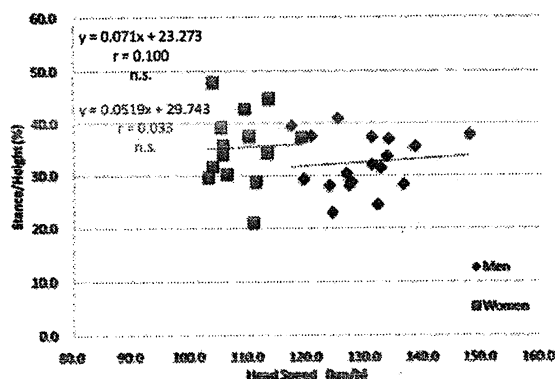


図 16. ヘッドスピードとスタンス幅/身長との相関関係

5. 考察およびまとめ

我々は、身長や体重といった身体的特徴などとヘッドスピードは関係がなく、筋力や瞬発力のある選手が速いと考えていたが、本研究の結果(図 15)より、男女共に 0.1%水準で有意な相関関係が得られたことから、身長、体重の大きさに比例して、ヘッドスピードが高い事が示された。しかしながら、本研究の被験者は、熟練者および競技レベルの高い選手であり、被験者の特性が表れた可能性も考えられる。

スタンス幅に関しては、男子の方が女子よりスタ

ンス幅が広いと考えていたが、結果では、男子大学生より女子大学生の方が広い傾向が示された。しかし、ティー台を用いて実験を行った為、試合などで実際に投手が投げるボールを打つ場合には、タイミングのとり方、脚運びなども変わってくる事が考えられ、結果が異なる可能性が考えられる。

また、図 16 のように、スタンス幅(身長割)とヘッドスピードを比較すると、男女とも両者には、有意な相関関係は得られなかった。

これは、メジャーリーグの外国人選手においては、スタンス幅が広い傾向がある。それは、下肢の筋力、あるいは、下肢を支える体幹の筋力がある為、ヘッドスピードが速く、投手からの速球に対応する事ができると考えられる。

一方、日本人選手や身体の小さな欧米人などは、スタンス幅を狭くして、下肢および身体の回転速度を向上させ、高いヘッドスピードを得ているのではないかと推察される。

しかしながら、高いヘッドスピードを得たとしても打撃は成立しない。ボールに確実にミートする能力がなければ良い打者とは言えない。また、走力もなければ、たとえヒット性の打球を打ったとしてもアウトになってしまう場合も考えられる。また、体重が極度に重すぎると走力低下に繋がるため、実戦では一概に体重がおもければ良いというものではない。

最後に、ソフトボール競技は、遠くに打球を飛ばせる能力は必要不可欠であり、遠くに飛ばす為にはヘッドスピードの向上が必要である。平野ら⁴⁾の報告でも、バットスイングのスピードは打球飛距離に比例することからヘッドスピードの向上は、勝利へのカギとなりえるものだと考えられる。

これからの課題としては、打撃動作の競技力向上の為のトレーニング方法の確立および指導方法の検討をしていければと考えている。また、実戦におけるスイング時のスタンス幅は、ティーバッティング時とは異なる可能性がある為、今後研究を行うことでより効果的な練習方法が確立されるのではないだろうか。そして、より多くの選手を測定することによって、スタンス幅の適正距離を算出できる換算式

の開発も行っていきたいと考えている。

以上のことから、本研究の結果をふまえて自身自身の競技力向上および評価方法の一助、または、指導法の一知見として役立てていきたいと思う。

6. 参考文献

- 1) 大藪由夫,高橋邦郎,須藤芳樹,佐藤宣紘,和田忠:野球におけるバッティングの動作分析,日本体育学会大会号(31),648,1980-10-11
- 2) 平山大作,白木仁,藤井範久,阿江通良,宮川俊平,向井直樹,八十島崇,宮永豊:投球数の増加による上肢及び下肢動作の変容,体力科学 52(6),975,2003-12-01
- 3) 島田一志,阿江通良,藤井範久,功力靖雄,前田健,結城匡啓,川村卓:野球の投球動作における体幹の動きのバイオメカニクス的研究,日本体育学会大会号(48),339,1997-08-29
- 4) 平野裕一,宮下充正:野球の打撃の研究(5.キネシオロジー,I.一般研究),日本体育学会大会号(29),327,1978-12-17
- 5) 平野裕一,宮下充正,大道等:バッティングの運動力学:スイング前後の動作の再現性について,体力科学 28(4),363,1979-12-01
- 6) 児玉公正,大貫克英,林恭輔,中山悌一,和田匡史,石井喜八:野球打撃動作の各身体部位およびバットスイングの角速度関係,日本体育学会大会号(50),722,1999-09-15
- 7) 小池関也,川村卓,阿江通良:野球打撃動作における四肢関節トルク・パワー,symposium on sports engineering:symposium on human dynamics 2006,110-115,2006-11-08
- 8) 川村卓,島田一志,高橋佳三,森本吉謙,小池関也,阿江通良:野球の打撃における上肢の動作に関するキネマティクスの研究:ヘッドスピード上位群と下位群のスイング局面の比較,体育学研究 53(2),423-438,2008-12-10



【東京都学連活動紹介】

第1回体力測定会レポート

大学男子ソフトボール選手における身体的および体力的特性

石井新菜¹⁾ 高橋流星²⁾ 山内亮³⁾ 小川幸三²⁾ 吉野みね子⁴⁾

¹⁾ 専修大学文学部 ²⁾ 日本体育大学運動方法(ソフト・野球)研究室

³⁾ 日本体育大学トレーニングセンター ⁴⁾ 東京女子体育大学

1. 背景

文部科学省では、昭和39年以来、「体力・運動能力調査」を実施して、国民の体力・運動能力の現状を明らかにし、体育・スポーツ活動の指導と、行政上の基礎資料として広く活用されるようになった。平成11年度の体力・運動能力調査から導入された「新体力テスト」は、国民の体位の変化、スポーツ医・科学の進歩、高齢化の進展等を踏まえ、これまでのテストを全面的に見直して現状に合ったものに改良がなされ、現在では、多くの分野から重要視されている。

(財)日本ソフトボール協会は、体力測定の必要性や重要性を深く重んじ、全日本代表選手の選手選考会時などでも体力測定を実施し、一流日本代表選手の身体的および体力的特性の報告などもなされてきている。また、競技力および競技成績の向上、または、タレント発掘の一助として利用され始めている。そのような背景に加え、記憶にも新しい北京オリンピックで団体競技唯一の金メダルを獲得した結果も、一要因と言える。

しかしながら、一方で、女子ソフトボール競技は、技術面や精神的な要素が占める割合の高いスポーツであり、体力は、パフォーマンスに貢献するにもかかわらず、その関係性は、直接的ではないという考えもある。

東京都大学ソフトボール連盟は、学生スポーツの精神を遵守し、大学ソフトボールの普及と発展を図ることを目的とし、その目標達成のために、競技会や講習会の開催、研究等の推進を事業としている。そおで今回、東京都大学ソフトボール連盟に所属している男子大学生を対象に、体力測定および競技能力テストを行い、その結果を本研究

の対象とした。

本研究にて得られる成果は、大学男子ソフトボール選手の身体的および体力的特性を明らかにすることにより、選手各々のトレーニング方法の改善や、科学的な思考に基づいた、タレント発掘や育成のための基準にもなり、尚且つソフトボール競技の国際的競技力の向上につながることが期待できる。

【協力】日本体育大学ソフトボール部、日本体育大学トレーニングセンター

【日時】平成22年12月11日（土）10：00～12：00

【場所】日本体育大学世田谷キャンパス

2. 目的

本研究の目的は、東京都大学ソフトボール連盟主催で実施した体力測定結果を用い、大学ソフトボール選手の身体的および体力的要素を明らかにすることと、ソフトボールに関する研究・調査を推進に加え、身体作りが重点的に行われるシーズンオフ入り時期に「体力測定」を行う事で現状と課題を把握し、トレーニング計画を立てるための客観的な判断材料を提供することを目的とする。

3. 方法

3-1 対象者

対象者は、東京都大学ソフトボール連盟に所属している男子大学生37名であった。被験者の身体的特徴は表1に示す。

3-2 測定および調査内容

- 1) 形態計測 身長・体重・身体組成・指極長
- 2) 新体力テスト 握力・背筋力・上体起こし・長座体前屈・反復横とび・立ち幅跳び
- 3) 競技特性テスト メディシンボール後方投げ・遠投・30m走

表1. 被験者の身体的特徴(平均値±標準偏差)

	n	年齢			身長(cm)			体重(kg)		
		平均値	±	SD	平均値	±	SD	平均値	±	SD
大学男子 ソフトボール選手	37	20.4	±	0.9	169.6	±	5.4	66.3	±	7.2

3-3 測定方法

3-3-1 身体組成

身体組成は、体組成計(TANITA社：インピーダンス法)を用いて、体脂肪率(%)、脂肪量(kg)、除脂肪量(kg)を計測した。学生は、裸足になりできるだけ身軽な格好になり測定を行った。

3-3-2 筋力測定(静的筋力)

握力：握力計(竹井機器工場株式会社製)を用いて左右それぞれ測定した¹⁾。

背筋力：背筋力計(竹井機器工場株式会社製)を用いて測定した¹⁾。

3-3-3 パフォーマンステスト

3-3-3a 疾走能力(30m走)

疾走能力は、文部科学省新体力テスト(12～19歳)の実施要項の50m走を30m走に変更し、他の部分は新体力テストに則り測定を行った¹⁾。

3-3-3b 敏捷性

反復横跳び及び立ち幅跳び：文部科学省新体力テスト(12～19歳)の実施要項に則り測定を行った¹⁾。

3-3-3c 筋持久力

上体起こし：文部科学省新体力テスト(12～19歳)の実施要項に則り測定を行った¹⁾。

3-3-3d 柔軟性

長座体前屈：長座体前屈計(竹井機器工場株式会社製)を用いて測定した¹⁾。

3-3-3e 投力

遠投：公認球(ミズノ社製150)を使用し、基準線の後方2m地点にラインを設け、この後方2mラインから基準線までの2mの間で助走(ステップ)を行わせた。助走後に最大努力での遠投を行い基準線からボールが落下した地点までの直線距離を計測した。1回の練習試技の後に、2回の本番試技を行った。

メディシンボール後方投げ：投球する方向に背中

を向け、基準線にかかとを合わせ立ち、ステップをせず、体の反動を使い4kgのメディシンボールを、ボールが頭上を通過するよう最大努力で後方に投球させた。基準線からボールが地面に落下した地点までの距離を測定した。1回の練習試技の後に、2回の本番試技を行った。

4. 結果

表2は、各項目における測定結果(平均値±標準偏差)である。

表2. 各項目における測定結果(平均値±標準偏差)

測定項目	単位	平均値	±	SD
大学男子ソフトボール選手	人	37		
指極長	cm	173.2	±	7.5
体組成				
体脂肪率	%	11.3	±	2.9
脂肪量	kg	7.6	±	2.6
除脂肪量	kg	58.1	±	5.3
長座体前屈	cm	49.6	±	8.9
上体起こし	回	32.2	±	2.8
反復横跳び	回	64.2	±	5.0
背筋力	kg	151.5	±	24.8
握力				
(左)	kg	45.4	±	5.9
(右)	kg	48.1	±	6.3
メディシンボール投げ	m	9.70	±	1.60
遠投	m	56.3	±	7.2
立ち幅跳び	m	2.35	±	0.15
30m走	秒	4.64	±	0.14

5. 考察およびまとめ

今回の体力測定では、男子を対象に測定を行っ

た。定期的にこのような測定を行う事により、コンディショニングの客観的評価や、トレーニング方法やトレーニング効果を検討するための判断材料として利用出来ると考えられる。

また、女子や、ポジション別での比較、各競技レベルに分けて比較する事により、ソフトボール競技に特化した競技特性や新たな評価方法の検討などが可能になる事が推察される。

今後、東京都大学ソフトボール連盟の事業として発展させ、このような取り組みを継続させていきたい。

6. 参考文献

- 1) 文部科学省：新体力テスト(12～19歳)実施要項
- 2) 船越一彦, 細野信幸, 宮崎雄三：本校学生の学年進行における体力変化について：新体力測定による高校生との比較, 鈴鹿工業高等専門学校紀要 36, 19-23, 2003-01-31
- 3) 前川剛輝, 柳澤修, 船渡和男：プロ野球選手および一流女子ソフトボール選手における体力的特徴の検討(生理学的研究/その他, 一般口演, 第60回日本体力医学会大会), 体力科学 54(6), 648, 2005-12-01
- 4) 柳澤修, 前川剛輝, 船渡和男：プロ野球選手および一流女子ソフトボール選手における形態的特徴の検討(形態・体構成, 一般口演, 第60回日本体力医学会大会), 体力科学 54(6), 542, 2005-12-01
- 5) 岩垣光洋, 山本利春, 成澤三雄：ソフトボール選手における素早い動きの評価とパフォーマンスとの関係(その他), 体力科学 51(6), 809, 2002-12
- 6) 瀧澤哲也, 中村康雄, 林豊彦, 駒井正彦, 信原克哉：子供と大人の投球動作の動力学的・運動学的解析, 電子情報通信学会技術研究報告. MBE, MEとバイオサイバネティックス 106(592), 1-4, 2007-03-09
- 7) 島田一志, 阿江通良, 藤井範久, 功力靖雄, 前田健, 結城匡啓, 川村卓：野球の投球動作における体幹の動きのバイオメカニクス的研究, 日本体育学会大会号 (48), 339, 1997-08-29
- 8) 島田一志, 阿江通良, 藤井範久, 高橋佳三, 尾碕哲郎：野球の投球動作における体幹および下肢の力学的仕事, 日本体育学会大会号 (51), 252, 2000-08-25
- 9) 平山大作, 白木仁, 藤井範久, 阿江通良, 宮川俊平, 向井直樹, 八十島崇, 宮永豊：投球数の増加による上肢及び下肢動作の変容, 体力科学 52(6), 975, 2003-12-01
- 10) 井尻朋人, 宮下浩二, 浦辺幸夫, 藤川博樹, 武本有紀子：体幹アライメントが投球時の肩関節運動に与える影響, 体力科学 58(1), 73-80, 2009-02-01

第1回ピッチング講習会レポート

【目的】東京都の大学におけるソフトボール競技力の向上とリーグの枠を超えた交流を図る

【背景】大学におけるピッチング専門の指導者不足や加盟チームからの要望に応えるため

【日時】平成22年3月26日(土)13:00～16:00

【場所】日本体育大学 世田谷キャンパスソフトボール場

【講習会内容】

1. 講義 (13:00～14:00) [高橋流星先生]

ソフトボールのウインドミル投法における姿勢の大切さ」

2. 実技指導 (14:10～16:00)

- *ランニング・体操・ストレッチ(各自で15分間)キャッチボール
- *高橋速水さんによるデモンストレーション
→体の使い方や変化球の握りの説明
- *男女に分かれて実技指導
基本的に二人一組で投げ合っているところを順

々に見て回る形

＊最後はクールダウン、まとめ。

◇男子講師：高橋流星先生、高橋速水さん

＜目標＞フォームのチェック・変化球の投げ方を覚える！

- ・個人的にフォームのチェック
- ・チェンジアップ、ライズ、ドロップの投げ方を実演しながら指導

◇女子講師：利根川勇先生

＜目標＞初心者に向けた基礎的な知識や練習方法を身につける！

- ・ウインドミル投法の基本的な体の使い方や、理論の説明
- ・どうしたら球速が増すか、などの説明
- ・二人一組で出来る初心者の練習方法

◇今回講師を引き受けてくださった講師の先生方から一言

利根川勇先生[日本体育大学女子監督]

- ・今回得た知識や技術を是非各チームに持ち帰ってこれからの練習の糧にしてほしい。
- ・一つでも二つでも得るものがあつたのならばこの講習会に来た意味があつたと思います。
- ・このような機会をもっと増やしていけたらいいと思います。

高橋流星先生[日本体育大学男子監督]

- ・中学生や高校生と違い、ある程度投げられるようになっていけると、修正していくのは難しいです。
- ・ソフトボールの勝敗の9割はバッテリーです。バッテリーのレベルを上げる事によって東京都の大学の競技力向上にもつながります。なので、機会があれば継続して指導していきたいと思い

ます。

高橋速水さん[日本体育大学男子コーチ]

- ・みなさんのソフトボールに対する気持ちがどれだけあるか。というのが聞きたいです。やる気があつて一生懸命に取り組む姿勢が見える人には、こちらもしろんな事を教えたいですし、東京都をはじめとしてソフトボールの競技レベルをアップさせるためにも大事な事だと思います。

運営役員より

初めての試みでしたが、58名と多くの選手に参加いただき嬉しい気持ちでいっぱいでした。天候にも恵まれ日本体育大学の皆さまの全面的な協力により無事に実施することが出来ました。アンケートからは「今後の練習に活かしたい」、「今日教えて頂いたことをものにしたい！」と、とても前向きな感想が聞けました。何よりも、受講生と先生方の真剣な眼差しと一生懸命に取り組む姿がとても印象的でした！

また、講習会の運営という経験は大変勉強になりました。第2回ピッチング講習会のリクエストやバッティングなどの講習会実施に対しての要望も多く、講師の方々のコメントにもありますように、東京都の競技力向上のためにも、これから当連盟が講習会を企画し実行していく必要性を感じました。

最後に、講師を引き受けて下さりました利根川勇先生、高橋流星先生、高橋速水さん、運営を手伝ってくださった部員の皆さま、グラウンドを提供して下さいました日本体育大学の皆さまに厚く御礼申し上げます。

(文責：石井新菜、今井ちはる)

第1回 ソフトボールセミナーレポート

【背景】東京都ソフトボール大学連盟は「学生スポーツの精神を遵守し、大学ソフトボールの普及と発展を図ること」を目的とし、その目標達成の

ために、競技会や講習会の開催、研究等の推進を事業としている。

【目的】「大学ソフトボールの普及と発展」とい

う当連盟の目標を達成するために代表チームに帯同されていたサポートスタッフを講師として招き、トップレベルの取り組みを知り、加盟大学同士の交流を深めるために講習を行う。

【会場】日本体育大学 世田谷キャンパス

【日時】平成22年11月27日(土)14:00~17:00

【セミナーテーマ】 データ分析を知る ソフトボールにおける“データ分析”とその活用ー

【講師紹介】日本ソフトボール協会情報分析担当
ふくしま あつし
 福島豊司先生

2004年から日本ソフトボール協会にて「情報分析」を担当。ナショナルチームスタッフとしてアテネ・北京五輪に帯同。専門は情報分析とスポーツバイオメカニクス

【講義内容】

～北京オリンピック 金メダルへの“キセキ”～

1. コーチングについて

- ・コーチングとは？
- ・“チーム”と“ワーク”
- ・強いチームをつくるには？
- ・年間計画の立て方
- ・試合後のMTGで話すべきこと
- ・A4の紙一枚で簡単に試合を振り返る方法

2. データ分析について

- ・アウトとランナーのパターンは全部で何通り？
- ・注意すべきシチュエーションは

3. 日本ソフトボール協会の取り組み

- ・世界と戦う日本代表チームの活動
- ・北京五輪に向けたアメリカチームの分析結果

◇質疑応答～回答者～

福島豊司先生<データを集めて分析し、情報提供する立場として>

日体大男子ソフトボール部監督高橋流星先生<提供された情報を基に采配する立場として>

◇質問と回答（一部抜粋）

Q：男子が世界で勝つために必要なものは？

A：早急な課題としては投手力。130km/h以上のライズを持ち、完投出来る投手が複数いること。

Q：マネージャーがチームのために出来る事は？

A：チームのマネジメント。ビデオ撮影の他に収集するデータとしては、まず、打球方向を記録することがお勧めです。

Q：簡単に出来る動画の活用法は？

A：センターから撮影する事で、配球とバッティングフォームの確認が出来ます。また、試合だけではなく練習中も撮影する事で、自分の守備の動きも客観的に把握する事が出来ます。

第一回学連セミナーを開催するにあたって

東京都大学ソフトボール連盟副委員長

今井 ちはる(日本体育大学4年)

今回この会が開催されるまで様々な事がありました。題のとおり第一回ということで、前例のないゼロの状態からスタートしました。決まっていたことは、大学連盟として大学生を対象にソフトボールの普及と発展を図る、ということだけでした。大学連盟として何が出来るのか、学生が何を求めているのかなど、現状を把握することから始め、理想と現実の差を見たこともありました。大学生といっても東京都には1部から4部まで幅広いレベルの選手がいる中で、全員に対して同じ内容で何かをするというのはとても難しいことでした。

講義内容は「データ分析」についてとなった訳ですが、今回講師としてご協力くださった福島先生も一緒に、どのようにすれば学生が興味を持つのか、うまく伝わるのか、これをきっかけに情報分析を考えてもらえるようにするにはどうすればいいのか。など打ち合わせを入念に行いました。試行錯誤の結果、今回のような形となりました。その効果というのはすぐにはわかりません。受講者がどう感じ、何を得て、これからどう行動していくのか。こういう形でもソフトボールに関わることができるんだというのを初めて知ったかもしれません。ここからソフトボールについてさらに深く考えてもらう機会となれば嬉しく思います。

もっと大切なのはこれをきっかけに、第2回、3回と続けていくことだと思います。その中で失

敗や成功を繰り返し、回を重ねるごとにより質の高いものを作り上げて初めて、この取り組みは「成功した」といえるのではないのでしょうか。

また、同時に東京都学連の活動を全国に呼び掛けるきっかけになったともいえます。これからのソフトボール界を盛り上げ、支えていくべき大学生の活動を知ってもらい、ソフトボール界がさらに盛り上がることを願っています。

今回のセミナーを通して、運営の大変さ、事前準備の重要性など様々な事を学びました。大変な

こともありましたがこれらが出来たのは、ソフトボールが好きという気持ちと同じ気持ちを持った仲間がいたからだと思います。

最後になりますが、今回快く講師を引き受けてくださった福島先生をはじめ、会場、その他多岐にわたりご協力して下さった日本体育大学の高橋先生、セミナーの運営にご協力して下さった全ての方々に感謝申し上げ、役員の言葉とさせていただきます。

ソフトボール指導法の情報交換会開催報告

大阪大谷大学 児玉 公正

指導法の情報交換会が開催され、その概要を報告させていただく。開催は平成21年の1月で、少々時間が経過した企画であることをお詫び申し上げる。

会の趣旨は、大学ソフトボールの指導に携わる有志がソフトボールの普及・発展の一助を目的とした指導方法の研究、情報交換・親睦に取り組むことにあった。これは、日本体育大学・小川幸三先生が長らく暖められていたプランの一つでもあり、将来は研究会に発展することを願い企画された。当時の大学連盟理事長・末井健作先生のご了解のもと、開催日時が迫っていたこともあり、大学の大会等でご縁のある方にひとまずお声かけさせていただいて開催にこぎ着けた。

内容は以下の通りであった。

●日時：平成21年1月10日（土）14：30～20：00

●場所：園田学園女子大学・会議室（園田学園女子大学ソフトボール部員が運営補助）

●出席者（敬称略）：小川幸三・高橋流星（日本体育大学）、板谷明彦・木田京子（園田学園女子大学）、舟山健一（東北福祉大学）、高橋知美（富士大学）、矢澤久史（東海学院大学）、二瓶雄樹（中京大学）、久保田豊司（大阪国際大学）、児玉公正・貫名 譲（大阪大谷大学）

●企画内容：

1. 開会・会の趣旨説明；小川幸三（日本体育大学）
2. パネルディスカッション① 女子大学選手の指導で大切にしていること；板谷昭彦座長（園田学園女子大学）
3. パネルディスカッション② 対戦相手の分析手段；舟山健一座長（東北福祉大学）
4. 研究会設立に向けた意見交換会；児玉公正座長（大阪大谷大学）
5. 参加者の懇親会；学連会長・一谷宣宏氏（園田学園女子大学）のご厚意による懇親会開催の案内が直近であったにも関わらず、当日は活発な議論がなされた情報交換会となった。

文部科学大臣杯第45回全日本大学男子ソフトボール選手権大会

会期：平成22年9月9日(木)～9月12日(日)

会場：富山県富山市／富山県岩瀬スポーツ公園・婦中スポーツプラザ

大会概要

環太平洋大学(岡山県) 創部4年目で初優勝!!

大会記録長：常岡昇

今年で45回目を迎えた大会は、勇壮な立山連峰を望む富山県富山市・富山県岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場、婦中スポーツプラザにおいて、各ブロック予選会を勝ち上がった32チームの精鋭が参加して開催された。

富山市は、「立山おおぐ特等席。富山市」をキャッチフレーズにし、また、全国初の本格的なLRT(次世代型路面電車システム)が運行されるなど、公共交通を軸に豊かな自然・伝統文化が融合した魅力あふれるまちです。

今年の天候を象徴するように30度を超す猛暑の中行われた試合は、最終日の午前中、雷雨に見舞われたが、約3時間試合開始時刻を遅らせて始め、日没までに決勝戦が終了して全日程を無事に終えることがた。

試合は、約半分の15試合がコールドゲームとなったが、ベスト4には、初優勝を狙う環太平洋大学、関西大学、同志社大学と18年ぶりの優勝を狙う中京大学の西日本勢が進出した。

決勝は、初優勝を狙う環太平洋大学と同志社大学となり、硬さからか5失策と守備の乱れが目立ったが、初回から先行した環太平洋大学が創部4年目で念願の初優勝を飾った。

なお、この大会通算1,000本塁打目を日本体育大学・深谷祐太が達成した。

印象に残った選手

打者では、環太平洋大学・木谷謙吾の打撃率0.667、11出塁、松崎洸平の6打点、11出塁、関西大学・原田大樹の3本塁打、6打点、打撃率0.545、川口拓馬の7打点、同志社大学・木山龍介、永見哲と関西大学・瀬戸護の打撃率0.500、投手では4

完投5勝、防御率0.70の環太平洋大学・嶋田智希、同志社大学・垣迫辰也の5完投4勝、31回40奪三振、防御率1.35、京都産業大学・内海裕也の12回12奪三振、防御率1.17、関西大学・藤井優人の防御率1.33、中京大学・深津悠平の防御率1.68が光る。

大会講評

ベスト4を西日本勢が独占 新時代の到来か

北信越地区常任理事 黒田重靖

今年のインカレは北陸の地、富山市において初めて開催された。北陸での開催は平成7年の福井市での開催以来実に15年ぶりである。開会式は、富山県総合体育センターにおいて行われ、整然とした中にも華やかさのあるものであった。

10日は第1回戦のみ16試合であったが、組合せの妙で、強豪同士の試合もあり見応えのある好試合もあった。2日目の11日は、2回戦と準々決勝戦であり、この2試合をいかに勝ち抜けるかが栄冠へ最大の難関となっている。ベスト8に勝ち上がったのは東京と近畿が各3、東海と中国が各1であった。準々決勝戦は意外にもすべて大差の試合となったが、ここで東京勢はすべて姿を消した。これは14年ぶり6回目のことであり、日体・国士・早稲田で10年続いた東京勢の優勝はなくなった。

12日の準決、決勝戦は雨で3時間遅れて始まり、いずれの試合も微妙なところで展開が変わる白熱した緊迫感のある試合で、多くの感動をもたらした。結局、決勝戦では環太平洋大学が創部4年目にして初の全国制覇を成し遂げた。記録にある様に攻守共にすばらしいチームであった。まだまだ力の差はあるものの、桜美林や四天王寺などの台頭もあり、新しい力を感じた大会でもあった。

大会結果

	10日(金)	11(土)	12日(日)	
1. 国 士 舘 大 学(45)	5	11		
2. 福 岡 大 学(37)	1	0		
3. 愛 媛 大 学(10)	4	0		
4. 国 際 武 道 大 学(18)	5		2	
5. 神 戸 学 院 大 学(20)	10	5	5	
6. 広 島 工 業 大 学(6)	3	15		
7. 中 央 大 学(22)	2			
8. 環 太 平 洋 大 学(4)	9			4
9. 立 命 館 大 学(29)	7	2		
10. 香 川 大 学(10)	0	8		
11. 関 西 大 学(34)	8	4	1	
12. 崇 城 大 学(2)	1			
13. 四 天 王 寺 大 学(2)	5	7		関西大学
14. 富 山 大 学(12)	0	1		
15. 仙 台 大 学(24)	1	0		
16. 愛 知 教 育 大 学(2)	3			
17. 桜 美 林 大 学(3)	5	4		
18. 広 島 経 済 大 学(18)	0		0	
19. 中 京 学 院 大 学(7)	9	2		
20. 盛 岡 大 学(10)	2			
21. 同 志 社 大 学(30)	15	6	2	
22. 愛 知 学 院 大 学(12)	0	9		
23. 高 崎 経 済 大 学(26)	8	3		
24. 名 桜 大 学(4)	0			
25. 中 京 大 学(40)	4			同志社大学
26. 城 西 大 学(17)	1	6		
27. 日 本 体 育 大 学(45)	9	5	7	
28. 日 本 経 済 大 学(初)	0			
29. 東 京 理 科 大 学(14)	2	1	1	中京大学
30. 京 都 産 業 大 学(32)	9	0		
31. 早 稲 田 大 学(45)	5	5		
32. 熊 本 学 園 大 学(16)	1			

環太平洋大学
(初優勝)

※ () 内は出場回数で、校名変更のあった大学は以前の名称での出場も含む。

試合結果

▼第1日（9月10日）1回戦

福岡大学 0100000 : 1
 国士舘大学 002021x : 5

[福] ●小野武人、橋本友也ー田中宏治
 (三)戸川天伍

[国] ○島田将季ー井上朋彦
 (本)本多亮介 (三)今泉信吾

【評】地力で勝る国士舘大学が逆転で2回戦進出。

1点を追う国士舘は3回3安打と敵失により逆転。5回には、二塁に走者を置いて今泉の三塁打と久保の安打で2点。6回には、代打本多のダメ押しとなる本塁打で勝利を収めた。

愛媛大学 0000400 : 4
 国際武道大学 201010x : 5

[愛] ●板本成弘ー野曾原陽一
 (本)松山祐也

[国] ○森井孝圭ー多田 光
 (本)大石英人 (二)池田正平、多田光

【評】国際武道大学、接戦を制し、2回戦に進出。

1回大石の2点本塁打で先制し、3回にもそつなく得点を挙げた国際武道大は5回に愛媛大松山の2点本塁打などで4点を失い逆転されたが、その裏3安打と敵失により2点を奪い再逆転で逃げきった。

広島工業大学 111000 : 3
 神戸学院大学 300133x : 10

[広] ●藤重雄大ー向 晃介

[神] ○片岡正貴、川島正敬ー赤木悠生
 (三)西角和馬、野上涼平
 (二)秋山浩平、西角和馬

【評】神戸学院大学、逆転コールドで2回戦進出。

3回まで同点で進んだ試合は、5回裏神戸学院大西角の二塁打を皮切りに1四球をはさみ3安打で3点。6回には北村が内野安打で出塁すると西角の三塁打、河原四球後、野上の三塁打でコールド勝ちした。

環太平洋大学 00081 : 9
 中央大学 10001 : 2

[環] ○嶋田智希、奥川洸平ー平本拓朗

(本)佐伯忠昭、山城 渉 (三)吉國卓哉
 (二)松崎洸平、能瀬元樹

[中] ●大野浩輔ー川原 悠

【評】環太平洋大学が逆転で2回戦進出！

1点をリードされた環太平洋大は、4回佐伯の本塁打で同点とした後、3長打を含む6安打でこの回一挙8得点。5回には両チーム1点ずつ加えたがコールドゲームとなった。

香川大学 000000 : 0
 立命館大学 103102x : 7

[香] ●中野明弘ー森田翔太郎

[立] ○小川晃平、古賀元気、島辰哉ー頭山翔一、
 藤川拓郎

(本)林 卓磨、藤川拓郎、越智洋平

【評】立命館大学圧勝！

初回、1点を先制した立命館は3回裏、林の本塁打を含む打者一巡の猛攻で3点を追加。その後、6回藤川、越智が本塁打を放ちコールド勝ちした。

崇城大学 00010 : 1
 関西大学 40301x : 8

[崇] ●村枝友弥ー玉城広大

(本)柴田一樹

[関] ○藤井優人、西耕太郎ー瀬戸 護

(本)川口拓馬

【評】関西大学快勝で2回戦進出！

1回裏川口の3点本塁打などで一挙4得点。3回は、2四球2安打で3点 5回にも2安打、2四球により1点を加え、関西大は崇城大にサヨナラコールドで圧勝した。

富山大学 0000000 : 0
 四天王寺大学 202100x : 5

[富] ●三浦直也ー田口寛道

(三)富居秀晃

[四] ○中松竜佑ー宇都宮佑

(二)川岸将大

【評】四天王寺大学が打力に勝り2回戦進出！

1回二死から川岸・畑中の長短打で1点を先取

すると敵失と長崎の安打でこのさらに1点。3回には、中辻の四球から小技がさえ、長崎、宇都宮の安打で2点を追加、試合を決定づけた。中松投手は要所を抑え完封勝ちした。

愛知教育大学 0010002 : 3
仙 台 大 学 0001000 : 1

〔愛〕○安井亮博ー秋久真哉

〔仙〕●小板橋 一央ー須藤智洋
(二)児玉 文洋、須藤智洋

【評】愛知教育大学接戦を制し2回戦進出！

同点で迎えた7回表、愛知教育大は久米田の安打に野選が絡み宇野の内野安打で満塁、関が四球を選び勝ち越し、保田の安打で2点差とした。安井投手は仙台大を1点に抑え完投勝ちを収めた。

広島経済大学 0000000 : 0
桜 美 林 大 学 100040x : 5

〔広〕●池田将太ー山崎浩平
(三)崎本 瑛

〔桜〕○風間祐貴ー長谷川竜太
(三)辻野秀平 (二)長谷川竜太

【評】攻守に勝る桜美林大学が2回戦へ！

1回四球の走者が、敵失、暴投により1点を先制。5回には、一死二、三塁の好機に長谷川の二塁打で2点。さらに犠打エラーと竹本の安打でこの一回一挙4得点。風間投手は広島経済大を散発3安打に抑え完封勝利を飾った。

盛 岡 大 学 00101 : 2
中京学院大学 2403x : 9

〔盛〕●向井健太郎、櫻田亮介ー杉山大輔
(二)畠山真司

〔中〕○片岡 涼、岩田 守ー福井圭祐、三浦亮、清水大輝
(本)佐藤貴史 (三)鈴木 隆、小橋祥兼
(二)三浦 亮

【評】中京学院大学、猛打爆発で2回戦進出！

中京学院は3度の得点機に3本の三塁打と1本の二塁打が絡み9得点を挙げ、繰り出した二人の投手が2失点に抑えコールドで勝ち上がった。

愛知学院大学 00000 : 0
同 志 社 大 学 0816x : 15

〔愛〕●高波瀬敦史ー福岡 翼

〔同〕○垣迫辰也ー永見 哲

(本)瀬戸祐輔 (三)田子 光
(二)瀬戸祐輔、木山龍介

【評】同志社大学、大勝で2回戦進出！

2回裏4番の四球から打者12人の猛攻で7安打8得点を挙げ、3回には瀬戸の本塁打で1点、4回にも打者一巡の猛攻で6点、垣迫投手は1被安打7奪三振と好投で同志社大がコールド勝ちした。

高崎経済大学 30500 : 8
名 桜 大 学 00000 : 0

〔高〕○熊谷英紀ー金井塚和希

(本)吉田晴貴、渋谷祥吾、伊藤 佳介
(三)伊東洋典 (二)伊東洋典

〔名〕●新垣武之一池原 諒
(三)比嘉優一

【評】高崎経済大学長打攻勢で2回戦進出！

1回吉田の2点本塁打と渋谷の本塁打で3点を先取。3回には伊藤の3点本塁打、伊東、笹本の長短打などで5点を追加。熊谷投手は、名桜大を5安打無失点に封じてコールド勝ちを収めた。

城西大学 1000000 : 1
中京大学 000013x : 4

〔城〕●佐々木一貴、倅田洋明、能登部貴春ー伊藤堯寛

(二)金刺大地

〔中〕○深津悠平ー秋屋一樹、由久保健

(三)山本佑馬 (二)和田隆太

【評】中京大学 逆転勝利で2回戦進出！

5回裏、山本の三塁打と犠飛で同点に追いついた中京大は、6回には和田の二塁打を含む4連打で3点を挙げて逆転勝利を収めた。

日本体育大学 41040 : 9
日本経済大学 00000 : 0

〔体〕○立石壮平、友野崇史ー片岡大洋

(三)亀田亮治、芳賀慎二郎

(二)野中耕太郎

[経] ●米村建毅－小山裕之

(二)村角 司

【評】日本体育大学が大勝し2回戦進出！

1回1番亀田の三塁打を口火に2敵失、芳賀の三塁打などで4点を先取。2回に1点、4回には、2番からの3連打と野中の二塁打で4点を追加し、初回から得点を重ねた日体大が圧勝した。

京都産業大学 050103 : 9

東京理科大学 200000 : 2

[京] ○内海裕也、伊藤嵩志－田中元喜

(三)杉中義明、川島悠輔、伊藤嵩志

(二)野中耕太郎

[東] ●米村建毅－小山裕之

(三)藤井祐介 (二)浅野由嗣、本池高大

【評】京都産業大学逆転勝利で2回戦進出！

2点を先行された京都産業大は2回、杉中の三塁打を含む打者一巡の猛攻により5点、4回にも長短打で1点、6回には長短打3本を集中してワールド勝ちした。

早稲田大学 0000302 : 5

熊本学園大学 1000000 : 1

[早] ○西村直晟－大嶋 匠

(二)大嶋 匠②

[熊] ●有働雄士－五郎丸辰美

(三)田中滉大

【評】早稲田大学逆転勝利で2回戦進出！

1点を追う早稲田大は5回表太田が安打で出塁、大嶋の二塁打で一死二、三塁、鈴木・久我の連打で3点を挙げ逆転、7回には大嶋の二塁打などで駄目押しとなる2点を挙げ、西村投手が完投し逃げ切った。

▼第2日(9月11日)2回戦

国士舘大学 33005 : 11

国際武道大学 00000 : 0

[士] ○大関太喜、合田太一－井上朋彦

(三)菊池厚志 (二)大関太喜

[際] ●森井孝圭－多田 光

【評】国士舘大学圧勝でベスト8進出！

1回二死から連続四球後、長谷川の安打で1点。重盗を絡ませ井上の安打でこの回3点。2回には菊池からの4連続安打などで駄目押しの3点を挙げた。5回には打者一巡の猛攻により5点を挙げて国士舘大がコールド勝ちした。

環太平洋大学 70026 : 15

神戸学院大学 10310 : 5

[環] ○嶋田智希－平本拓朗、山下貴大

(三)木谷謙吾、吉國卓哉

(二)山城涉、西山幸助、佐伯忠昭、米田仁

[神] ●川島正敬、片岡正貴－赤木悠生、瀬尾建伍

【評】環太平洋大学圧勝でベスト8進出！

1回表環太平洋大は山城の二塁打、木谷・吉國の三塁打など打者12人を繰り出す猛攻で一挙7点。3点差とされた4回には3安打で2点。5回には3本の二塁打を含む打者10人により6点を挙げてワールド勝ちした。

立命館大学 0001001 : 2

関西大学 010102x : 4

[立] ●小川晃平－頭山翔一

(本)林 卓磨

[関] ○藤井優人－瀬戸 護

(本)原田大樹、川口拓馬

【評】近畿勢同士の対戦は関西大学に軍配が上がってベスト8進出！ 2回に原田の本塁打で先制した関西大は終始先行し、6回裏3本の安打と四球で2点を挙げ接戦を制した。藤井投手は立命館大打線を6安打2失点に抑えて完投勝ちした。

愛知教育大学 00000 : 0

四天王寺大学 2203x : 7

[愛] ●安井亮博－秋久真哉

[四] ○中松竜佑－宇都宮佑

(二)畑中良太、中辻昌宏

【評】初回から得点を重ねた四天王寺大学圧勝でベスト8進出！ 四天王寺大は四球の走者を畑中の二塁打で還し、長島の内野安打で初回2点。

2回には安打と敵失の走者を中辻の二塁打で2点、4回には四球と守備の乱れに乗じてこの回駄目押しとなる3点を挙げ、ワールド勝ちした。

桜美林大学 2001100 : 4
中京学院大学 0000101 : 2

[桜] ○風間祐貴ー長谷川竜太

(本)竹本秀平

[中] ●片岡涼、岩田 守ー三浦 亮、福井圭祐、清水大輝

(本)砂川拓博

【評】終始先攻した桜美林大学守り切ってベスト8進出！ 初回、長谷川が四球で出塁、敵失により1点。犠打と犠打野選でこの回さらに1点。4回に3安打で1点、5回には竹本の本塁打で1点を追加した。風間投手は8安打で2点を失ったが拙攻にも助けられ完投勝ちした。

高崎経済大学 0002010 : 3
同志社大学 203001x : 6

[高] ●熊谷英紀ー金井塚和希

(二)滝本 涼

[同] ○垣迫辰也ー永見 哲

(三)木山龍介

【評】先行した同志社大学リードを守り切りベスト8進出！ 同志社大は、小竹の安打と木山の二塁打で1点、森の安打で初回到2点。3回には一死後四球を挟み3安打と重盗で3点、6回には駄目押しとなる1点を挙げて高崎経済大を圧倒した。

中京大学 3030000 : 6
日本体育大学 3100001 : 5

[中] ○深津悠平ー秋屋一樹

(本)和田隆太、嶋田稔貴 (三)岡田倫明

(二)山田将也、秋屋一樹

[日] ●立石壮平ー片岡大洋

(本)祝 弘樹、深谷祐太

【評】中京大学打撃戦を制し準々決勝戦進出！

1回表和田の本塁打と嶋田の2点本塁打で先制したが逆転された3回、山田・岡田の連続長打に

伊藤が四球を選び秋屋の中堅横への安打でこの回一挙3点。7回1点差にまで追い上げられたが深澤の粘投により中京大が接戦を制した。

早稲田大学 0140000 : 5
京都産業大学 0100000 : 1

[早] ○西村直晟、増井和輝ー大嶋 匠

(二)久我貴大

[京] ●内海裕也ー田中元喜

(本)田中元喜

【評】早稲田大学完勝でベスト8に1番のり！

早稲田大同点で迎えた3回表、西村が内野安打で出塁、四球・野選・2敵失で4点。西村投手は京都産業大田中に本塁打を許したものの6回を4安打に抑え増井投手との継投で勝ち上がった。

▼第2日（9月11日）準々決勝戦

環太平洋大学 0000104 : 5
国士舘大学 0000000 : 0

[環] ○嶋田智希ー山下貴大

(本)松崎洸平

(二)山下貴大、平本拓朗、菅野達也

[国] ●島田将季、金子一平ー井上朋彦

【評】環太平洋大学終盤に得点を重ねベスト4進出！ 無得点のまま迎えた5回表山下・菅野の連続二塁打で1点、7回には安打の後、松崎の2点本塁打でこの回4点。嶋田投手は国士舘大を相手に散発4安打に抑えて完封勝ちした。

四天王寺大学 00100 : 1
関西大学 01601x : 8

[四] ●中松竜佑、北川達也ー宇都宮佑

[関] ○藤井優人、西耕太郎ー瀬戸 護

(本)瀬戸 護②、原田大樹②

(三)川口拓馬

【評】関西大学圧勝で準決勝進出！

同点で迎えた3回裏、安打で出た走者を川口の三塁打で還し2点。鈴木の本塁打でこの回一挙6点。5回に原田の本塁打でワールド勝ちとなった。藤井・西の両投手が四天王寺大を最小失点に抑え、関西大が準決勝戦へ進出した。

同志社大学 02070 : 9
桜美林大学 00000 : 0

[同] ○垣迫辰也ー永見 哲

(本)瀬戸祐輔 (三)小竹大樹

[桜] ●風間祐貴、坪松雄太ー長谷川竜太

【評】同志社大学垣迫投手の好投と猛打により勝利し準決勝進出！同志社大は2回、田子が安打で出塁すると犠打失策と野選などにより2点を先制し、4回には瀬戸の2点本塁打と小竹の三塁打を含む5安打で一挙7得点。垣迫投手は桜美林大に対し5回を無失点、失策による走者を一人を出したのみと好投した。

中京大学 25000 : 7
早稲田大学 00000 : 0

[中] ○深津悠平ー秋屋一樹

(本)伊藤圭佑 (二)山本佑馬

[早] ●西村直晟、増井和輝ー大嶋 匠

【評】中京大学序盤に大量得点し圧勝で準決勝進出！中京大は1回伊藤の2点本塁打で先行。2回には、2四球に守備の乱れに乗じて2安打と犠飛により一挙5得点を追加。深津投手は早稲田大に対し散発2安に抑えて完封した。

▼第3日（9月12日）準決勝戦

環太平洋大学 1000001 : 2
関西大学 1000000 : 1

[環] ○嶋田智希ー山下貴大

(本)松崎洗平

[関] ●藤井優人ー瀬戸 護

(二)原田大樹

【評】環太平洋大学接戦を制し初の決勝戦進出！環太平洋大は、1回表松崎の先頭打者本塁打で1点を先制。1回裏に同点とされ、2回以降両チーム無得点のまま迎えた7回表、西山が安打で出塁。二盗の後右飛が敵失を誘い均衡を破った。嶋

田投手は関西大を相手に1回2安打と失策により1点を与えたが、2回以降立ち直り完投勝ちした。

中京大学 1000000 : 1
同志社大学 000200x : 2

[中] ●深津悠平ー秋屋一樹

(本)岡田倫明

[同] 垣迫辰也ー永見 哲

【評】同志社大学逆転勝利で決勝戦進出！

1点をリードされた同志社大は4回裏椎葉が敵失で出塁し、木山の安打の後重盗。田子の中前打で逆転。垣迫投手は、中京大学を相手に7回を完投し、岡田の本塁打によるスミ1の最少失点に抑えた。

▼第3日（9月12日）決勝戦

環太平洋大学 1000300 : 4
同志社大学 0000000 : 0

[環] ○嶋田智希ー山下貴大

[同] ●垣迫辰也ー永見 哲

(二)瀬戸祐輔

【評】環太平洋大学は創部4年目で念願の初優勝を飾る。

初優勝をかけた一戦は、1回表1番・松崎が敵失で出塁すると、4番・山城が左前打、5番・佐伯の投強襲安打が敵失を誘い1点。4回には一死後1番・松崎が中前打で出塁。3番・能瀬、4番・山城の連打で1点。返球が乱れる間に一塁走者・能瀬が一挙に生還。さらに、ダメ押しとなる5番・佐伯の適時打でこの回一挙3得点。嶋田投手は、毎回のように走者を塁には出すが、要所を抑え、チーム初優勝を完封で締めくくった。一方、同志社大学は初優出の硬さからか、3失策が失点に絡み、5安打しながらも2敵失を有効に生かせなかったのが痛く、来年への課題を残す結果となった。

大会新記録

本大会での新記録・タイ記録は誕生しなかったが、中京大戦で日本体育大深谷祐太選手の放った本塁打は、記念すべき大会1000号本塁打となった。

男子大会打撃ベスト20（規定打席数12以上）

左打	位置	選手名	大学名	打席数	打数	安打	得点	打点	犠打	四球	死球	三振	盗塁	残塁	出塁	打妨	本塁打	三塁打	二塁打	打撃率	試合
○	9	木谷 謙吾	環太平洋	15	12	8	2	1	・	3	・	1	・	6	11	・	・	1	・	0.667	5
○	3	原田 大樹	関 西	12	11	6	3	6	・	1	・	・	・	2	7	・	3	・	1	0.545	4
	6	木山 龍介	同志社	16	14	7	6	5	・	1	1	・	2	3	9	・	・	1	1	0.500	5
	2	永見 哲	同志社	13	12	6	3	3	・	1	・	3	・	2	7	・	・	・	・	0.500	5
○	2	瀬戸 護	関 西	12	8	4	3	・	2	1	1	4	・	2	6	・	・	・	・	0.500	4
	6	松崎 洸平	環太平洋	20	17	8	8	6	・	3	・	2	・	3	11	・	2	・	1	0.471	5
	5	佐伯 忠昭	環太平洋	18	12	5	2	4	2	4	・	1	・	5	9	・	1	・	1	0.417	5
○	7	瀬戸 祐輔	同志社	13	12	5	3	5	1	・	・	2	・	3	5	・	2	・	2	0.417	5
	4	森 元樹	同志社	16	10	4	3	3	4	2	・	・	・	3	6	・	・	・	・	0.400	5
	3	伊藤 圭佑	中 京	12	10	4	4	4	1	1	・	3	・	2	5	・	1	・	・	0.400	4
	3	能勢 元樹	環太平洋	17	17	6	5	5	・	・	・	6	・	1	6	・	・	・	1	0.353	5
	8	田子 光	同志社	16	15	5	4	6	・	1	・	2	1	4	6	・	・	1	・	0.333	5
	7	山城 渉	環太平洋	18	16	5	3	6	・	2	・	2	・	1	7	・	1	・	1	0.313	5
○	8R	西山 幸助	環太平洋	17	13	4	4	・	2	2	・	1	3	3	6	・	・	・	1	0.308	5
○	4	坂井 佳文	関 西	13	10	3	1	・	・	3	・	1	・	4	6	・	・	・	・	0.300	4
○	D3	川口 拓馬	関 西	12	10	3	5	7	・	2	・	1	・	1	5	・	2	1	・	0.300	4
	9	小竹 大樹	同志社	15	14	4	3	3	・	1	・	4	・	1	5	・	・	1	・	0.286	5
	DP	和田 隆太	中 京	13	11	3	3	1	・	1	1	5	・	3	5	・	1	・	1	0.273	4
○	8	山田 将也	中 京	13	11	3	2	・	・	2	・	1	1	2	5	・	・	・	1	0.273	4
○	2	秋屋 一樹	中 京	12	11	3	1	3	・	1	・	2	・	1	4	・	・	・	1	0.273	5
	5	嶋田 稔貴	中 京	12	11	3	1	2	・	1	・	1	・	1	4	・	1	・	・	0.273	5

男子大会投手成績ベスト10 規定投球イニング11以上）

左投	選手名	大学名	投球回	打者数	打数	被安打	失点	自責点	被犠打	与四球	与死球	奪三振	被本塁打	暴投	不正投	投球数	防御率	勝試合	負試合	試合数
	嶋田 智希	環太平洋	30	120	114	24	7	3	2	3	3	29	・	2	・	437	0.70	5	0	5
○	内海 裕也	京都産業	12	52	46	10	7	2	・	4	2	12	・	・	・	186	1.17	1	1	2
	藤井 優人	関 西	21	89	70	16	5	4	5	13	1	15	2	1	・	358	1.33	3	1	4
	垣迫 辰也	同志社	31	118	106	20	8	6	2	9	1	40	1	・	・	416	1.35	4	1	5
	深津 悠平	中 京	25	98	89	17	8	6	4	4	1	21	2	・	・	347	1.68	3	1	4
	島田 将季	国士舘	13.2/3	53	51	15	5	5	・	2	・	10	・	・	・	168	2.56	1	1	2
	風間 祐貴	桜美林	18	78	70	17	11	7	2	5	1	9	2	4	・	226	2.72	2	1	3
	西村 直晟	早稲田	14	59	51	12	9	6	2	6	・	10	2	・	・	224	3.00	2	1	3
	安井 亮博	愛知教育	11	49	42	8	8	5	2	4	1	2	・	1	・	130	3.18	1	1	2
	中松 竜佑	四天王寺	15.1/3	70	61	19	8	8	3	5	1	6	4	2	・	211	3.65	2	1	3

初めてのインカレ優勝

環太平洋大学男子ソフトボール部主将 平 本 拓 朗

I P Uの始まりは4年前でした。どうすればいいのかわからず、手探りの状態でスタートし、怖いもの知らずで、1年目のインカレに挑みました。目標はもちろん「優勝」。しかし、結果はベスト8で日本体育大学にコールド負け。充実感もありましたが、悔しさとインカレの厳しさを感じた1年目となりました。優勝することは簡単なものではなく、強いチームが必ず勝つわけではないと改めて実感させられました。その後の目標は、常に「日本一」。日本一になるために日々練習を重ね、勝つチーム作りをしてきました。2年目は余裕を持って挑み、初戦敗退。余裕が裏目に出てしまい、悔しさが残らないインカレでした。自分たちには何が足りないのか。自信を持ち、強いハートを作ることでした。何度もミーティングを重ね、一人ひとりが自分の役割を果たすことでチームが成立し、自分のやるべきことに集中して取り組むことができるようになりました。部員が40名いるため、それぞれの思いがあり、なかなかうまくいかないこともありました。日本一になるという気持ちは全員がもっていたため、まとめることができました。一人ひとりが目標を持ち、自主的に取り組むことでチームのレベルアップになりました。

そして、今年4回目の挑戦で今まで以上にチームの雰囲気はよく、全員が試合で勝つことを考えて挑むことができていました。4年生にとっては最後のインカレ。優勝するために0から作り上げてきたものを悔いなくやるだけでした。インカレは独特の雰囲気があり、いつもとは違うプレッシャーとも闘わなければなりません。闘うには練習と経験が必要です。私たちは経験が多く、闘い抜

く自信はどこよりもありました。いよいよ最後のインカレが始まりました。順調に勝ち進み、初のベスト4。ここまできたら、やるしかない。自分たちを信じ、思い切りやるだけ。西村監督を胴上げしたいという思いもありました。迎えた決勝でもI P Uの雰囲気ですべてを進めることができ、I P Uにとって初めてのインカレ優勝。その喜びは最高のものでした。諦めずやってきてよかったと思えた瞬間でした。

私たちが0からスタートしここまで成長できたのは、創部から4年間熱心に指導してくださった西村監督をはじめ、練習試合等に協力してくださった全てのチームのみなさんのおかげです。多くの経験をしたことで、ソフトボールに対する情熱や考えをさらに深めることができました。本当に感謝しています。恵まれた仲間たちと最高の4年間を過ごすことができ、たくさんの人と出会うことができました。4年生はI P Uソフトボールの伝統を、苦しみながらここまで作り上げてきましたが、さらに良い伝統を作ってくれる後輩たちがいます。来年以降、連覇、3連覇という偉業に向かって努力し、大学ソフトボールを引っ張ってほしいと思います。インカレで優勝したことは、今後私たちにとって大きな財産になると思います。全国の頂点に立ち、勝つ喜びを味わい、分かち合うことができました。4年間で経験したことは一生忘れることはできません。応援、支援してくださった方全ての方へ感謝しております。ありがとうございました。I P Uはまだ始まったばかりではありますが、今後ともよろしく願います。



文部科学大臣杯第45回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

会期：平成22年9月9日(木)～9月12日(日)

会場：富山県富山市／富山県岩瀬スポーツ公園

大会概要

東京女子体育大学 8年ぶり15回目の優勝!!

大会記録長：丹 羽 米 子

雄大な北アルプス立山連峰と美味しい海の幸を育む富山湾に囲まれた富山市岩瀬スポーツ公園ソフトボール場において、第45回全日本大学女子ソフトボール選手権大会は開催された。今年の猛暑は9月に入ってもまだ治まるところを知らず、じりじりと焼け付くような暑さの中、全国の厳しい予選を勝ち抜いてきた24チームが参加して、大学の頂点を目指す熱い戦いが3日間に亘って繰り上げられた。

1日目、2日目は例年なら点差コールドゲームが目につくが、今年はそれが初日に2試合しかなく、僅差の試合が多かった。また、日本体育大学と福岡大学は初戦で姿を消し、大阪国際大学も2回戦で敗れ去ったように、伝統校・強豪校といえども簡単には勝ち上がれない白熱した試合の連続であった。

グラウンドコンディション不良のために3時間開始が遅れた最終日に残ったベスト4には、3連覇を目指す東北福祉大学、久々に優勝のチャンスが巡ってきた東京女子体育大学、そしてともに初優勝を目指す古豪武庫川女子大学と新鋭鈴鹿国際大学が残った。準決勝戦では東京女子体育大学が最終回の一発で鈴鹿国際大学を打ち破り、武庫川女子大学が粘りに粘って東北福祉大学を降した。そして決勝戦では、東京女子体育大学が小技を効かして粘る武庫川女子大学を振り切り、8年ぶりとなる15回目の栄冠に輝いた。10年ぶり36回目の出場となる古豪武庫川女子大学は、春季関西リーグ戦優勝の力を遺憾なく発揮して勝ち上がってきたが、最後に最少失点に泣いて力尽き、2度目の準優勝に留まった。

大会講評

実力接近の好ゲームが続いたイエローボール元年

広報記録部 矢 澤 久 史

ここ数年、大学生の打力の向上に伴い、インカレでも打撃戦が多く見られ、いかに多くの得点をとるかが勝敗を決めている感が年々強まっていた。今年度はイエローボール導入後の初めてのインカレであり、昨年までと試合展開がどのように変わってくるかが注目された。

結果的には、1回戦から決勝までの全23試合中1点差試合が約半数の11試合を占め、特に準々決勝以上の7試合では決勝を含め6試合が1点差試合であるという、実力接近の好ゲームが続いた。

また、1回戦の環太平洋大学×日本体育大学、富士大学×中京大学の2試合、準々決勝の東北福祉大×神戸親和女子大学、準決勝の武庫川女子大学×東北福祉大学もタイブレーカーで勝敗が決した。

イエローボール元年となった今年のインカレは、昨年までのような序盤で勝敗が決まる試合がほとんどなく、0-0や1-1という得点のまま終盤を迎えるという見応えのある試合が非常に多かった。そこで勝敗を分けたのは、ここ一番でチャンスをもにするか、またピンチをいかに凌げるかといった、追い込まれたときの勝負強さが発揮できたかどうかにあったように思う。全試合を振り返り、1点差を争うというソフトボールの本来の醍醐味をしばらくぶりに十分味わうことができた大会であったことを感じる。

新興勢力の台頭が著しい中で、決勝に勝ち上がってきたのは、伝統校の東京女子体育大学と古豪の武庫川女子大学であったことも興味深い。接戦が多かったという試合展開と共に、伝統校、古豪の活躍に大学ソフトボールの原点を考え直すことができたように思う。

大会結果

	10日(金)	11日(土)	12日(日)	
1. 東北福祉大学(8)	1			
2. 環太平洋大学(4)	4	0	5	
3. 日本体育大学(45)	3			東北福祉大学
4. 松本大学(5)	0	0	1	
5. 東海学園大学(9)	4	4		
6. 神戸親和女子大学(11)	1			武庫川女子大学
7. 武庫川大学(36)	4		0	
8. 早稲田大学(7)	7	0	1	
9. 鳥取短期大学(25)	0		2	東京女子体育大学
10. 中京大学(35)	1	1		
11. 富士大学(6)	2	0		
12. 淑徳大学(13)		3		
13. 城西大学(8)	1			
14. 園田学園女子大学(33)	2	4	1	
15. 山梨学院大学(2)	0			鈴鹿国際大学
16. 金沢学院大学(初)	0	0	1	
17. 愛媛女子短期大学(13)	9	2		
18. 鈴鹿国際大学(2)	5			
19. 龍谷大学(14)	1		1	
20. 東海大学(25)	3	4	1	
21. 福岡大学(14)	1		3	
22. 大阪国際大学(15)	6	0		
23. 日本女子体育大学(43)	0	2		
24. 東京女子体育大学(45)	1			

※ () 内は出場回数で、校名変更のあった大学は以前の名称での出場も含む。

試合結果

▼第1日（9月10日）1回戦

日本体育大学 000000111 : 3
環太平洋大学 100000112x : 4

[日] ●三木綾菜ー谷井 愛

(二)林 優貴

[環] 江里口淳子、○木村久美ー三崎奈緒

(二)千原香奈

【評】9回タイブレーカーの末、環太平洋大学が勝利!! タイブレーカーに入った8回両チーム1点ずつ得点し、9回に1点先取された環太平洋大学はその裏2本の安打と暴投で2点を挙げ逆転、2回戦に進んだ。

松本大学 0000000 : 0
東海学園大学 000004x : 4

[松] ●井口優紀ー田島梨恵

[東] ○勢村香織ー上田彩生

(三)結城典子 (二)加藤美穂、中山小夜香

【評】東海学園大学、ワンチャンスで勝利をつかむ。両チーム5回までは互角に戦うが6回の裏東海学園大学は5本の長短打で4点を挙げ2回戦に進んだ。

早稲田大学 24001 : 7
鳥取短期大学 00000 : 0

[早] 栗原八寿子、山田真由子、町野 瑛、○翠川ちひろー豆野ふみ、鬼澤麻純

(三)五十川智美

(二)山田真由子、竹林あすか、翠川ちひろ

[鳥] ●氏平沙織、大岡千鶴ー廣田紗希

(三)桑原千明

【評】早稲田大学全員ソフトで1回戦突破。早稲田大学毎回安打で得点を重ね圧勝!! 鳥取短期大学は4回のチャンスに得点が出来なかったのが敗因と思われる。

富士大学 000000011 : 2
中京大学 000000010 : 1

[富] ○榎林茉実ー相馬亜里

(三)郷間智美

[中] ●小沢佳那子ー佐藤 瑠

【評】7回まで両チーム無得点でタイブレーカーに入り8回1点づつを取り再び同点。9回富士大学は1番小川の安打で走者一、三塁として3番滝の内野ゴロの間に1点を挙げた。その裏中京大学は3者凡退で敗退。

山梨学院大学 0000000 : 0
園田学園女子大学 200000x : 2

[山] ●畑迫遼子ー岡田佳織

[園] ○尾崎望良ー清原奈侑

【評】園田学園大尾崎投手、山梨学園大を1安打に抑え2回戦にコマを進めた。園田学園大は1回裏に2四球2犠打で2点を挙げそれを守り切った。山梨学園大はあわや完全試合かと思われたが2番五里選手の安打でこれをまぬがれた。

金沢学院大学 00000 : 0
愛媛女子短期大学 5103x : 9

[金] ●岡田有優、末政真美子、小西由依ー得地絵理子

[愛] 田中詩織、○小野愛恵、堀田 恵ー池田千沙

(三)中村明日香、笹木香那

(二)池田千沙②、甲斐いづみ

【評】愛媛女子短期大学打線爆発で2回戦へ!

愛媛女子短期大学は1回裏長短打を含む5安打で5点を先取試合を優位にし、更に2・4回と加点一方的試合となった。金沢学院大学は4安打を放つが得点に結びつけることは出来なかった。

福岡大学 0000001 : 1
東海大学 011100x : 3

[福] ●河野 彩、野中めぐみー木本もえ

[東] ○泉館佳世、杉山奈々恵ー草苺有里恵

(二)中山恵里香、渡邊夏海

【評】東海大学は2回～4回と1点づつを加え泉館・杉山両投手の好投で2回戦に進んだ。一方福岡大学も7回1点を返しなおも走者一、二塁と同点のチャンスであったが一本が出ず敗れた。

大阪国際大学 0400020:6
日本女子体育大学 0000000:0

[大] ○森田由衣子、馬渡 彩、西奥間沙紀、
松木あゆみー柳田優香、逢坂亜依
(二)林 仁美②

[日] ●丸山千安紀、工藤春華ー増田奈穂
(二)中村仁美

【評】安打数で勝った大阪国際大学が2回戦にコマを進めた。大阪国際大学は二塁打2本と単打10本で6点を挙げ快勝。日本女子体育大学は反撃のチャンスがなく1回戦で姿を消した。

▼第1日(9月10日)2回戦試合結果

東北福祉大学 1000000:1
環太平洋大学 0000000:0

[東] ○松浦由佳ー平谷美咲
(二)平谷美咲

[環] ●江里口淳子、木村久美ー三崎奈緒
(二)三崎奈緒

【評】東北福祉大学は1回表に取った1点を守りきり勝利。1回表東北福祉大学は四球の走者を三塁に置き犠打で1点をあげ逃げ切った。環太平洋大学は安打が出るが後続の援護なく敗れた。

神戸親和女子大学 0000001:1
東海学園大学 0000000:0

[神] ○笹山彩夏ー大塚潤
(二)杉山里奈

[東] ●後藤菜緒子、勢村香織ー上田彩生
(三)結城典子

【評】神戸親和女子大学・東海学園大学、お互いに譲らず6回の裏まで両チーム無得点で向えた7回表、神戸親和女子大学の5番打者佐藤の安打を犠打で送り、代打末方の左翼前安打で貴重な1点を挙げる。その裏、東海学園大学も二死後ではあるが三塁打で走者が出るも後が続かず涙を飲んだ。

武庫川女子大学 0001111:4
早稲田大学 0000000:0

[武] 丸井理恵、○穴澤早貴恵、内海花菜ー平井遥香

(二)瀬田美波、川口亜祐美

[早] ●栗原八寿子ー豆野ふみ

(三)五十川智美

【評】武庫川女子大学準々決勝へ進出！両チーム3回まで得点なしで迎えた4回表武庫川女子大学は四球の走者を瀬田の2塁打で1点先取、その後毎回得点で4点を挙げ次にコマを進めた。一方早稲田大学は6本の安打が出るも得点に結びつかず敗れた。

富士大学 0100000:1
淑徳大学 200001x:3

[富] ●榎林茉実ー相馬亜里

(二)木村千春

[淑] ○関根有希ー篠田美穂

(二)篠田美穂、山本実咲、横山 薫

【評】淑徳大学少差の得点を守り抜き準々決勝へ進出！淑徳大学1回裏4安打で2点を先取、2回表1点を返されたが6回に1点を加えて逃げ切った。富士大学は2回の好機に1点に終わったのが悔やまれる試合であった。

園田学園女子大学 0400000:4
城西大学 0000010:1

[園] 竹内弘美、○西岡里恵、泉 礼花ー清原奈侑、岡恵利華

(三)近藤琴美 (二)西村佳恵

[城] ●野村美和子ー塩野梨沙

(三)高橋裕未 (二)高橋裕未

【評】園田学園女子大学2回表集中攻撃で4点を挙げ準々決勝へ進出。一方、城西大学も走者を出しながら固い守備に阻まれ、6回に1点返して完封はまぬがれた。

愛媛女子短期大学 0000000:0
鈴鹿国際大学 003020x:5

[愛] ●麻生若葉、田中詩織ー池田千沙

[鈴] ○平木綾佳ー岩崎純子

(三)宮澤早紀

【評】鈴鹿国際大学準々決勝へ進出！鈴鹿国際大学は3・5回に足を絡めた攻撃で得点をあげ、

守っては平木投手が愛媛短期大学に2被安打の好投で反撃の機会も与えず勝利した。

東海大学 0200200 : 4
龍谷大学 0000100 : 1

[東] ○泉館佳世ー草苺有里恵

(二)鈴木真衣

[龍] ●島津あゆみ、田中佑季ー田井静華

(本)田井静華 (三)島津あゆみ

【評】東海大学準々決勝へ！ 東海大学は2・5回と得点をし試合を優位に進めた。東海大学の長打は二塁打1本であったが、出塁した走者を確実に進ませ得点し勝利をあげた。龍谷大学は本塁打も出て反撃をしたが一步及ばなかった。

大阪国際大学 0000000 : 0
東京女子体育大学 000010x : 1

[大] 森田由衣子、●馬渡 彩、西奥間沙紀ー柳田優香、逢坂亜依

[東] ○平原かすみー山保 彩

【評】東京女子体育大学5回裏に挙げた1点を平原投手が守りきった。東京女子体育大学は4回までは出塁しても後続打なく苦しんだが、5回裏敵失で出た走者を犠打と安打で1点を挙げ勝利した。大阪国際大学は平原投手に3安打に抑えられて涙を飲んだ。

▼第2日(9月11日)準々決勝戦試合結果

神戸親和女子大学 000100210 : 4
東北福祉大学 201000011x : 5

[神] ●笹山彩夏ー大塚 潤

[東] ○松浦由佳ー平谷美咲

(三)山本紗耶加 (二)井上 愛

【評】9回タイブレーカーの末、東北福祉大学がサヨナラ勝ち。3点先行した東北福祉大学は4回に1点、7回に2点と神戸親和女子大学に得点され同点となった。タイブレーカーに入り、9回裏井上の左中間二塁打でサヨナラ勝ちした。

武庫川女子大学 0000010 : 1
淑徳大学 0000000 : 0

[武] ○内海花菜ー平井遥香

[淑] ●関根有希ー篠田美穂

【評】武庫川大学、虎の子の1点を守り準決勝へ進出！ 両チーム無得点で迎えた6回表武庫川大学は2本の安打と四球で満塁とし瀬田の犠飛で貴重な1点を挙げた。その1点を内海投手が守り切った。淑徳大学は内海投手に2安打に抑えられ敗れた。

園田学園女子大学 0000010 : 1
鈴鹿国際大学 0000011x : 2

[園] ●西岡里恵ー清原奈侑

[鈴] 柏木菜奈、○平木綾佳ー岩崎純子

【評】1点先行された鈴鹿国際大学は、その裏2安打と死球で同点とした。7回裏2死走者二塁のチャンスに1番宮澤選手の中前安打で走者は一気に生還しサヨナラで勝利。園田学園女子大学は先取点を守り切れず敗れた。

東海大学 0001000 : 1
東京女子体育大学 0000101x : 2

[海] ●泉館佳世ー草苺有里恵

[京] ○平原かすみー山保 彩

(二)山保 彩

【評】東京女子体育大学準決勝へ進出！

1点先行された東京女子体育大学は5回に3本の安打で1点を返して同点とし、更に7回四球の走者を2本の安打でホームに迎えサヨナラ勝ちした。東海大学は1点を先行するも後チャンスなく惜敗した。

▼第3日(9月12日)準決勝戦試合結果

東北福祉大学 000000010 : 1
武庫川女子大学 000000011x : 2

[東] ●松浦由佳ー平谷美咲

[武] ○丸井理恵、穴澤早貴恵、内海花菜ー平井遥香

(二)竹森久実

【評】両チーム7回までお互いに譲らず、8回からタイブレーカーに入った。武庫川女子大学は8回に1点先行されたその裏、9番白石の内野手の

間を抜ける安打で同点に追いつき、9回表を守りきってその裏一死三塁、4・5番が敬遠された満塁から6番川口がレフトへ鋭い打球を放ち、三塁走者がホームを踏んで貴重な1点を挙げ決勝へ進んだ。一方、東北福祉大学は、9回の表走者満塁の絶好のチャンスに得点を挙げる事ができず、3連覇は夢と消えた。

東京女子体育大学 0000003 : 3
鈴鹿国際大学 0000001 : 1

[東] ○平原かすみー山保 彩

(本)林 真由 (二)原野愛美

[鈴] ●平木綾佳ー岩崎純子

【評】6回まで安打は出るが後1本が出ずにゼロを並べた東京女子体育大は、7回走者一、二塁で4番林がレフト越えの本塁打で3点を先取。鈴鹿国際大学も6回までは平原投手に1安打に抑えら

れ得点のチャンスがなかったが、7回の裏、内野安打の走者を5番岩崎がレフト前に運んで1点を返し、さらに反撃に移りたいところであったが、後続を断たれて決勝への夢は絶たれた。

▼第3日(9月12日)決勝戦試合結果

武庫川女子大学 0000000 : 0
東京女子体育大学 000010x : 1

[武] ●内海花菜ー平井遥香

[東] ○平原かすみー山保 彩

【評】東京女子体育大学は8年ぶり15回目の優勝、優勝戦にふさわしい1点を争う好試合であった。東京女子体育大は5回裏二死後に四球で出た走者を2連続安打で1点を先取、この虎の子の1点を平原投手が守り切って15回目の優勝に輝いた。一方、武庫川女子大学は散発4安打と平原投手に抑えられ、悲願の初優勝はならなかった。

女子大会打撃ベスト20(規定打席数9以上)

左打	位置	選手名	大学名	打席	打点	安打	得点	打点	犠打	四球	死球	三振	盗塁	残塁	出塁	打点	本塁打	三塁打	二塁打	打撃率	試合
○	6	森田 涼	園田学園	10	9	5	1	・	・	1	・	・	・	3	6	・	・	・	・	0.556	3
○	8	高橋 恵	東女体	10	8	4	1	・	・	2	・	・	・	4	6	・	・	・	・	0.500	4
○	6	小泉 ゆい	東北福祉	10	8	4	1	・	1	1	・	1	2	3	5	・	・	・	・	0.500	3
○	7	千原 香奈	環太平洋	9	6	3	・	1	・	3	・	・	・	5	6	・	・	・	1	0.500	2
○	6	嘉屋 千紘	東海	10	9	4	・	1	・	1	・	1	・	5	5	・	・	・	・	0.444	3
DP		渡邊 夏海	東海	10	8	3	2	1	1	1	・	3	・	3	4	・	・	・	1	0.375	3
	6	林 真由	東女体	14	12	4	1	3	1	1	・	2	・	5	5	・	1	・	・	0.333	4
○	6	竹森 久実	武庫川	14	12	4	2	1	1	1	・	・	1	3	5	・	・	・	1	0.333	4
	5	川口亜祐美	武庫川	13	12	4	・	2	・	1	・	3	・	4	5	・	・	・	1	0.333	4
○	4	井上 愛	東北福祉	13	12	4	2	1	1	・	・	1	・	1	4	・	・	・	1	0.333	3
	6	宮澤 早紀	鈴鹿国際	11	9	3	3	2	・	2	・	・	1	1	5	・	・	1	・	0.333	3
○	4	山田 絢音	環太平洋	9	6	2	1	1	1	・	2	1	2	3	4	・	・	・	・	0.333	2
○	3	近藤 琴美	園田学園	11	10	3	2	2	・	1	・	2	1	2	4	・	・	1	・	0.300	3
○	DP	山本紗耶加	東北福祉	11	10	3	1	2	1	・	・	・	1	3	3	・	・	1	・	0.300	3
	2	平谷 美咲	東北福祉	10	10	3	・	・	・	・	・	2	・	1	3	・	・	・	1	0.300	3
	2	岩崎 純子	鈴鹿国際	9	7	2	・	2	・	1	1	1	・	4	4	・	・	・	・	0.286	3
○	9	伊東 麗	東女体	14	11	3	3	1	1	2	・	4	1	3	5	・	・	・	・	0.273	4
○	DP	伊藤 諄美	武庫川	13	11	3	1	・	2	・	・	2	・	3	3	・	・	・	・	0.273	4
○	4	増原 晴奈	東女体	12	11	3	・	・	1	・	・	・	・	3	3	・	・	・	・	0.273	4

左打	位置	選手名	大学名	打席	打数	安打	得点	打点	犠打	四球	死球	三振	盗塁	残塁	出塁	打妨	本塁打	三塁打	二塁打	打撃率	試合
○	3	大島あずさ	武庫川	14	12	3	1	1	・	2	・	1	・	6	5	・	・	・	・	0.250	4
○	5	原野 愛美	東女体	14	12	3	・	1	1	1	・	1	・	3	4	・	・	・	1	0.250	4
	5	平子智恵美	鈴鹿国際	9	8	2	・	2	1	・	・	・	・	2	2	・	・	・	・	0.250	3
	4	相場 美穂	鈴鹿国際	9	8	2	1	1	1	・	・	・	1	1	2	・	・	・	・	0.250	3
○	8	長谷川千尋	鈴鹿国際	9	8	2	2	・	1	・	・	・	2	1	2	・	・	・	・	0.250	3

女子大会投手成績ベスト10 規定投球イニング9以上)

左投	選手名	大学名	投球回	打者数	打数	被安打	失点	自責点	被犠打	与四球	与死球	奪三振	被本塁打	暴投数	不正投	投球数	防御率	勝試合	負試合	試合数
	平原かすみ	東女体	28	104	96	13	2	・	4	4	・	23	・	・	・	382	0.00	4	0	4
	松浦 由佳	東北福祉	24.1/3	102	83	17	6	・	10	7	2	5	・	・	・	355	0.00	2	1	3
	小沢佳那子	中 京	9	32	31	3	2	・	・	1	・	11	・	・	・	119	0.00	0	1	1
○	内海 花菜	武庫川	18	67	58	6	2	1	5	1	3	18	・	・	・	249	0.39	2	1	4
	勢村 香織	東海学園	12.1/3	47	42	10	1	1	4	・	1	12	・	・	・	164	0.57	1	1	2
	笹山 菜夏	神戸親和	15	61	54	14	5	2	2	3	2	3	・	・	・	229	0.93	1	1	2
	榎木 茉美	富 士	15	62	51	12	4	2	6	3	2	11	・	・	・	213	0.93	1	1	2
	関根 有希	淑 徳	14	52	48	10	2	2	3	1	・	10	・	・	・	207	1.00	1	1	2
	泉館 佳世	東 海	18.1/3	74	66	14	3	3	3	3	2	10	・	1	・	260	1.15	2	1	3
	江里口淳子	環太平洋	10	36	29	4	2	2	4	3	・	6	・	・	・	144	1.40	0	1	2

ゼロからのスタート

東京女子体育大学ソフトボール部主将 高 橋 恵

東京女子体育大学ソフトボール部は、創部46年という伝統あるチームです。過去の主な大会成績は、インカレ優勝14回、準優勝14回、また他の大会においても常に上位の成績を収めています。私はこのような伝統あるチームの主将として任命を受け大変な重責でしたが、自分なりにできることを精一杯やろうとスタートしました。主力の4年生の抜けた今年のチームは、昨年より得点力は落ちますが、その分相手に点をやらないチーム作りを目標に、バッテリーを中心に守備力の強化をテ

ーマに日々の練習に取り組んできました。

インカレ出場権をかけた春季リーグ戦では、優勝することは出来ましたが課題も多く残った試合でした。その後行われた全日本総合選手権大会東京都予選ではリーグ戦での反省を修正することができ、なんとか優勝し関東大会への代表権を獲得することができました。

インカレの1か月前に開催された東日本大学選手権では、1点先行しながらも守備のミスから逆転され、決勝で敗れてしまいました。しかし、こ

の悔しさと負けをチーム全員が重く受け止め、残された時間の中で2度と同じミスを繰り返さぬよう徹底した練習を行い、気持ちを切らすことなくインカレに臨みました。

そして迎えたインカレの初戦では全員が極度に緊張し、本来の力を十分に発揮することができませんでした。少ないチャンスを得点にむすび付け初戦を突破することができました。2回戦以降も1点差の接戦が続き、苦戦しながらも準決勝を突破し決勝に進むことができました。決勝戦では私たちにとって8年ぶりの優勝を賭け武庫川女子大学との対戦となりました。今大会では1年生投手の平原かすみが初戦から決勝まで4連投と投げ抜き、また守備でのミスはほとんどなく、攻撃においても一人ひとりが持ち味を活かしたバッティングで最終的には内安打の1点を全員で必死に守り、それが決勝点となり念願の日本一を獲得することができました。決してクリーンヒットとは言えませんでした。この1点を守りきり、目標にしていた点をやらないチームが決勝で実現さ

れたと思います。

今年は部員数60名という大所帯ではありますが、全員が一つの目標に向かって戦うことが出来ました。監督である吉野先生が「チーム一丸というのは、字のごとく一つの丸になること。誰か一人が欠けても完璧な丸にはならない。60名それぞれが自分の置かれ立場で役割を果たすことだ。」と、おっしゃっており、インカレでは全員の力が一つになり戦うことができました。

このチームはタイトルの通りゼロからのスタートだったのですが、どんな時でもあきらめない心を持ち、必死に練習に取り組み、全員の力で戦っていけば優勝することができるのだと痛感しました。

最後に、私たちを指導し優勝へと導いてくださった監督を始めとするスタッフの方々や、いつも応援して下さいる父兄の皆様、そしてどんな時も共に戦い、時に支えてくれるチームの仲間へ感謝し、東京女子体育大学ソフトボール部は新たな目標に向かって突き進んでいきたいと思っています。

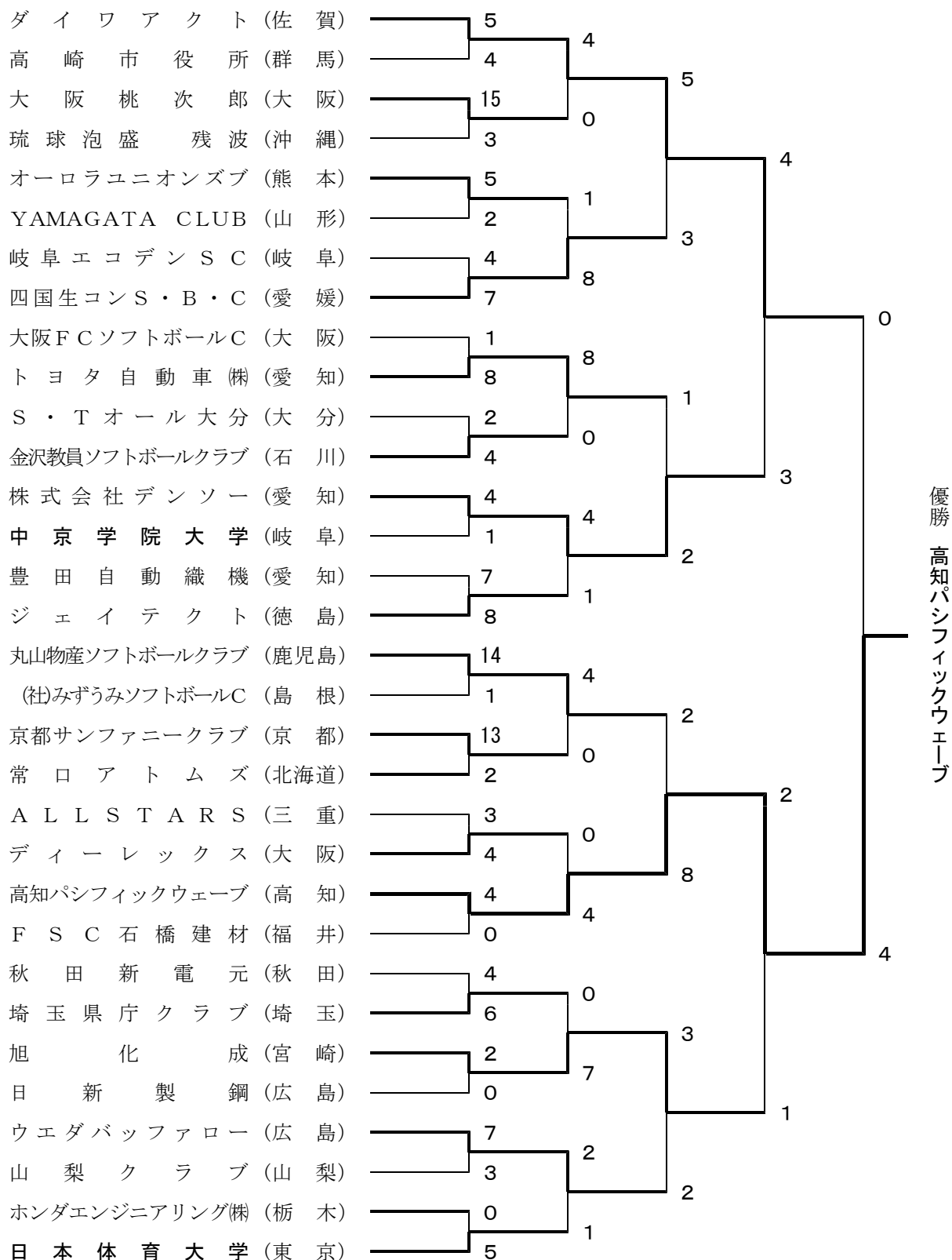
試合時間 テレビのプロ野球中継を観なくなってからもう何年たつだろうか。プロ野球が嫌いになったわけではない。試合時間の長さには耐えられないのである。3時間、4時間、時には5時間を超える試合もある。それをずっと観戦している観客の集中力には感心させられる。イラッチの私にはとうてい耐えられないことである。選手は1秒でも長く試合を楽しんでいたいと思うであろう。役員は一刻でも早く試合が無事終了してくれることを願っているというのが本音であろう。審判員や監督はどうだろうか。ひとつの試合に係わる人々の立場立場で望ましい試合時間は異なってくる。適切な試合時間というものがあるのであろうか。ちなみに、45回インカレの試合時間を調べてみると、男子の最短時間は1時間14

分、最長時間は2時間33分、女子のそれはそれぞれ、1時間15分と2時間40分であった。男子の平均試合時間は1時間44分、女子のそれは1時間50分であった。また、2時間を超える試合は男女とも6試合であった。女子の方が試合時間が短い印象があったが、実際には男子の方が短かった。これは女子チームの監督によるタイムや選手交代の回数が多いからだろう。国際ルールには、時間短縮のための投手の「20秒ルール」と打者の「10秒ルール」というものがある。これを適用したからといって、格段に試合時間が短くなるとは思われない。要は時間の問題ではなく、試合の内容である。緊張感の有無で感じる時間の長さは違ってくる。観客をも魅了する緊迫感のあるスピーディーな試合を今後も期待したい。(記録席)

第56回全日本総合男子選手権大会

会期：平成22年9月18日（土）～20日（月）

会場：高知県高知市／高知県立春野総合運動公園



第62全日本総合女子選手権大会

会期：平成22年9月18日（土）～20日（月）

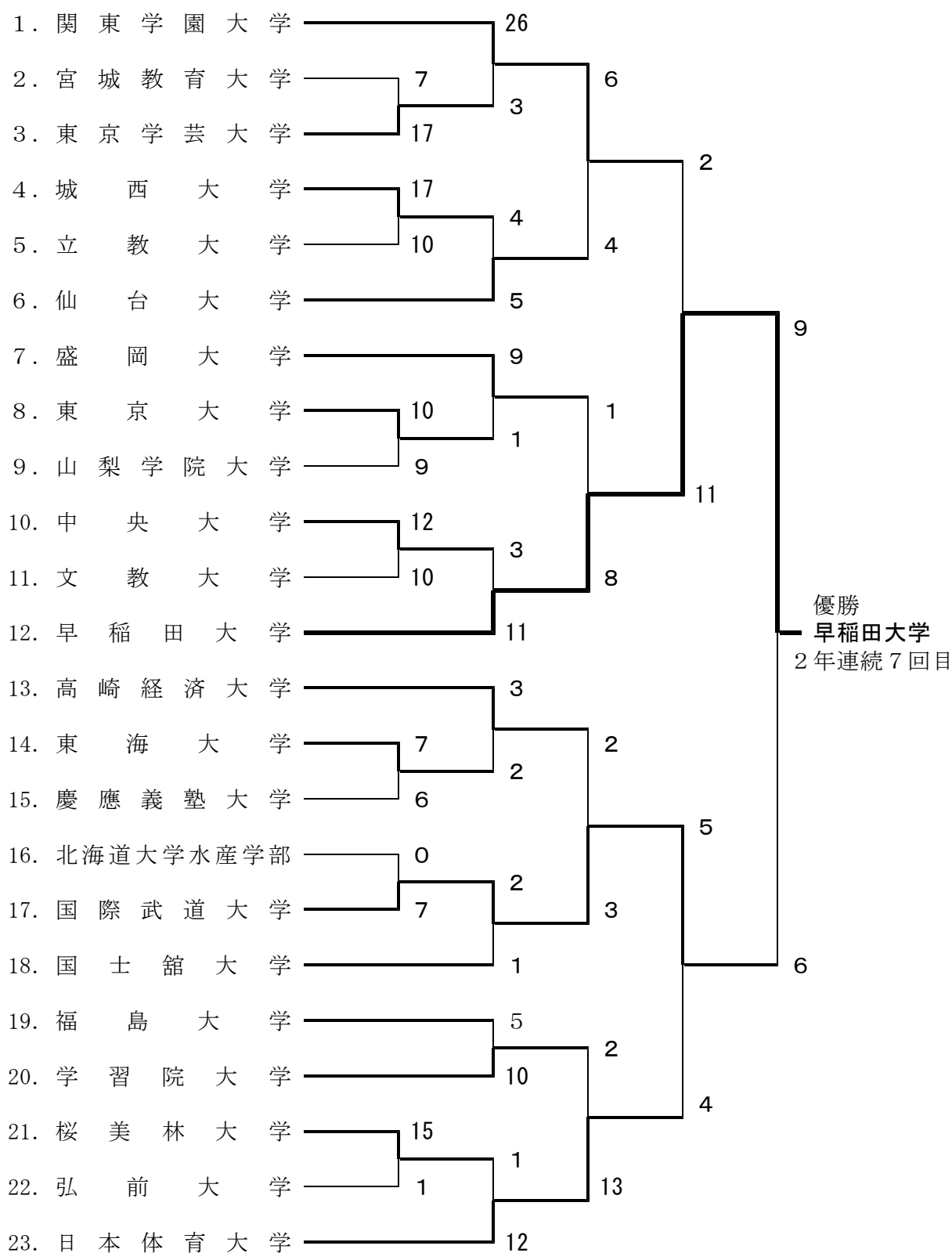
会場：山口県下関市／北運動公園・長府扇町第2運動広場

チーム名	得点	順位
ルネサスエレクトロニクス高崎 (群馬)	8	11
大和電気工業株式会社 (長野)	1	5
山口ACドリームズ (山口)	9	0
T O E T E C K (宮崎)	2	2
日立ソフトウェア (神奈川)	8	9
静甲株式会社 (静岡)	1	0
山梨学院大学 (山梨)	0	2
株式会社デンソー (愛知)	7	0
愛媛女子短期大学 (愛媛)	0	4
H o n d a (栃木)	10	2
日本精工 (滋賀)	3	0
大垣ミナモトソフトボールクラブ (岐阜)	2	3
太陽誘電 (群馬)	4	6
福岡大学 (福岡)	0	1
三菱化学クラブ (岡山)	0	4
戸田中央総合病院 (埼玉)	8	6
伊予銀行 (愛媛)	6	1
日立マクセル (京都)	1	5
株式会社豊田自動織機 (愛知)	4	0
北九州東芝 (福岡)	0	2
淑徳大学 (埼玉)	1	3
佐川急便 (京都)	2	0
東京女子体育大学 (東京)	3	1
富士大学 (岩手)	1	2
大鵬薬品 (徳島)	1	0
園田学園女子大学 (兵庫)	0	3
ペヤング (群馬)	2	4
シオノギ製薬 (兵庫)	3	1
東海学園大学 (愛知)	6	6
島根三洋電機 (島根)	1	3
Y K K (富山)	0	4
トヨタ自動車 (愛知)	15	0

第25回東日本大学(男子)ソフトボール選手権大会

会期：平成22年8月6日(金)～8日(日)

会場：宮城県東松島市／鷹来の森運動公園



第25回東日本大学(女子)ソフトボール選手権大会

会期：平成22年8月6日(金)～8日(日)

会場：宮城県東松島市／鷹来の森運動公園

順位	大学名	対戦回数	勝利回数	敗戦回数	引き分け回数
1.	東北福祉大学	9	8	0	0
2.	筑波大学	0	11	0	0
3.	北翔大学	3	0	12	1
4.	文教大学	9	6	1	0
5.	日本女子体育大学	2	1	2	0
6.	山梨学院大学	1	10	1	0
7.	松本大学	6	2	3	0
8.	城西国際大学	1	0	7	0
9.	東京国際大学	6	3	0	0
10.	東京学芸大学	3	12	0	0
11.	国際武道大学	0	5	4	0
12.	学習院大学	7	2	2	0
13.	東京女子体育大学	12	3	10	0
14.	日本体育大学	5	2	2	0
15.	東海大学	12	0	12	0
16.	中央大学	0	6	0	0
17.	早稲田大学	6	1	5	0
18.	仙台大学	0	2	0	0
19.	淑徳大学	2	3	0	0
20.	城西大学	3	2	10	0
21.	関東学園大学	4	2	0	0
22.	国士舘大学	7	8	0	0
23.	順天堂大学	10	5	0	0
24.	慶應義塾大学	0	0	0	0
25.	富士大学	5	0	0	0

会期：平成22年8月6日(金)～9日(日)

立命館大学

雷雨のため中止
両校優勝

環太平洋大学

第42回西日本大学(女子)ソフトボール選手権大会

会期：平成22年8月6日(金)～9日(日)

会場：福岡県北九州市／ひびきコスモス公園

1. 武庫川女子大学 4
2. 熊本学園大学 3
3. 関西学国語大学 0
4. 鈴鹿国際大学 4
5. 広島修道大学 2
6. 至学館大学 7
7. 大阪体育大学 0
8. 中京大学 4
9. 大阪国際大学 25
10. 香川大学 0
11. 龍谷大学 9
12. 中京学院大学 5
13. 広島大学 0
14. 東海学院大学 24
15. 神戸親和女子大学 5
16. 福岡大学 4
17. 環太平洋大学 2
18. 天理大学 7
19. びわこ成蹊スポーツ大学 7
20. 名古屋大学 0
21. 東海学園大学 9
22. 九州共立大学 2
23. 鳥取短期大学 0
24. 大阪大谷大学 8
25. 愛媛女子短期大学 7
26. 愛知教育大学 0
27. 日本文理大学 16
28. 兵庫教育大学 1
29. 中国学園大学 0
30. 立命館大学 17
31. 日本福祉大学 1
32. 園田学園女子大学 4

5
3
4
1
2
1
4
2
1
9
0
5
2
10
0
2
5
6
1
5
0
8
4
1
1
0
7
5

神戸親和女子大学
雷雨のため中止
両校優勝
園田学園女子大学

第9回大学ソフトボール東海オープン

会期：平成22年3月16日（火）・17日（水）・18日（木）

会場：愛知県安城市／安城市総合運動公園

男子予選リーグ戦（3月17日）

Aグループ	日体A	高崎経済	中部	順
日体A		○10-0	○10-0	1
高崎経済	●0-10		●5-13	3
中部	●0-10	○13-5		2

Bグループ	中京	信州	広島	順
中京		○4-1	●1-2	2
信州	●1-4		●1-8	3
広島	○2-1	○8-1		1

Cグループ	日体B	京都	日本福祉	順
日体B		○12-2	○5-4	1
京都	●2-12		○14-3	2
日本福祉	●4-5	●3-14		3

Dグループ	中京学院	中央	佐賀	順
中京学院		○7-2	○9-0	1
中央	●2-7		○2-1	2
佐賀	●0-9	●1-2		3

男子順位決定戦（3月18日）

1～4位決定戦

日本体育大学A（2年連続2回目）

9	2
7	0
4	7
3	4
日（優勝） 本体育大A	広（4位） 島大
日（3位） 本体育大B	中（2位） 京学院大

5～8位決定戦

中京大学

9	1
0	10
17	5
8	15
中（8位） 部大	中（5位） 京大
京（6位） 都大	中（7位） 央大

9～12位決定戦

高崎経済大学

7	0
4	1
2	9
9	2
高（9位） 崎経大	信（11位） 州大
日（12位） 本福祉大	佐（10位） 賀大

男子個人表彰

・最優秀選手賞：伊藤皓二（日本体育大学A） ・敢闘選手賞：鈴木 隆（中京学院大学）

女子予選リーグ戦（3月17日）

Eグループ	中 京	仙 台	日本福祉	順
中 京		○13-2	○3-0	1
仙 台	●2-13		●0-3	3
日本福祉	●0-3	○3-0		2

Fグループ	福 岡	東海学園	愛知教育	順
福 岡		●0-9	○10-0	2
東海学園	○9-0		○16-0	1
愛知教育	●0-10	●0-16		3

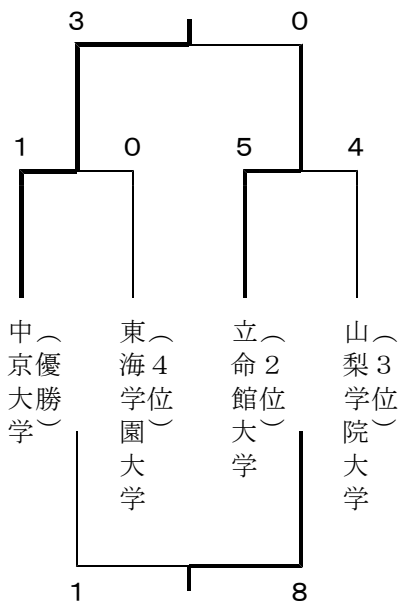
Gグループ	立 命 館	東海学院	中京女子	順
立 命 館		○4-0	○6-0	1
東海学院	●0-4		○9-3	2
中京女子	●0-6	●3-9		3

Hグループ	山梨学院	国 士 館	中京学院	順
山梨学院		○4-0	○9-2	1
国 士 館	●0-4		○12-1	2
中京学院	●1-12	●2-9		3

女子順位決定戦（3月18日）

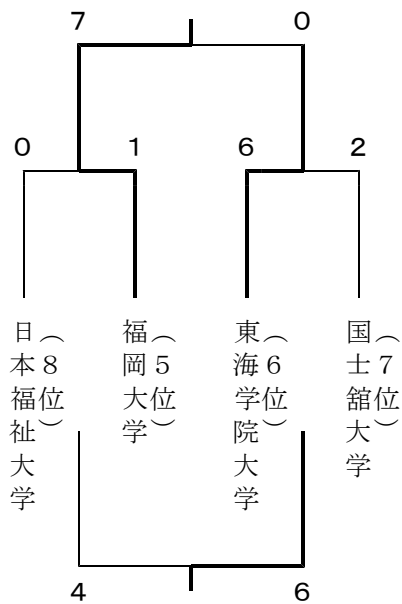
1～4位決定戦

中京大学（2年ぶり4回目）



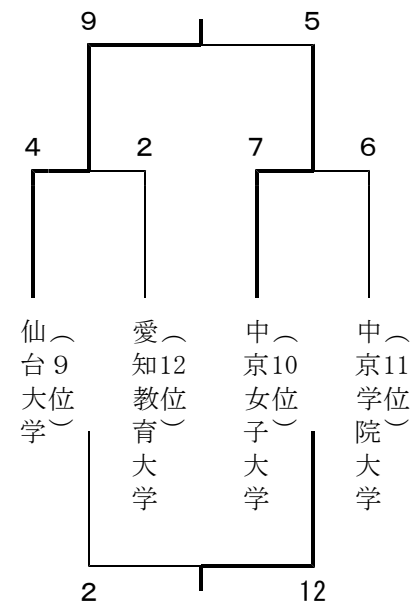
5～8位決定戦

福岡大学



9～12位決定戦

仙台大学



女子個人表彰

・最優秀選手賞：瀧 敦子（中京大学）

・敢闘選手賞：青野可奈（立命館大学）

講評 本大会では、初の試みとして、投手の20秒ルールと打者の10秒ルールを採用した。3球場ではデジタルタイマーを用い、3球場はタイムキーパーがストップウォッチで計測した。男女48試合を行ったが、このルールの適応は1件もなかった。

た。しかし、打者が両足を打者席からはずしてサインを見る光景は多々認められたが、球審の指導によってすぐに改善された。これらによってスピーディーな試合が展開されたと思われる。（東海地区大学ソフトボール連盟理事長 矢澤久史）

第1回城西大学学長杯大学女子ソフトボールIN埼玉

会期：平成22年3月27日(土)・28日(日)

会場：埼玉県毛呂山町／大類ソフトボールパーク・西戸グラウンド

チーム	山梨学院	城 西	東京女体	富 士	早 稲 田	松 本	勝	分	敗	順
山梨学院		○12-7	○3-1	○12-7	○3-0	○8-0	5	0	0	優勝
城 西	●7-12		○6-4	○15-0	○9-8	○8-2	4	0	1	2位
東京女体	●1-3	●4-6		○10-4	○3-1	○5-4	3	0	2	3位
富 士	●7-12	●0-15	●4-10		○10-6	○10-3	2	0	3	4位
早 稲 田	●0-3	●8-9	●1-3	●6-10		○3-2	1	0	4	5位
松 本	●0-8	●2-8	●4-5	●3-10	●2-3		0	0	5	6位

第12回千葉オープンチャレンジカップ・ソフトボールフェスティバル

会期：平成22年3月29日(月)・31日(水)

会場：千葉県野田市／東京理科大学ソフトボール球場

予選トーナメント

●Aブロック（5チームによるトーナメント）

国 士 館 大 学	2				
学 習 院 大 学	8				
東 海 大 学	9	6			
埼 玉 大 学	9		8		
筑 波 大 学	7			8	

●Bブロック（5チームによるトーナメント）

高 崎 経 済 大 学	15				
岐阜聖徳学園大学	19				
東 京 学 芸 大 学	0	7			
文 教 大 学	4		4		
東 京 大 学	12			4	

●Cブロック（4チームによるトーナメント）

関 東 学 園 大 学	6				
東 京 理 科 大 学	7				
北 海 道 大 学	3				
千 葉 大 学	4				
関 東 学 園 大 学	15				
北 海 道 大 学	0				

※第1日目第3試合の途中、ひょう（雹）により中断し、翌日（30日）、サスペンデッドゲームを採用した。しかしながら、予備日（31日）は、学内（チーム）事情により参加できないチームが7大学あったため、予選トーナメント終了後、翌日参加できるチームによる決勝トーナメントの抽選を行った。その上で、各グラウンド2試合について

ては、翌日は参加できないチームの意向を尊重しながら研修試合（エキシビション）を実施した。試合は、すべて90分制である。

●研修試合（エキシビション）結果

文教大学 7－5 高崎経済大学
筑波大学 11－0 東京学芸大学
岐阜聖徳学園大学 11－6 学習院大学
国士舘大学 13－0 千葉大学
埼玉大学 5－3 北海道大学
関東学園大学 9－2 東京大学

●決勝第Ⅰブロック

東京大学	1			
東京理科大学	11	4		
国士舘大学	10	7	優勝	
埼玉大学	0			
埼玉大学	4			
東京大学	9	3位決定		

●決勝第Ⅱブロック（3チームによるリーグ戦）

文教大学 4－6 北海道大学
文教大学 4－6 千葉大学
北海道大学 6－3 千葉大学

第11回「峠のまち」Matsuida Cup 男・女大学ソフトボール強化大会

会期：平成22年4月17日（土）～18日（日）

会場：群馬県安中市松井田町／五料運動場・坂本スポーツ広場他

【男子】※季節外れの降雪により第2日目の日程が中止となり、順位なしとなった。

横川LEAG	都文	信州	東海	城西
都留文科		● 5－14	○ 6－5	中止
信州	○ 14－5		中止	○ 12－2
東海	● 5－6	中止		● 4－9
城西	中止	● 2－12	○ 9－4	

碓氷LEAG	千葉	山梨	高経	関学
千葉		● 5－8	○ 15－7	中止
山梨学院	○ 8－5		中止	● 1－20
高崎経済	● 7－15	中止		● 2－10
関東学園	中止	○ 20－1	○ 10－2	

【女子】※季節外れの降雪により第2日目の日程が中止となり、順位なしとなった。

横川LEAG	山梨	城西	新島	東海
山梨学院		○ 10－3	○ 9－1	中止
城西	● 3－10		中止	○ 4－3
新島短期	● 1－9	中止		● 0－11
東海	中止	● 3－4	○ 11－0	

小日向	松本	東福	富士	関学
松本		● 0－5	● 1－5	中止
東北福祉	○ 5－0		中止	○ 4－0
富士	○ 5－1	中止		● 0－7
関東学園	中止	● 0－4	○ 7－0	

第7回 北信越大学オープンソフトボール大会

会期：平成22年6月12（土）・13日（日）

会場：富山県富山市／岩瀬ソフトボール球場

男子大会結果

高崎経済大学	5			
富山大学 A	9		15	
石川県立大学	2	10		
富山大学 B	2			
金沢大学	6		2	
富山大学 A				

3位決定戦

石川県立大学	0		
富山大学 B	11		11
高崎経済大学			4

女子大会結果

大阪国際大学	8			
松本大学 B	1	20		
上越教育大学	3		1	
富山大学	17	0		
金沢学院大学	8			
福井大学	1	1		
至学館大学	2		4	
松本大学 A	抽選	9		
松本大学 A				

3位決定戦

富山大学			1
金沢学院大学			6

敗者戦

松本大学 B	31		
上越教育大学	0		2
福井大学	0		
至学館大学	棄権	7	5

藤原初男杯大学実業団交流ソフトボール第2回秋季東海オープン

会期：平成22年11月20日（土）・21日（日）

会場：豊田市／豊田市運動公園ソフトボール場・多目的広場

【開催の趣旨】秋季東海オープンは、愛知県内の実業団チームの協力を得て、実業団の若手選手と大学生の競技力向上、また実業団チームと大学チームの交流を目的とする研修会的な大会として昨年スタートしました。本年からは「藤原初男杯」を冠しました。昨年、本大会を創設するにあたり、その中心としてご尽力いただいたのは東海地区大

学ソフトボール連盟副会長の藤原初男氏でした。氏は日本体育大学の応援部出身という異色な存在でしたが、ガンに体中を侵されながらも最後までソフトボールを愛し、グラウンドに立ち続けました。監督する東海学園大学がインカレ出場権を獲得するのを見届けて逝去されました。ここにその遺志を受け継ぐべく、冠した次第です。

対 戦 成 績 表

Aグループ	トヨタ	淑徳	I P U	至学館	ミナモ	福祉	国際	中京	勝	分	敗	順
トヨタ		○ 9-5	○ 7-1			○ 9-2	○ 4-2		4	0	0	3位
淑徳	● 5-9			○ 7-1	● 0-2			○ 4-2	2	0	2	-
環太平洋	● 1-7			○ 7-1	● 1-5			● 3-7	1	0	3	-
至学館		● 1-7	● 1-7			● 2-8	● 1-5		0	0	4	-
大垣ミナモ		○ 2-0	○ 5-1			● 1-3	○ 4-2		3	0	1	-
東北福祉	● 2-9			○ 8-2	○ 3-1			○ 2-1	3	0	1	-
大阪国際	● 2-4			○ 5-1	● 2-4			○ 11-1	2	0	2	-
中京		● 2-4	○ 7-3			● 1-2	● 1-11		1	0	3	-

Bグループ	織機	日体	大谷	鈴鹿	DENSO	松本	園田	東園	勝	分	敗	順
豊田織機		○ 4-0	○ 12-0			○ 7-0	○ 4-2		4	0	0	優勝
日本体育	● 0-4			○ 5-0	● 1-7			○ 1-0	2	0	2	-
大阪大谷	● 0-12			● 5-10	● 0-15			● 1-4	0	0	4	-
鈴鹿国際		● 0-5	○ 10-5			○ 4-0	○ 2-1		3	0	1	-
デンソー		○ 7-1	○ 15-0			○ 7-3	○ 8-0		4	0	0	2位
松本	● 0-7			● 0-4	● 3-7			● 5-7	0	0	4	-
園田学園	● 2-4			● 1-2	● 0-8			○ 10-4	1	0	3	-
東海学園		● 0-1	○ 4-1			○ 7-5	● 4-10		2	0	2	-

優勝：豊田自動織機（2年連続）4勝0敗、準優勝：デンソー4勝0敗

※順位は全勝チームの失点率による。

■藤原初男 略歴

1951年宮崎県に生まれる。日本体育大学卒業後、縁あって愛知県の一宮（現、修文）女子高等学校教諭となり、1979年同校ソフトボール部の監督に就任。全国高校総体5回、全国選抜大会4回、国体選抜チーム2

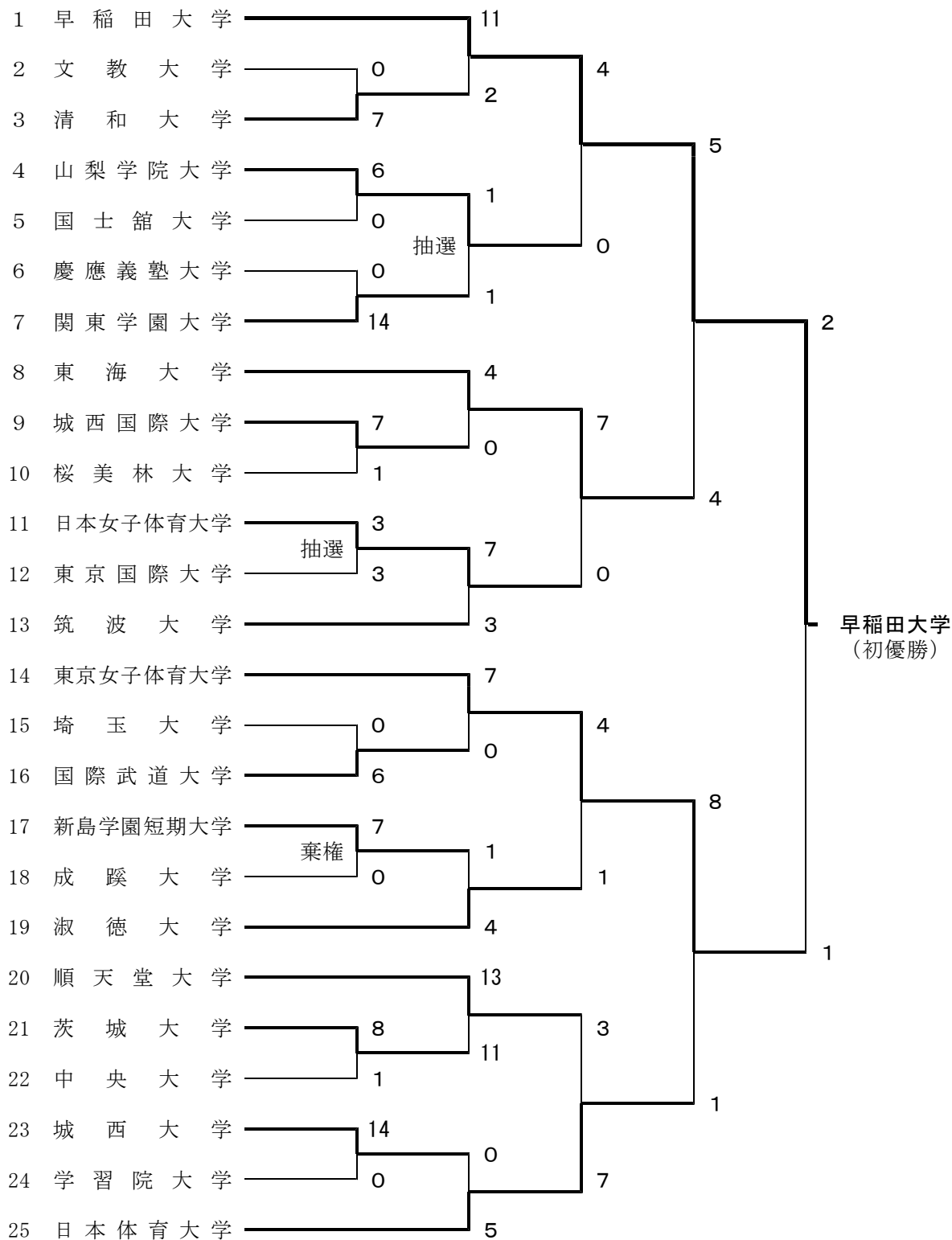
回の全国大会出場を果たす。2005年6月東海学園大学女子ソフトボール部監督に就任。この間、愛知県ソフトボール協会副理事長、東海地区大学ソフトボール連盟副会長等を歴任。2010年6月17日永眠。

第41回関東大学男女ソフトボール選手権大会

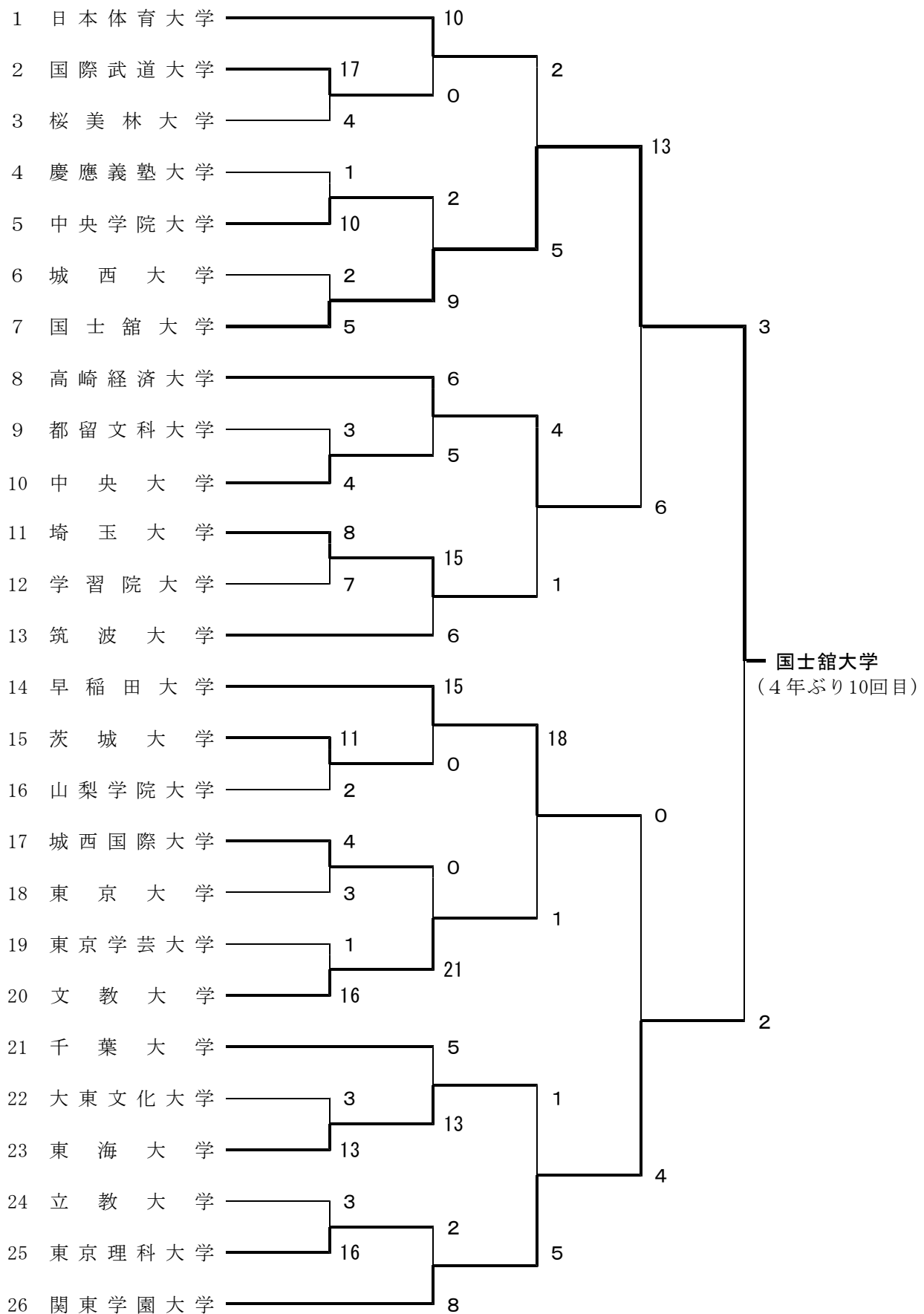
会期：平成22年10月29日（金）～11月2日（日）

会場：栃木県足利市渡良瀬運動場、他

【女子】



【男子】



【北海道東北地区】

第31回北海道・東北地区大学ソフトボール選手権大会 兼、第45回全日本大学ソフトボール選手権大会北海道・東北地区予選会

会期：平成22年5月22日(土)～23日(日)

会場：福島市／十六沼公園スポーツ広場

男子選手権

1. 仙台大学	5								
2. 日本大学工学部	4								
3. 福島大学	6								
4. 東北学院大学工学部	5								
5. 宮城教育大学	11								
6. 八戸工業大学	0								
7. 東北大学	12								
8. 北海道大学	2								
9. 弘前大学	4								
10. 盛岡大学	11								

女子選手権

1. 富士大学	4								
2. 北翔大学	10								
3. 弘前大学	9								
4. 仙台大学	13								
5. 盛岡大学	7								
6. 東北福祉大学	18								

女子インカレ出場は、東北福祉大学(8年連続8回目)
と富士大学(2年ぶり6回目)

男子インカレ出場は、仙台大学(5年連続24回目)と
盛岡大学(2年連続10回目)

平成22年度 東北地区大学ソフトボール秋季大会

会期：平成22年10月16日(土)～17日(日)

会場：岩手県花巻市石鳥谷町石鳥谷ふれあい運動公園

〔男子〕

・予選リーグ戦

A	仙 台	宮 教	東 学	順
仙 台		○ 8-0	○ 8-1	1
宮城教育	● 0-8		● 4-6	3
東北学院	● 1-8	○ 6-4		2

B	盛 岡	日 工	福 島	順
盛 岡		○ 29-4	○ 7-1	1
日大工学	● 4-29		● 3-15	3
福 島	● 1-7	○ 15-3		2

C	東 北	弘 前	八 工	順
東 北		● 4-12	○ 14-13	2
弘 前	○ 12-4		○ 26-7	1
八戸工業	● 13-14	● 7-26		3

・ 7～9位決定戦

八戸工業大学(C 3)	0	
日本大工学部(B 3)	7	4 日
宮城教育大学(A 3)	3	大

・ 4～6位決定戦

東 北 大 学(C 2)	3	
福 島 大 学(B 2)	9	5 東 北 学 院
東北学院大学(A 2)	9	院

・ 1～3位決定戦

弘 前 大 学(C 1)	1	
盛 岡 大 学(B 1)	7	10 盛 岡
仙 台 大 学(A 1)	8	

〔女子〕

・ 予選リーグ戦

A	東 福	弘 前	盛 岡	順
東北福祉		○ 11-2	○ 17-0	1
弘 前	● 2-11		○ 9-8	2
盛 岡	● 0-17	● 8-9		3

B	富 士	仙 台	宮 教	順
富 士		○ 9-0	○ 18-1	1
仙 台	● 0-9		○ 7-0	2
宮城教育	● 1-18	● 0-7		3

・ 5～6位決定戦

盛 岡 大	9	
宮城教育大	8	盛岡大

・ 3～4位決定戦

仙 台 大	12	
弘 前 大	0	仙台大

・ 1～2位決定戦

東北福祉大	10	
富 士 大	0	東北福祉大

【関東地区】 第5回関東学生男子ソフトボール春季リーグ戦

会期：平成22年5月3日(月)～5日(水)・8日(土)

会場：埼玉県坂戸市／坂戸市民総合運動公園野球場、毛呂山町／西戸グラウンド 他

I 部リーグ

チーム	文 教	城 西	東京理科	関東学園	東 海	高崎経済	勝	分	敗	順 位
文 教		● 2-19	● 2-7	● 1-15	● 2-9	● 11-17	0	0	5	6位
城 西	○ 19-2		● 2-6	● 4-6	○ 3-0	● 4-5	2	0	3	5位
東京理科	○ 7-2	○ 6-2		● 1-3	○ 9-2	● 1-7	3	0	2	3位
関東学園	○ 15-1	○ 6-4	○ 3-1		△ 11-11	○ 7-4	4	1	0	優勝
東 海	○ 9-2	● 0-3	● 2-9	△ 11-11		○ 13-6	2	1	2	4位
高崎経済	○ 17-11	○ 5-4	○ 7-1	● 4-7	● 6-13		3	0	2	準優勝

※ 2～3位は大会規定による。

Ⅱ部リーグ

チーム	国際武道	埼玉	筑波	山梨学院	千葉	茨城	勝	分	敗	順位
国際武道		○4-3	○11-6	○19-8	○10-6	○9-8	5	0	0	優勝
埼玉	●3-4		○16-9	○10-0	○4-3	●5-8	3	0	2	準優勝
筑波	●6-11	●9-16		△11-11	○12-5	○14-6	2	1	2	3位
山梨学院	●8-19	●0-10	△11-11		●3-5	○10-3	1	1	3	5位
千葉	●6-10	●3-4	●5-12	○5-3		○9-3	2	0	3	4位
茨城	●8-9	○8-5	●6-14	●3-10	●3-9		1	0	4	6位

Ⅲ部リーグ

チーム	日大生資	中央学院	芝浦工業	都留文科	日大生産	東京国際	勝	分	敗	順位
日大生資		●8-14	○18-3	○18-7	○7-2	○20-2	4	0	1	準優勝
中央学院	○14-8		△2-2	○9-8	○15-12	○26-4	4	1	0	優勝
芝浦工業	●3-18	△2-2		△6-6	○16-4	○22-3	2	2	1	3位
都留文科	●7-18	●8-9	△6-6		○28-3	○36-1	2	1	2	4位
日大生産	●2-7	●12-15	●4-16	●3-28		○16-13	1	0	4	5位
東京国際	●2-20	●4-26	●3-22	●1-36	●13-16		0	0	5	6位

Ⅰ部Ⅱ部入替戦 文教大学(Ⅰ部6位)5-13国際武道大学(Ⅱ部1位) ※国際武道大学はⅠ部昇格

Ⅱ部Ⅲ部入替戦 茨城大学(Ⅱ部6位)10-11中央学院大学(Ⅲ部1位) ※中央学院大学はⅡ部昇格

第5回関東学生女子ソフトボール春季リーグ戦

会期：平成21年5月5日(月)・6日(火)・10日(土)・11日(日)

会場：埼玉県毛呂山町／大類ソフトボールパーク他

Ⅰ部リーグ

チーム	山梨学院	淑徳	城西	東海	関東学園	城西国際	勝	分	敗	順位
山梨学院		○8-1	○7-1	○5-3	○3-0	○7-0	5	0	0	優勝
淑徳	●1-8		○4-2	○4-1	○1-0	○4-0	4	0	1	準優勝
城西	●1-7	●2-4		○16-2	●1-2	○13-2	2	0	3	3位
東海	●3-5	●1-4	●2-16		○4-0	○14-0	2	0	3	4位
関東学園	●0-3	●0-1	○2-1	●0-4		△4-4	1	1	3	5位
城西国際	●0-7	●0-4	●2-13	●0-14	△4-4		0	1	4	6位

※3～4位は大会規定による。

Ⅱ部リーグ

チーム	清 和	筑 波	新島学園	文 教	順 天 堂	勝	分	敗	順 位
清 和		○ 7 - 3	○ 10 - 2	○ 6 - 3	○ 15 - 2	4	0	0	優勝
筑 波	● 3 - 7		● 1 - 8	○ 8 - 4	△ 5 - 5	1	1	2	4 位
新島学園	● 2 - 10	○ 8 - 1		△ 7 - 6	● 4 - 5	1	1	2	3 位
文 教	● 3 - 6	● 4 - 8	● 6 - 7		● 5 - 7	0	0	4	5 位
順 天 堂	● 2 - 15	△ 5 - 5	○ 5 - 4	○ 7 - 5		2	1	1	準優勝

※ 3 ～ 4 位は大会規定による。

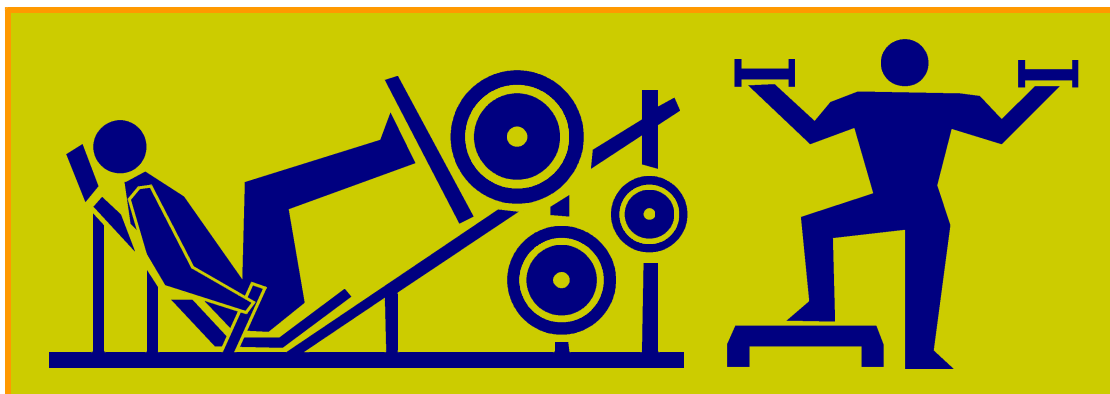
Ⅲ部リーグ

チーム	国際武道	埼 玉	茨 城	日大生資	千 葉	東京国際	勝	分	敗	順 位
国際武道		○ 13 - 4	○ 26 - 2	○ 15 - 0	○ 13 - 0	△ 6 - 6	4	1	0	準優勝
埼 玉	● 4 - 13		○ 12 - 5	○ 23 - 0	○ 14 - 5	● 0 - 40	3	0	2	3 位
茨 城	● 2 - 26	● 5 - 12		○ 16 - 5	○ 16 - 13	● 1 - 10	2	0	3	4 位
日大生資	● 0 - 15	● 0 - 23	● 5 - 16		● 0 - 7	● 0 - 9	0	0	5	6 位
千 葉	● 0 - 13	● 5 - 14	● 13 - 16	○ 7 - 0		● 0 - 19	1	0	4	5 位
東京国際	△ 6 - 6	○ 40 - 0	○ 10 - 1	○ 9 - 0	○ 19 - 0		4	1	0	優勝

※ 1 ～ 2 位は大会規定による。

I 部Ⅱ部入替戦 城西国際大学 (I 部 6 位) 5 - 6 清和大学 (Ⅱ部 1 位) ※清和大学は I 部昇格

Ⅱ部Ⅲ部入替戦 文教大学 (Ⅱ部 5 位) 2 - 8 東京国際大学 (Ⅲ部 1 位) ※東京国際大学はⅡ部昇格

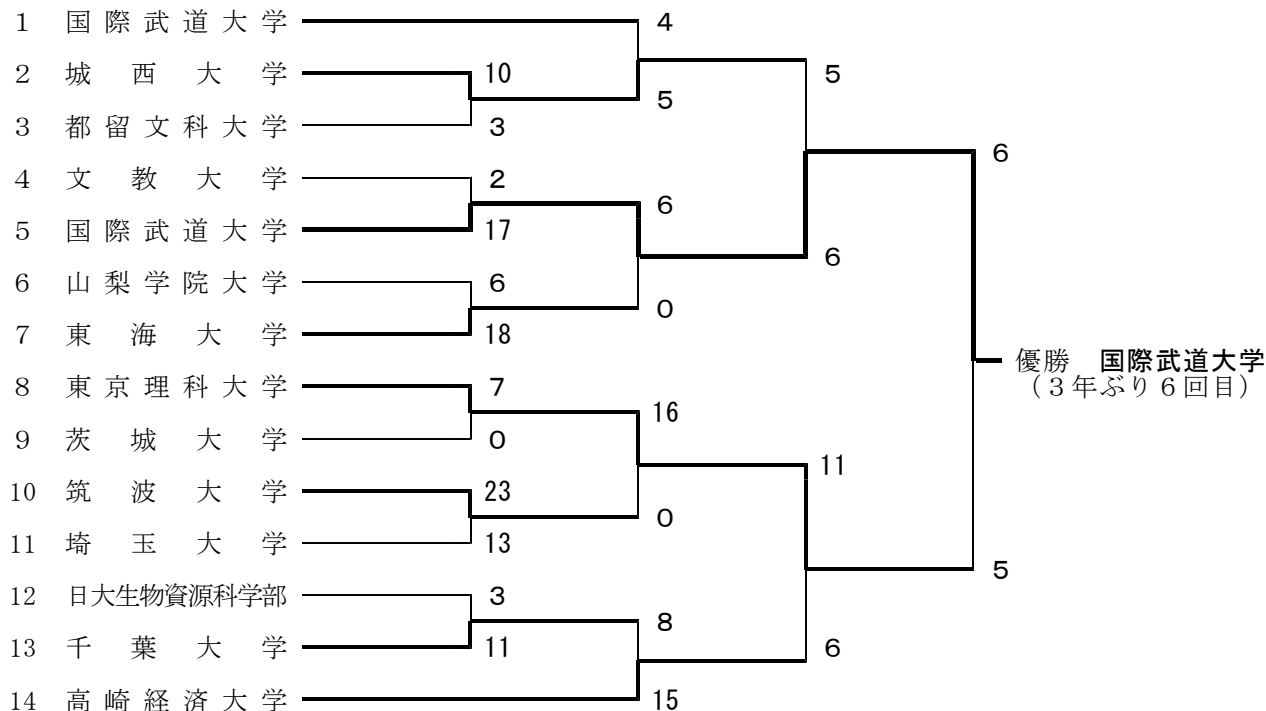


第18回関東学生ソフトボール選手権大会 兼 第45回全日本大学ソフトボール選手権大会関東地区予選会

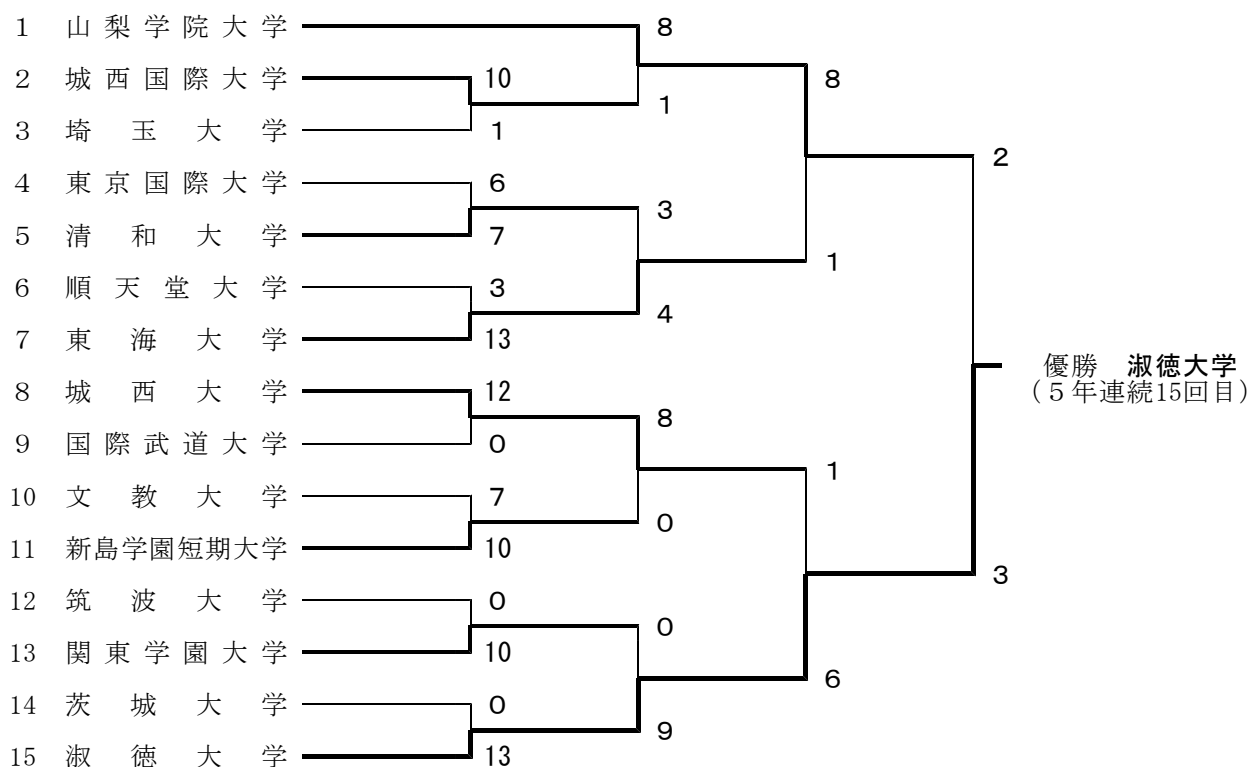
会期：22年5月29日(土)・30日(日)

会場：山梨県笛吹市／小瀬スポーツ公園球技場他

男子の部



女子の部



第10回関東学生男子ソフトボール秋季リーグ戦

会期：平成22年10月 9 日(土)～11日(月)・16日(土)・17日(日)

会場：東松山市／駒形公園ソフトボール場、毛呂山町／西戸グラウンド 他

I 部リーグ

チーム	関東学園	高崎経済	東京理科	東 海	城 西	国際武道	勝	分	敗	順 位
関東学園		○10－1	○12－2	●0－1	△3－3	○13－3	3	1	1	優勝
高崎経済	●1－10		○13－7	○9－1	●2－3	○7－3	3	0	2	3位
東京理科	●2－12	●7－13		●6－7	○5－3	○6－4	2	0	3	5位
東 海	○1－0	●1－9	○7－6		●1－8	○15－0	3	0	2	4位
城 西	△3－3	○3－2	●3－5	○8－1		○8－0	3	1	1	準優勝
国際武道	●3－13	●3－7	●4－6	●0－15	●0－8		0	0	5	6位

※1～2位、3～4位は大会規定による。

II 部リーグ

チーム	文 教	埼 玉	筑 波	千 葉	山梨学院	中央学院	勝	分	敗	順 位
文 教		●5－20	○20－9	○7－5	○12－2	○5－3	4	0	1	準優勝
埼 玉	○20－5		○7－1	○3－2	●7－10	○11－10	4	0	1	優勝
筑 波	●9－20	●1－7		●15－16	●9－13	●6－16	0	0	5	6位
千 葉	●5－7	●2－3	○16－15		○10－9	○5－2	3	0	2	3位
山梨学院	●2－12	○10－7	○13－9	●9－10		○6－3	3	0	2	4位
中央学院	●3－5	●10－11	○16－6	●2－5	●3－6		1	0	4	5位

※1～2位、3～4位は大会規定による。

III 部リーグ

チーム	茨 城	日大生資	芝浦工業	都留文科	日大生産	東京国際	勝	分	敗	順 位
茨 城		●2－3	○18－7	●3－9	○12－4	○17－9	3	0	2	3位
日大生資	○3－2		●5－7	●3－5	○22－4	○20－5	3	0	2	準優勝
芝浦工業	●7－18	○7－5		●5－6	●11－13	○10－7	2	0	3	5位
都留文科	○9－3	○5－3	○6－5		○16－7	○30－0	5	0	0	優勝
日大生産	●4－12	●4－22	○13－11	●7－16		○13－5	2	0	3	4位
東京国際	●9－17	●5－20	●7－10	●0－30	●5－13		0	0	5	6位

※2～3位、4～5位は大会規定による。

I 部 II 部入替戦 国際武道大学 (I 部 6 位) 9 - 2 埼玉大学 (II 部 1 位) ※国際武道大学は I 部残留
 II 部 III 部入替戦 筑波大学 (II 部 6 位) 9 - 13 都留文科大学 (III 部 1 位) ※都留文科大学は II 部昇格

第10回関東学生女子ソフトボール秋季リーグ戦

会期：平成22年10月9日(土)～11日(月)・16日(土)・17日(日)

会場：毛呂山町／大類ソフトボールパーク、鶴ヶ島市／鶴ヶ島運動公園グラウンド

I 部リーグ

チーム	山梨学院	淑徳	城西	東海	関東学園	清和	勝	分	敗	順位
山梨学院		○ 8 - 0	○ 8 - 4	○ 5 - 1	○ 9 - 1	○ 5 - 4	5	0	0	優勝
淑徳	● 0 - 8		● 0 - 3	● 3 - 4	○ 7 - 0	○ 7 - 0	2	0	3	5 位
城西	● 4 - 8	○ 3 - 0		△ 6 - 6	● 3 - 6	○ 12 - 1	2	1	2	3 位
東海	● 1 - 5	○ 4 - 3	△ 6 - 6		● 1 - 5	○ 7 - 0	2	1	2	4 位
関東学園	● 1 - 9	● 0 - 7	○ 6 - 3	○ 5 - 1		○ 5 - 1	3	0	2	準優勝
清和	● 4 - 5	● 0 - 7	● 1 - 12	● 0 - 7	● 1 - 5		0	0	5	6 位

※3～4位は得失点差による。

II 部リーグ

チーム	城西国際	順天堂	新島学園	筑波	東京国際	勝	分	敗	順位
城西国際		○ 4 - 1	● 1 - 3	○ 9 - 2	△ 3 - 3	2	1	1	3 位
順天堂	● 1 - 4		● 3 - 5	○ 17 - 4	● 1 - 3	1	0	3	4 位
新島学園	○ 3 - 1	○ 5 - 3		○ 1 - 0	● 0 - 10	3	0	1	準優勝
筑波	● 2 - 9	● 4 - 17	● 0 - 1		● 0 - 11	0	0	4	5 位
東京国際	△ 3 - 3	○ 3 - 1	○ 10 - 0	○ 11 - 0		3	1	0	優勝

III 部リーグ

チーム	文教	国際武道	埼玉	茨城	千葉	日大生資	勝	分	敗	順位
文教		● 5 - 12	○ 5 - 0	○ 7 - 5	○ 10 - 4	○ 14 - 1	4	0	1	準優勝
国際武道	○ 12 - 5		○ 11 - 1	○ 9 - 0	○ 18 - 1	○ 11 - 0	5	0	0	優勝
埼玉	● 0 - 5	● 1 - 11		○ 7 - 6	● 5 - 6	○ 13 - 11	2	0	3	4 位
茨城	● 5 - 7	● 0 - 9	● 6 - 7		● 4 - 7	○ 14 - 5	1	0	4	5 位
千葉	● 4 - 10	● 1 - 18	○ 6 - 5	○ 7 - 4		○ 9 - 8	3	0	2	3 位
日大生資	● 1 - 14	● 0 - 11	● 11 - 13	● 5 - 14	● 8 - 9		0	0	5	6 位

※リーグ編成の変更により、国際武道大学は II 部へ、文教大学は入替戦へ

I 部 II 部入替戦 清和大学 (I 部 6 位) 4 - 0 東京国際大学 (II 部 1 位) ※清和大学は I 部残留
II 部 III 部入替戦 筑波大学 (II 部 5 位) 8 - 12 文教大学 (III 部 2 位) ※文教大学は II 部昇格

【北信越地区】

第16回北信越地区大学男子・女子ソフトボール選手権大会 (兼、文部科学大臣杯第45回全日本大学ソフトボール選手権大会予選会)

会 期：平成22年 5 月22日 (土)・23日 (日)
会 場：新潟県新潟市阿賀野川河川公園

【男子大会結果】

福 井 大 学	0			
信 州 大 学	18	41	0	
石川県立大学	0			
福井県立大学	10	9		
富 山 大 学	22	8		
金 沢 大 学	15	2		
長 野 大 学	5			

優勝
富山大学

※この大会の男子優勝チーム及び
女子優勝・第2代表チームは、
9月10日から富山県富山市で行
われる全国大会に出場する。

【女子大会結果】

信 州 大 学	0			
富 山 大 学	2	12	6	
金沢学院大学	13			
松 本 大 学	11	16	7	
福 井 大 学	0			
金 沢 大 学	0			

優勝
松本大学

第2代表決定戦

金沢学院大学	14		
富 山 大 学	10	8	
金 沢 大 学	9		
福 井 大 学	15	9	1
信 州 大 学	4		

第17回北信越大学新人ソフトボール選手権大会

会期：平成22年 9 月18日 (土)・19日 (日)
会場：石川県白山市／松任グリーンパーク他

男子

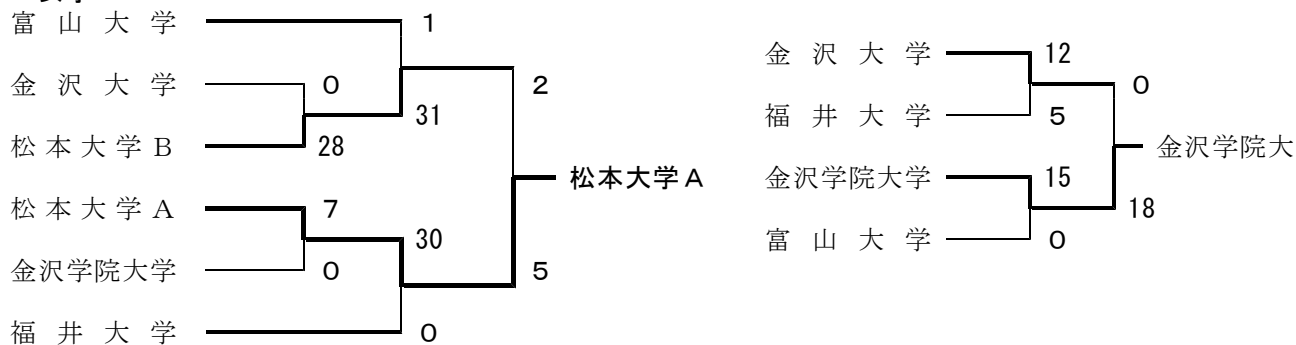
福 井 大 学	3			
富 山 大 学	8	10	7	
金 沢 大 学	19			
信 州 大 学	17	10		
石川県立大学	1	14		
福井県立大学	0			

信州大学

富 山 大 学	5		
福井県立大学	8	9	
石川県立大学	13		
福 井 大 学	20	8	

福井県立大学

女子



【東京地区】

平成22年度第44回東京都大学ソフトボール春季リーグ戦

男子1部

チーム	国士舘	日本体育	早稲田	桜美林	中央	学習院	勝	分	敗	順位
国士舘		○2-1	○5-4	○8-0	○11-7	○12-8	5	0	0	優勝
日本体育	●1-2		○6-2	○16-0	○7-0	○13-1	4	0	1	2位
早稲田	●4-5	●2-6		○10-6	○14-2	○15-0	3	0	2	3位
桜美林	●0-8	●0-16	●6-10		●1-3	○11-8	1	0	4	4位
中央	●7-11	●0-7	●2-14	○3-1		●2-11	1	0	4	5位
学習院	●8-12	●1-13	●0-15	●8-11	○11-2		1	0	4	6位

※4位～6位は失点率による。

男子2部

チーム	明治	立教	慶應義塾	東京学芸	専修	日本	勝	分	敗	順位
明治		○8-2	○6-5	○6-2	●8-9	○8-2	4	0	1	1位
立教	●2-8		○7-6	○23-0	○12-7	●8-9	3	0	2	2位
慶應義塾	●5-6	●6-7		○11-10	○17-1	○14-4	3	0	2	3位
東京学芸	●2-6	●0-23	●10-11		○7-6	○7-0	2	0	3	4位
専修	○9-8	●7-12	●1-17	●6-7		○14-9	2	0	3	5位
日本	●2-8	○9-8	●4-14	●0-7	●9-14		1	0	4	6位

※2位と3位、及び4位と5位は直接対決の勝敗による。

男子 3 部

チーム	東 京	成 蹊	東京農業	東 洋	帝 京	I C U	勝	分	敗	順 位
東 京		○11-4	○8-4	○14-2	○25-4	○5-4	5	0	0	1 位
成 蹊	●4-11		○12-1	○6-3	○15-1	○30-4	4	0	1	2 位
東京農業	●4-8	●1-12		○6-5	○8-3	△7-7	2	1	2	3 位
東 洋	●2-14	●3-6	●5-6		○15-1	△8-8	1	1	3	4 位
帝 京	●4-25	●1-15	●3-8	●1-15		○6-3	1	0	4	5 位
国際基督教	●4-5	●4-30	△7-7	△8-8	●3-6		0	2	3	6 位

男子 4 部

チーム	東京都市	文教湘南	一 橋	日本歯科	勝	分	敗	順 位
東京都市		○16-9	○8-3	○14-2	3	0	0	1 位
文教湘南	●9-16		○13-7	○19-3	2	0	1	2 位
一 橋	●3-8	●7-13		○20-7	1	0	2	3 位
日本歯科	●2-14	●3-19	●7-20		0	0	3	4 位

男子入れ替え戦

1 部 - 2 部

学習院大学 (6 位) 19-1 明治大学 (1 位)

※学習院大学は 1 部残留

2 部 - 3 部

日本大学 (6 位) 13-12 東京大学 (1 位)

※日本大学は 2 部残留

3 部 - 4 部

国際基督教大学 (6 位) 4-10 東京都市大学 (1 位)

※東京都市大学は 3 部昇格、国際基督教大学は 4 部降格

女子 1 部

チーム	東京女体	日本体育	日本女体	早 稲 田	国 士 館	東京学芸	勝	分	敗	順 位
東京女体		○5-2	○8-1	●9-11	○10-0	○20-0	4	0	1	優勝
日本体育	●2-5		○3-2	○5-3	○6-2	○8-1	4	0	1	2 位
日本女体	●1-8	●2-3		○7-0	○6-4	○14-1	3	0	2	3 位
早 稲 田	○11-9	●3-5	●0-7		○7-3	○8-2	3	0	2	4 位
国 士 館	●0-10	●2-6	●4-6	●3-7		○8-1	1	0	4	5 位
東京学芸	●0-20	●1-8	●1-14	●2-8	●1-8		0	0	5	6 位

※ 1 位と 2 位、及び 3 位と 4 位は直接対決の勝敗による

女子2部

チーム	学 習 院	桜 美 林	明 治	中 央	成 蹊	日 本	勝	分	敗	順 位
学 習 院		○13-2	○6-2	○12-3	○9-1	○7-0	5	0	0	1位
桜 美 林	●2-13		○7-2	○11-7	○18-6	○18-3	4	0	1	2位
明 治	●2-6	●2-7		○9-8	○5-4	○9-2	3	0	2	3位
中 央	●3-12	●7-11	●8-9		○7-6	○7-0	2	0	3	4位
成 蹊	●1-9	●6-18	●4-5	●6-7		○7-0	1	0	4	5位
日 本	●0-7	●3-18	●2-9	●0-7	●0-7		0	0	5	6位

女子3部

チーム	慶 応	専 修	実践女子	創 価	東 洋	I C U	勝	分	敗	順 位
慶 応		●1-2	△4-4	○9-7	○5-4	○36-0	3	1	1	1位
専 修	○2-1		●8-11	△7-7	○8-4	○22-4	3	1	1	2位
実践女子	△4-4	○11-8		○6-5	●1-10	○11-3	3	1	1	3位
創 価	●7-9	△7-7	●5-6		○7-1	○20-0	2	1	2	4位
東 洋	●4-5	●4-8	○10-1	●1-7		○22-0	2	0	3	5位
国際基督教	●0-36	●4-22	●3-11	●0-20	●0-22		0	0	5	6位

※1位～3位は失点率による。

女子入れ替え戦

1部-2部

2部-3部

東京学芸大学（6位）4-5 学習院大学（1位） 日本大学（6位）4-13 慶応大学（1位）

※学習院大学は1部昇格、東京学芸大学は2部降格 ※慶応大学は2部昇格、日本大学は3部降格

全日本大学選手権大会東京都第2次予選

男子

1. 桜美林大学	11	桜美林
2. 明治大学	18	1
3. 立教大学	5	
4. 中央大学	26	中
5. 学習院大学	13	央

女子

1. 早稲田大学	10	10
2. 学習院大学	1	0
3. 桜美林大学	2	早稲田
4. 国士舘大学	8	3
5. 東京学芸大学	1	

第45回全日本大学選手権大会の東京地区代表校

男子：国士舘大学、日本体育大学、早稲田大学、桜美林大学、中央大学

女子：東京女子体育大学、日本体育大学、日本女子体育大学、早稲田大学

平成22年度第45回東京都大学ソフトボール秋季リーグ戦

男子1部

チーム	早稲田	国士館	日本体育	学習院	中央	桜美林	勝	分	敗	順位
早稲田		○6-4	○12-2	○16-0	○12-0	○18-0	5	0	0	優勝
国士館	●4-6		○5-2	○8-0	○4-0	○15-1	4	0	1	2位
日本体育	●2-12	●2-5		○7-0	○17-0	○11-2	3	0	2	3位
学習院	●0-16	●0-8	●0-7		○9-2	○7-4	2	0	3	4位
中央	●0-12	●0-4	●0-17	●2-9		○12-2	1	0	4	5位
桜美林	●0-18	●1-15	●2-11	●4-7	●2-12		0	0	5	6位

男子2部

チーム	慶應義塾	明治	立教	専修	東京学芸	日本	勝	分	敗	順位
慶應義塾		○8-1	△8-8	○11-5	○12-1	○9-5	4	1	0	1位
明治	●1-8		○17-4	△7-7	○8-1	○6-5	3	1	1	2位
立教	△8-8	●4-17		○13-5	○18-3	○23-0	3	1	1	3位
専修	●5-11	△7-7	●5-13		○7-6	●8-9	1	1	3	4位
東京学芸	●1-12	●1-8	●3-18	●6-7		○5-4	1	0	4	5位
日本	●5-9	●5-6	●0-23	○9-8	●4-5		1	0	4	6位

※2位と3位、及び5位と6位は直接対決の勝敗による。

男子3部

チーム	成蹊	東京	東洋	東京農業	東京都市	帝京	勝	分	敗	順位
成蹊		○3-2	○12-5	●6-9	○14-0	○11-4	4	0	1	1位
東京	●2-3		○10-3	○10-4	○6-0	○11-1	4	0	1	2位
東洋	●5-12	●3-10		○11-4	○13-3	○13-5	3	0	2	3位
東京農業	○9-6	●4-10	●4-11		△7-7	●4-6	1	1	3	4位
東京都市	●0-14	●0-6	●3-13	△7-7		○7-2	1	1	3	5位
帝京	●4-11	●1-11	●5-13	○6-4	●2-7		1	0	4	6位

※1位と2位は直接対決の勝敗による。4位と5位は得失点差による。



男子4部

チーム	文教湘南	I C U	大東文化	日本歯科	一 橋	勝	分	敗	順 位
文教湘南		○18-0	△8-8	○30-2	○7-0	3	1	0	1位
国際基督教	●0-18		○15-9	○18-9	○7-0	3	0	1	2位
大東文化	△8-8	●9-15		○8-1	○12-1	2	1	1	3位
日本歯科	●2-30	●9-18	●1-8		○12-11	1	0	3	4位
一 橋	●0-7	●0-7	●1-12	●11-12		0	0	4	5位

男子入れ替え戦

1部-2部

日本大学(6位) 9-13 成蹊大学(1位)

※成蹊大学は2部昇格、日本大学は3部降格

桜美林大学(6位) 1-15 慶応大学(1位)

3部-4部

※慶応大学は1部昇格、桜美林大学は2部降格

帝京大学(6位) 6-9 文教大学(1位)

2部-3部

※文教大学は3部昇格、帝京大学は4部降格

女子1部

チーム	早 稲 田	日本体育	東京女体	国 士 館	日本女体	学 習 院	勝	分	敗	順 位
早 稲 田		○13-0	○8-1	○7-0	○12-5	○7-0	5	0	0	優勝
日本体育	●0-13		○3-2	○4-0	○13-1	○7-2	4	0	1	2位
東京女体	●1-8	●2-3		○4-0	○9-0	○17-0	3	0	2	3位
国 士 館	●0-7	●0-4	●0-4		○5-0	○6-0	2	0	3	4位
日本女体	●5-12	●1-13	●0-9	●0-5		○9-1	1	0	4	5位
学 習 院	●0-7	●2-7	●0-17	●0-6	●1-9		0	0	5	6位

女子2部

チーム	明 治	東京学芸	慶應義塾	中 央	桜 美 林	成 蹊	勝	分	敗	順 位
明 治		○2-1	○5-1	●7-10	○9-1	○14-4	4	0	1	1位
東京学芸	●1-2		○8-0	○6-3	○10-0	○5-3	4	0	1	2位
慶應義塾	●1-5	●0-8		○10-7	○9-8	○29-7	3	0	2	3位
中 央	○10-7	●3-6	●7-10		○7-4	△12-12	2	1	2	4位
桜 美 林	●1-9	●0-10	●8-9	●4-7		○11-8	1	0	4	5位
成 蹊	●4-14	●3-5	●7-29	△12-12	●8-11		0	1	4	6位

※1位と2位は直接対決の勝敗による。

女子 3 部

チーム	専 修	東 洋	創 価	実践女子	日 本	I C U	勝	分	敗	順 位
専 修		○ 3 - 0	○ 5 - 2	○ 7 - 4	○ 3 - 1	○ 23 - 2	5	0	0	1 位
東 洋	● 0 - 3		○ 11 - 5	○ 11 - 2	○ 7 - 0	○ 22 - 0	4	0	1	2 位
創 価	● 2 - 5	● 5 - 11		○ 5 - 1	○ 9 - 1	○ 19 - 1	3	0	2	3 位
実践女子	● 4 - 7	● 2 - 11	● 1 - 5		○ 7 - 2	○ 27 - 0	2	0	3	4 位
日 本	● 1 - 3	● 0 - 7	● 1 - 9	● 2 - 7		○ 15 - 11	1	0	4	5 位
国際基督教	● 2 - 23	● 0 - 22	● 1 - 19	● 0 - 27	● 11 - 15		0	0	5	6 位

女子入れ替え戦

2 部 - 3 部

1 部 - 2 部

成蹊大学 (6 位) 0 - 12 専修大学 (1 位)

学習院大学 (6 位) 1 - 2 明治大学 (1 位)

※専修大学は 2 部昇格、成蹊大学は 3 部降格

※明治大学は 1 部昇格、学習院大学は 2 部降格

【東海地区】

東海テレビ杯

平成22年度春季第66回東海地区大学(男子)ソフトボールリーグ戦

一兼、第45回全日本大学ソフトボール選手権大会一次予選一

一兼、第42回西日本大学ソフトボール選手権大会予選一

会期：平成22年 4 月 29 日、5 月 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 日

会場：愛知県岡崎市／岡崎中央総合公園球技場・運動広場

一部リーグ戦

チーム	中 京	中京学院	愛知教育	日本福祉	愛 知	中 部	勝分敗	失点率	順
中 京		○ 10 - 6	○ 13 - 3	○ 12 - 5	○ 10 - 0	○ 9 - 0	5 0	2.80	1
中京学院	● 6 - 10		○ 11 - 1	○ 10 - 0	○ 8 - 4	○ 7 - 1	4 1	3.20	2
愛知教育	● 3 - 13	● 1 - 11		● 5 - 7	△ 15 - 15	○ 2 - 0	1 1 3	12.72	5
日本福祉	● 5 - 12	● 0 - 10	○ 7 - 5		● 4 - 6	○ 7 - 2	2 3	8.56	4
愛 知	● 0 - 10	● 4 - 8	△ 15 - 15	○ 6 - 4		○ 9 - 1	2 1 2	8.40	3
中 部	● 0 - 9	● 1 - 7	● 0 - 2	● 2 - 7	● 1 - 9		0 6	8.50	6

二部リーグ戦

チーム	岐阜聖徳	静岡	愛知学院	常葉学園	名古屋商	名古屋	勝	敗	失点率	順
岐阜聖徳		○ 8 - 0	○ 10 - 0	○ 11 - 8	○ 11 - 2	○ 11 - 4	5	0	3.63	1
静岡	● 0 - 8		● 5 - 14	○ 12 - 5	○ 10 - 2	● 3 - 5	2	3	9.92	4
愛知学院	● 0 - 10	○ 14 - 5		○ 20 - 5	○ 10 - 8	○ 10 - 1	4	1	4.75	2
常葉学園	● 8 - 11	● 5 - 12	● 5 - 20		● 1 - 3	● 6 - 8	0	5	13.32	6
名古屋商	● 2 - 11	● 2 - 10	● 8 - 10	○ 3 - 1		○ 12 - 6	2	3	9.66	3
名古屋	● 4 - 11	○ 5 - 3	● 1 - 10	○ 8 - 6	● 6 - 12		2	3	11.92	5

三部リーグ戦

チーム	南山	みずほ	東海学園	名城	名古屋産	勝分敗	失点率	順
南山		○ 15 - 5	○ 10 - 0	○ 22 - 5	○ 16 - 0	4 0	3.33	1
みずほ	● 5 - 15		● 5 - 12	● 3 - 18	○ 8 - 6	1 3	27.46	5
東海学園	● 0 - 10	○ 12 - 5		△ 12 - 12	○ 13 - 6	2 1 1	14.74	2
名城	● 5 - 22	○ 18 - 3	△ 12 - 12		● 9 - 12	1 1 2	22.87	3
名古屋産	● 0 - 16	● 6 - 8	● 6 - 13	○ 12 - 9		1 3	15.58	4

一部×二部入れ替え戦

愛知教育大(5位) 6 - 4 愛知学院大学(2位)

※愛知教育大一部残留、愛知学院大二部残留

中部大(6位) 1 - 6 岐阜聖徳学園大(1位)

※岐阜聖徳学園大一部昇格、中部大二部降格

二部×三部入れ替え戦

常葉学園大(6位) 1 - 20 南山大(1位)

※常葉学園大三部降格、南山大二部昇格

代表

第7回東海地域大学ソフトボール選手権大会(第45回インカレ最終予選)：

中京大・中京学院大・愛知大・日本福祉大・

愛知教育大・岐阜聖徳学園大・中部大・

愛知学院大

第42回西日本大学ソフトボール選手権大会：

中京大・中京学院大・愛知大・日本福祉大・

愛知教育大・岐阜聖徳学園大

個人表彰選手

最優秀選手賞：山本 佑馬(中京大学)

一部首位打者賞：三浦 亮(中京学院大)

記録6割0分0厘

一部打点賞：三宅 正人(愛知大学)

鈴木 達哉(愛知大学)

記録9

本塁打点賞：該当者なし

盗塁賞：該当者なし

一部最優秀防御率賞：深津 悠平(中京大学)

記録1.75

二部優秀選手賞：広瀬 史博(岐阜聖徳大学)

二部首位打者賞：山田 智大(愛知学院大学)

永田 和也(愛知学院大学)

記録6割0分0厘

二部最優秀防御率賞：藤下 樹(岐阜聖徳大学)

記録0.00

三部優秀選手賞：宮下友大朗(南山大学)

三部首位打者賞：山内 雄大(南山大学)

記録8割3分3厘

三部最優秀防御率賞：久保 雅也(静岡大学)

記録0.00

ベストスコアラー賞：大塚 桂子(中京大学)

ベスト放送員賞：今井 貴晟(名古屋大学)

ベストナイン

投手 望月 孝典(中京大学 3年)

捕手 鈴木 達哉(愛知大学 3年)

一塁手：伊藤 圭佑(中京大学 4年)

二塁手：小橋 祥兼(中京学院大学1年)

三塁手：嶋田 稔貴(中京大学 3年)

遊撃手：吉田 和史(中京学院大学2年)

外野手：朴木 雅貴(中京学院大学1年)

外野手：関 大介(愛知教育大学2年)

外野手：山田 将也(中京大学 1年)

DPPP：該当者なし

講評 初日はいきなりの豪雨に見舞われ、武道場での開会式のみとなったが、その後は新緑輝く球場でのリーグ戦となった。今季は、名古屋産業大学が新規加盟し、18チームが3部に分かれ

ての戦いとなった(残念ながら、朝日大学は部員数不足のために不参加で三部は5チーム)。

一部リーグ戦は、前評判どおり、中京大学と中京学院大学の2強が安定した投手力を武器に危なげなく勝利を重ねて最終日の決戦となった。この試合、3点を先制した中京大学は中盤に逆転されて3点差で迎えた最終回に、犠飛と四球を挟んだ6連続短長打で一举7点を挙げて優勝を手中にした。他の4チームの実力は紙一重であったが、いずれも打高投低で、守備力の強化が望まれた。

二部リーグ戦はいつも混戦となるが、今季は岐阜聖徳学園大学が他チームを寄せ付けず、二部を制してその勢いのまま入れ替え戦にも勝利して一部復帰を勝ち取った。この中で、古豪常葉学園大学が負傷者と選手層の薄さに泣かされて最下位となり、入れ替え戦にも敗れて三部降格となったのが悔やまれる。

新規加盟の名古屋産業大学を加えて5チームとなった三部リーグ戦は、南山大学が格の違いを見せつけて優勝し、1季で二部復帰を果たした。(東海地区大学ソフトボール連盟 水谷 博)

東海テレビ杯

平成22年度春季第55回東海地区大学(女子)ソフトボールリーグ戦

一兼、第45回全日本大学ソフトボール選手権大会一次予選一

一兼、第42回西日本大学ソフトボール選手権大会予選一

会期：5月2・3・4・5日

会場：愛知県幸田町／とばね運動場・深溝運動場

一部リーグ戦

チーム	中 京	鈴鹿国際	東海学園	東海学院	愛知教育	日本福祉	勝	敗	失点率	順
中 京		○4-2	●1-4	○4-0	○11-1	○8-2	4	1	1.85	2
鈴鹿国際	●2-4		●2-9	○3-0	○11-1	○9-0	3	2	3.06	3
東海学園	○4-1	○9-2		○5-2	○10-1	○6-1	5	0	1.40	1
東海学院	●0-4	●0-3	●2-5		○8-0	○12-2	2	3	3.06	4
愛知教育	●1-11	●1-11	●1-10	●0-8		●2-3	0	5	10.35	6
日本福祉	●2-8	●0-9	●1-6	●2-12	○3-2		1	4	9.59	5

二部リーグ戦

チーム	至学館	岐阜聖徳	静岡	常葉学園	中京学院	名古屋	浜松	順位
至学館		○11-1	○16-2	○9-1	●6-7	*	*	2
岐阜聖徳	●1-11		●2-6	○3-2	*	*	○11-4	5
静岡	●2-16	○6-2		○6-4	*	●5-13	*	4
常葉学園	●1-9	●2-3	●4-6		*	*	*	7
中京学院	○7-6	*	*	*		○14-0	○20-0	1
名古屋	*	*	○13-5	*	●0-14		○18-0	3
浜松	*	●4-11	*	*	●0-20	●0-18		6

※斜線のある欄は予選リーグ戦で、斜線のない欄は順位決定戦である。

一部×二部入れ替え戦

記録0.76

愛知教育大(6位)3-7中京学院大学(1位)

※愛知教育大二部降格、中京学院大一部昇格

日本福祉大(5位)2-7至学館大学(2位)

※日本福祉大二部降格、至学館大一部昇格

代表

第7回東海地域大学ソフトボール選手権大会(第

45回インカレ最終予選) :

東海学園大・中京大・鈴鹿国際大・

東海学院大・至学館大・中京学院大・

愛知教育大・日本福祉大

第42回西日本大学ソフトボール選手権大会 :

東海学園大・中京大・鈴鹿国際大・

東海学院大・至学館大・中京学院大・

愛知教育大・日本福祉大・名古屋大

個人表彰選手

最優秀選手賞 : 光井 綾香 (東海学園大)

一部首位打者賞 : 光井 綾香 (東海学園大)

記録5割8分3厘

一部打点賞 : 光井 綾香 (東海学園大)

粕谷 朋世 (東海学園大)

記録7

本塁打点賞 : 該当者なし

盗塁賞 : 宮澤 早紀 (鈴鹿国際大)

記録5

一部最優秀防御率賞 : 小沢佳那子 (中京大学)

柏木 菜奈 (鈴鹿国際大)

二部優秀選手賞 : 鷺見知奈美 (中京学院大)

二部首位打者賞 : 宮本 亜樹 (中京学院大)

記録7割5分0厘

二部最優秀防御率賞 : 松本奈那子 (中京学院大)

伊藤 里浦 (至学館大)

記録0.70

ベストスコアラー賞 : 餘吾真理子 (中京大)

ベスト放送員賞 : 谷川 夢子 (愛知教育大)

ベストナイン

投手 小沢佳那子 (中京大学 4年)

捕手 佐藤 瑤 (中京大学 4年)

一塁手 : 光井 綾香 (東海学園大学2年)

二塁手 : 村瀬 夏奈 (東海学園大学4年)

三塁手 : 平子智恵美 (鈴鹿国際大学4年)

遊撃手 : 片山 郁乃 (中京大学 3年)

外野手 : 加藤 美穂 (東海学園大学4年)

外野手 : 柴田 明里 (中京大学 4年)

外野手 : 青山 加奈 (東海学園大学3年)

DPPF : 久保亜希美 (東海学園大学2年)

講評

リーグ戦はGW期間中の5月2～5日の連続4日間にわたって開催された。幸い好天に恵まれ、新緑輝く陽光と薫風のもとに熱戦が展開された。今季は一部二部が別会場であり開閉会式の移動に時間を要したが、練習会場には恵まれ、スムーズな大会運営が行われた。

一部リーグ戦は、何といても東海学園大学の強さが際だっていた。2日目の新鋭鈴鹿国際大学戦にコールド勝ちを納めると勢いが加速し、昨季優勝の中京大学戦でも1点を先行されながら、余裕を持って逆転し、投手をはじめとする選手層の厚さで優勝を飾った。また、東海学園大学に続く2位争いとなった中京大学と鈴鹿国際大学の最終試合の一戦は、最終回に中京大学が本塁打で逆転して古豪の意地と勝負強さを見せつけた。この上位3チームと他の下位3チームの間にはやや力の差が見られ、奮起が期待された。

常葉学園大学が復帰し桜花学園大学が出場できなかった二部リーグ戦は、中京女子大学から校名変更した至学館大学と中京学院大学の優勝争いとなり、敵失に乗じて先行した中京学院大学が最終回の追い上げを辛くも1点差でかわして逃げ切った。最下位となった常葉学園大学と4季目の浜松

大学の下位2チームは、今季1勝も挙げられなかったが、少ない選手数でも最後まで澁刺とした試合運びでさわやかな感動を与えた。

なお、入れ替え戦は、二部優勝の中京学院大学が一部6位の愛知教育大学を、二部2位の至学館大学が一部5位の日本福祉大学とともに圧勝で勝利し、一部昇格を果たした。至学館大学と日本福祉大学は1季での昇降格であるが、中京学院大学と愛知教育大学はともに5季ぶりとなる。一部下位チームと二部上位チームの間に力の差はあまりないので、今後とも入れ替え戦は厳しい戦いが続くと思われる。

最後になりましたが、素晴らしい試合環境をご提供いただき、本リーグ戦を開催いただいた幸田町と幸田協会をはじめとする関係各位に対しまして、衷心より御礼を申し上げ、講評の結びといたします。（文責 東海学連事務局長 水谷 博）

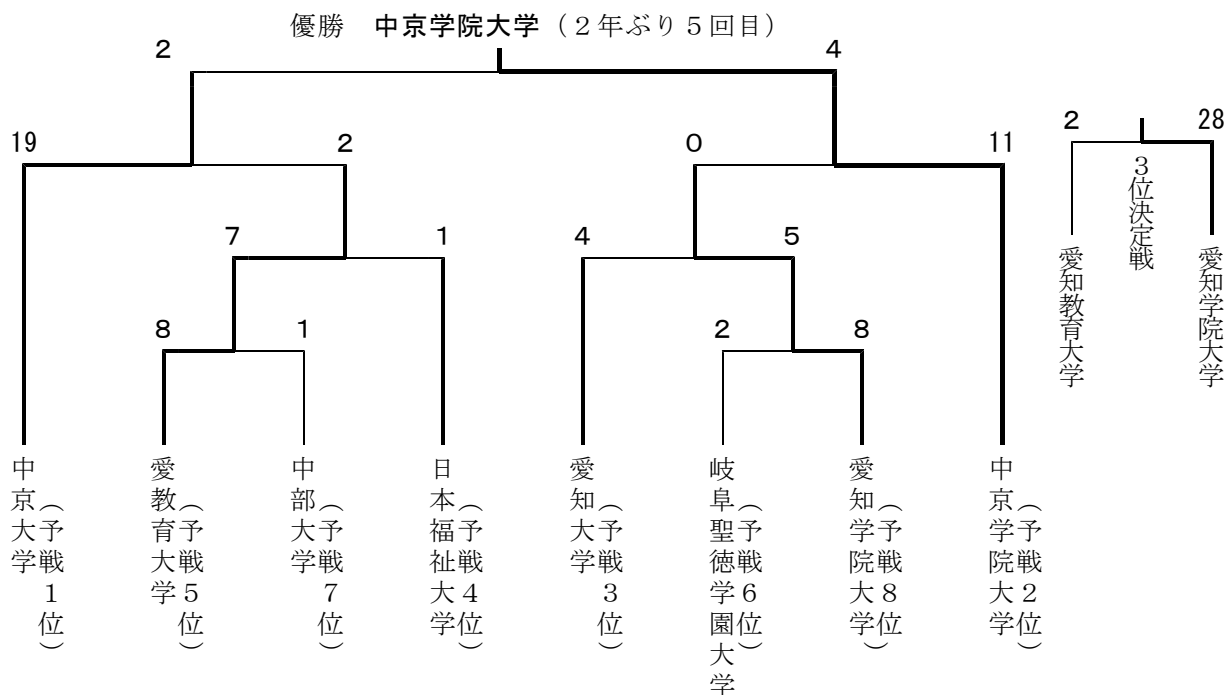
第7回東海地域大学男女ソフトボール選手権大会

一兼、第45回全日本大学(男・女)ソフトボール選手権大会東海地区最終予選会一

会期：平成22年5月29日(土)・30日(日)

会場：岐阜県多治見市／笠原運動広場(男子)・旭ヶ丘運動広場(女子)

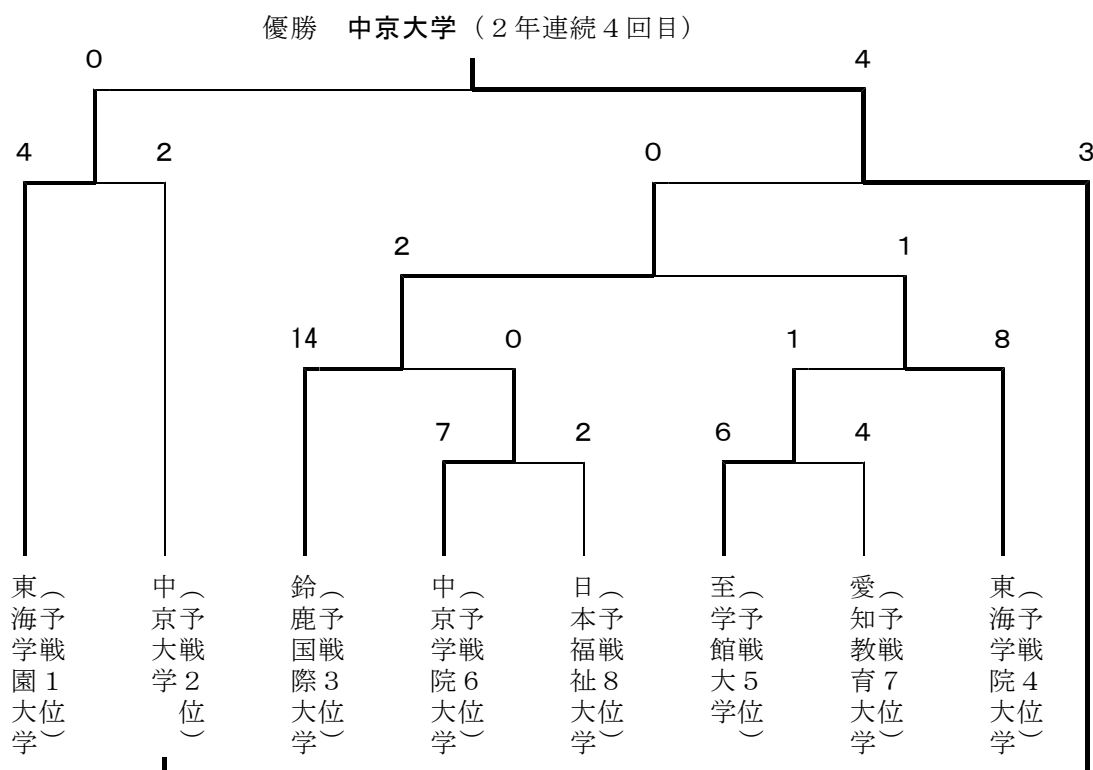
男子



第45回全日本大学選手権大会代表権獲得チーム

- ・中京学院大学（6年連続7回目）
- ・愛知学院大学（12年ぶり12回目）
- ・中京大学（3年連続40回目）
- ・愛知教育大学（25年ぶり2回目）

女子



第44回全日本大学選手権大会代表権獲得チーム

- ・東海学園大学（3年連続9回目）
- ・中京大学（26年連続35回目）
- ・鈴鹿国際大学（2年連続2回目）

東海テレビ杯

平成22年度秋季第67回東海地区大学(男子)ソフトボールリーグ戦

会期：平成22年10月16・30日、11月3・23日

会場：愛知県刈谷市／双葉グラウンド他、安城市／総合運動公園

一部リーグ戦

チーム	中 京	中京学院	愛 知	日本福祉	愛知教育	岐阜聖徳	勝	分	敗	順 位
中 京	-	● 2 - 7	○ 6 - 0	○ 1 - 0	○ 5 - 0	○ 5 - 3	4	0	1	2位
中京学院	○ 7 - 2	-	○ 4 - 0	○ 4 - 2	○ 5 - 3	○ 14 - 0	5	0	0	優勝
愛 知	● 0 - 6	● 0 - 4	-	○ 13 - 3	○ 4 - 2	● 5 - 9	2	0	3	4位
日本福祉	● 0 - 1	● 2 - 4	● 3 - 13	-	● 2 - 5	● 2 - 9	0	0	5	6位
愛知教育	● 0 - 5	● 3 - 5	● 2 - 4	○ 5 - 2	-	● 3 - 10	1	0	4	5位
岐阜聖徳	● 3 - 5	● 0 - 14	○ 9 - 5	○ 9 - 2	○ 10 - 3	-	3	0	2	3位

二部リーグ戦

チーム	中 部	愛知学院	名古屋商	静 岡	名 古 屋	南 山	勝	分	敗	順位
中 部		○ 5 - 4	○ 6 - 2	○ 6 - 5	○ 10 - 5	● 11 - 4	4	0	1	1 位
愛知学院	● 4 - 5		○ 4 - 2	○ 8 - 0	● 4 - 16	○ 8 - 5	3	0	2	2 位
名古屋商	● 2 - 6	● 2 - 4		○ 7 - 4	○ 16 - 6	● 4 - 13	2	0	3	4 位
静 岡	● 5 - 6	● 0 - 8	● 4 - 7		○ 6 - 5	△ 6 - 6	1	1	3	6 位
名 古 屋	● 5 - 10	○ 16 - 4	● 6 - 16	● 5 - 6		○ 4 - 2	2	0	3	5 位
南 山	○ 4 - 11	● 5 - 8	○ 13 - 4	△ 6 - 6	● 2 - 4		2	1	2	3 位

※4～5位は直接対戦の結果による。

三部リーグ戦

チーム	常葉学園	東海学園	名 城	名古屋産	み ず ほ	勝	分	敗	順 位
常葉学園		○ 7 - 0	○ 10 - 3	● 5 - 15	○ 15 - 5	3	0	1	2 位
東海学園	● 0 - 7		● 5 - 13	● 8 - 13	● 3 - 22	0	0	4	5 位
名 城	● 3 - 10	○ 13 - 5		● 12 - 13	○ 13 - 7	2	0	2	3 位
名古屋産	○ 15 - 5	○ 13 - 8	○ 13 - 12		○ 12 - 2	4	0	0	1 位
み ず ほ	● 5 - 15	○ 22 - 3	● 7 - 13	● 2 - 12		1	0	3	4 位

一部・二部入れ替え戦

愛知教育大(5位) 3 - 6 愛知学院大(2位)

※愛知教育大二部降格、愛知学院大一部昇格

日本福祉大(6位) 4 - 3 中部大(1位)

※日本福祉大一部残留、中部大二部残留

二部・三部入れ替え戦

静岡大(6位) 12 - 2 名古屋産業大(1位)

※静岡大二部残留、名古屋産業大三部残留

個人表彰選手

最 優 秀 選 手 賞：三浦 亮(中京学院大学)

一 部 首 位 打 者 賞：佐竹 直樹(岐阜聖徳学園大学) 記録5割3分8厘

一 部 打 点 賞：根津 啓太(中京大学) 記録9

本 塁 打 賞：該当者なし

盗 塁 賞：該当者なし

一部最優秀防御率賞：片岡 涼(中京学院大学) 記録1.30

二部優秀選手賞：山田 佳史(中部大学)

二部首位打者賞：中村 康佑(南山大学)

記録6割8分4厘

二部最優秀防御率賞：山田 佳史(中部大学)

記録2.65

三部優秀選手賞：佐野 祐太(名古屋産業大)

三部首位打者賞：原 路壘(常葉学園大学)

記録8割7分5厘

三部最優秀防御率賞：神蘭 晃智(常葉学園大学)

記録9.12

ベストスコアラー賞：三宅いづ美(愛知大学)

ベスト放送員賞：阿知波君恵(愛知教育大学)

ベストナイン

投 手：大森 優(中京学院大学)

捕 手：和田 隆太(中京大学)

一 塁 手：嶋田 稔貴(中京大学)

二 塁 手：芝 大紀(中京学院大学)

三 塁 手：福岡 寛也(愛知教育大学)

遊 撃 手：吉田 和史(中京学院大学)

外 野 手：山田 将也(中京大学)

外野手：藤下 樹（岐阜聖徳学園大学）

外野手：川上 貴寛（愛知大学）

D P F P：大井 英幸（中京学院大学）

講評 本リーグ戦は、10月16日に始まり11月23日に終了するという長いものになってしまいました。コンディションを維持するために、選手諸君は多大な努力を強いられたものと推察します。また、このような変則日程にもかかわらず、最後までリーグ戦の開催にご尽力いただいた刈谷市連盟、予備日の球場をご提供いただいた安城市協会に対しまして、まずもって御礼申し上げます。

さて、一部リーグ戦は大方の予想通り、インカレ3位の中京大学とこれを追う中京学院大学が全勝で勝ち進み、最終日最終試合での決戦となりました。結果は、先行し一旦は追いつかれた中京学院大学が集中打で突き放して3季ぶり8回目の優勝となりました。この2チーム以外では元気が見られず、低調なリーグ戦であったような気がしますが、春季に一部へ昇格した岐阜聖徳学園大学が久々に上位へ食い込んだことは注目されました。

二部リーグ戦は全勝チームも全敗チームもなく、いつものように混戦となりました。これは完

封試合が1試合しかないことに典型的に示されるように、各チームとも投手を中心とする守備力の弱さに起因するものと思われます。長打とやらずもがなの失点の多さがそれを物語っています。点の取り合いは、選手にとっては楽しくおもしろいものかもしれませんが、ソフトボール独特の緊張感とスピードが失われてしまいます。選手諸君の意識改革も求められています。

三部リーグ戦は、今春加盟の名古屋産業大学が初優勝で終了しました。各チームともまだまだ努力しなければならない点は多々ありますが、学生らしく一生懸命なのは好感が持てました。まずはソフトボール楽しむことですが、試合をすることだけでなく、リーグ戦をみんなで作り上げていくという気概を示してほしいとも感じられました。

最後に入れ替え戦ですが、リーグ戦創設以来の古豪愛知学院大学の一部昇格が特筆されます。インカレでは悔しい思いもしましたが、これをバネにした昇格でしょう。愛知教育大学と中部大学には今後の奮起が期待されます。（東海学連事務局 長 水谷 博）

東海テレビ杯

平成22年度秋季第56回東海地区大学(女子)ソフトボールリーグ戦

会期：平成22年10月10・16・17・23日

会場：愛知県高浜市／碧海グラウンド他

一部リーグ戦

チーム	東海学園	中 京	鈴鹿国際	東海学院	中京学院	至 学 館	勝	分	敗	順 位
東海学園		○ 2 - 1	● 2 - 3	○ 2 - 0	○ 6 - 0	○ 8 - 0	4	0	1	2 位
中 京	● 1 - 2		● 2 - 3	○ 9 - 1	○ 9 - 5	○ 14 - 0	3	0	2	3 位
鈴鹿国際	○ 3 - 2	○ 3 - 2		○ 5 - 1	○ 12 - 4	○ 6 - 1	5	0	0	優勝
東海学院	● 0 - 2	● 1 - 9	● 1 - 5		○ 5 - 4	● 1 - 3	1	0	4	5 位
中京学院	● 0 - 6	● 5 - 9	● 4 - 12	● 4 - 5		● 0 - 2	0	0	5	6 位
至 学 館	● 0 - 8	● 0 - 14	● 1 - 6	○ 3 - 1	○ 2 - 0		2	0	3	4 位

二部リーグ戦

チーム	日本福祉	静岡	岡	岐阜聖徳	常葉	愛知教育	名古屋	浜松	順位
日本福祉		○ 8 - 0	○ 10 - 3	○ 7 - 0	○ 6 - 0				1 位
静岡	● 0 - 8		○ 10 - 3	● 0 - 7				○ 14 - 1	5 位
岐阜聖徳	● 3 - 10	● 3 - 10		● 1 - 4					7 位
常葉	● 0 - 7	○ 7 - 0	○ 4 - 1			○ 9 - 0			3 位
愛知教育	● 0 - 6						○ 9 - 4	○ 12 - 2	2 位
名古屋				● 0 - 9	● 4 - 9			○ 14 - 0	4 位
浜松		● 1 - 14				● 2 - 12	● 0 - 14		6 位

※斜線のある欄は予選リーグ戦で、斜線のない欄は順位決定戦である。

一・二部入れ替え戦

東海学院大学(5位) 3 - 2 愛知教育大学(2位)

※東海学院大学一部残留、愛知教育大学二部残留

中京学院大学(6位) 2 - 4 日本福祉大学(1位)

※中京学院大学二部降格、日本福祉大学一部昇格

個人表彰選手

最優秀選手賞：柏木 菜奈(鈴鹿国際大学)

一部首位打者賞：北林 彩(中京大学)

記録 7 割 0 分 0 厘

打点賞：河田 有加(鈴鹿国際大学)

記録 6

本塁打賞：該当者なし

盗塁賞：該当者なし

一部最優秀防御率賞：後藤菜緒子(東海学園大学)

記録 0.00

優秀選手賞：山下 真愛(日本福祉大学)

二部首位打者賞：古閑久美子(愛知教育大学)

記録 7 割 5 分 0 厘

二部最優秀防御率賞：水元 彩乃(日本福祉大学)

記録 0.00

ベストスコアラー賞：磯部 綾華(中京学院大学)

ベスト放送員賞：中川 珠実(聖徳学園大学)

ベストナイン

投手：柏木 菜奈(鈴鹿国際大学)

捕手：久保亜希美(東海学園大学)

一塁手：河田 有加(鈴鹿国際大学)

二塁手：金子 歩惟(東海学園大学)

三塁手：稲垣 亜美(鈴鹿国際大学)

遊撃手：片山 郁乃(中京大学)

外野手：北林 彩(中京大学)

外野手：相場 美穂(鈴鹿国際大学)

外野手：青山 加奈(東海学園大学)

D P F P：北田 望(鈴鹿国際大学)

講評 秋季リーグ戦は、初日の10月9日が雨天のため中止となり、残念ながら開会式を行うことはできなかったが、その後は天候に恵まれ、予備日であった10月23日に無事終了することができた。主催者として、大会を運営していただいた高浜市ソフトボール連盟に感謝申し上げます。

今回のリーグ戦では、9月の富山県でのインカレで出場2回目にして第3位に入賞する大活躍を見せた鈴鹿国際大学の戦いが注目された。

鈴鹿国際大学は初戦の中京学院大学戦では序盤に3失点を喫し、投手力にやや不安を感じさせた立ち上がりであったが、打撃好調により、リーグ戦始まって以来の毎回得点で初戦を圧勝した。第2日目には前半戦の山場である中京大学戦を延長8回3-2で制して勢いに乗り、3日目には春季優勝の東海学園大学にも逆転勝ちを収め、最終日には全勝優勝を果たし、初優勝に花を添えた。

リーグ戦の優勝は、平成15年秋季の東海女子大学(現・東海学院大学)以降、13シーズンにわた

り、中京大学と東海学園大学の2チームで分け合っていた。今回ここに鈴鹿国際大学の初優勝が新たな歴史の1ページを加えることとなった。

準優勝には4勝1敗で東海学園大学、第3位には3勝2敗で中京大学が入った。上位3チームの対戦はいずれも終盤まで1点を争う好ゲームであり、中でも鈴鹿国際大学×中京大学、東海学園大学×中京大学の2試合は延長8回までもつれる接戦であった。この上位3チームの実力は紙一重であったが、「ここで一本」というチャンスに確実にセンター前タイムリーを放つことができる鈴鹿国際大学の力が一歩上回っていたと言える。

その一方で、4位以下に終わった至学館大学、東海学院大学、中京学院大学は、上位3チームとの対戦では、いずれの試合も前半に早々と勝負をつけられ、リーグ戦を盛り上げるという点でも不満を残すものだった。東海地区からの代表校がインカレで常に上位入賞を果たしていくためには、インカレ代表枠を獲得するチームとそれ以外のチームとの差が接近していることが必要である。3強・3弱時代が今後も続くとなると、リーグ戦自体の興味が低下してしまうこと以上に、各チーム

の切磋琢磨につながらないのではないかとと思われる。下位チームの一層の奮起を期待する。

春季に入れ替え戦で二部に降格した日本福祉大学が圧倒的な力で二部を制し、入れ替え戦でも一部6位の中京学院大学を4-2で倒し、一部復帰を果たした。二部準優勝の愛知教育大学は入れ替え戦では一部5位の東海学院大学に1点差で敗退し、一部復帰は叶わなかったが、一部下位と二部上位の力の差がほとんどないことが示された。また、以前に一部で活躍していた常葉学園大学がリーグ復帰二シーズン目で二部3位に入り健闘を見せた。来年度は新規加入の岐阜経済大学を含め、二部の充実を期待したい。

今回、ベストナインに選ばれた選手は、1年生2名、2年生3名、3年生5名であり、例年になく下級生の活躍が目立っていた。特に1年生では、ベストナインに選ばれた2名以外にも、中京大学の長谷川投手、森口一塁手、鈴鹿国際大学の平木投手、至学館大学の臼田一塁手、稲垣遊撃手、東海学院大学の長瀬投手など、今後全国で十分通用する選手に育つことを楽しみとしたい。

(東海学連理事長 矢澤久史)

【近畿地区】

平成22年度第42回春季関西学生ソフトボールリーグ戦（男子）

会期：平成22年4月11・18・29日、5月2・3・4・5日

会場：吹田市／万博公園スポーツ広場

1部リーグ戦結果

1部	立命館	関西	京都産業	同志社	神戸	大阪産業	勝	分	敗	順位
立命館		○6-4	○6-2	○3-2	○8-0	○9-0	5	0	0	優勝
関西	●4-6		○4-3	○3-1	○3-2	○5-1	4	0	1	2位
京都産業	●2-6	●3-4		○3-0	○14-7	●3-4	2	0	3	3位
同志社	●2-3	●1-3	●0-3		○7-0	○8-5	2	0	3	4位
神戸	●0-8	●2-3	●7-14	●0-7		○9-4	1	0	4	5位
大阪産業	●0-9	●1-5	○4-3	●5-8	●4-9		1	0	4	6位

※3～4位、及び5～6位はそれぞれ当該チーム間勝ち点規定による。
※立命館大学は2季ぶり12度目の優勝、大阪産業大学は2部へ自動降格

2部リーグ戦結果

2部A	四天王寺	京 都	大阪経済	兵庫教育	佛 教	勝	分	敗	順 位
四天王寺		○ 3 - 1	○ 3 - 2	● 4 - 7	○ 9 - 1	3	0	1	1 位
京 都	● 1 - 3		○ 6 - 0	○ 10 - 1	○ 6 - 4	3	0	1	2 位
大阪経済	● 2 - 3	● 0 - 6		○ 6 - 5	○ 3 - 2	2	0	2	3 位
兵庫教育	○ 7 - 4	● 1 - 10	● 5 - 6		△ 8 - 8	1	1	2	4 位
佛 教	● 1 - 9	● 4 - 6	● 2 - 3	△ 8 - 8		0	1	3	5 位

※ 1位と2位は当該チーム間勝ち点規定より決定

2部B	神戸学院	龍 谷	大 阪	大阪体育	甲 南	勝	分	敗	順 位
神戸学院		● 5 - 6	○ 10 - 1	○ 20 - 0	○ 11 - 1	3	0	1	1 位
龍 谷	○ 6 - 5		● 4 - 6	○ 17 - 6	○ 8 - 2	3	0	1	2 位
大 阪	● 1 - 10	○ 6 - 4		○ 15 - 3	○ 11 - 1	3	0	1	3 位
大阪体育	● 0 - 20	● 6 - 17	● 3 - 15		○ 7 - 0	1	0	3	4 位
甲 南	● 1 - 11	● 2 - 8	● 1 - 11	● 0 - 7		0	0	4	5 位

※ 1位～3位は得失点差規定より決定

2部優勝決定戦

四天王寺大学 2 - 6 神戸学院大学

※神戸学院大学は2部優勝・1部自動昇格

2部9・10位決定戦

佛教大学 15 - 1 甲南大学

※甲南大学は自動的に3部に降格

3部リーグ戦結果

3部A	大阪工業	流通科学	大阪経法	大阪市立	和 歌 山	勝	分	敗	順 位
大阪工業		● 6 - 7	○ 14 - 4	○ 14 - 2	○ 8 - 5	3	0	1	1 位
流通科学	○ 7 - 6		● 3 - 4	○ 11 - 1	○ 14 - 0	3	0	1	2 位
大阪経法	● 4 - 14	○ 4 - 3		○ 11 - 1	○ 11 - 1	3	0	1	3 位
大阪市立	● 2 - 14	● 1 - 11	● 1 - 11		○ 9 - 3	1	0	3	4 位
和 歌 山	● 5 - 8	● 0 - 14	● 1 - 11	● 3 - 9		0	0	4	5 位

3部B	近 畿	大阪府立	奈良教育	関西学院	京都学園	勝	分	敗	順 位
近 畿		○ 8 - 4	○ 6 - 5	○ 7 - 1	○ 21 - 2	4	0	0	1 位
大阪府立	● 4 - 8		○ 10 - 5	○ 6 - 4	○ 2 - 1	3	0	1	2 位
奈良教育	● 5 - 6	● 5 - 10		● 4 - 5	○ 9 - 4	1	0	3	3 位
関西学院	● 1 - 7	● 4 - 6	○ 5 - 4		● 11 - 12	1	0	3	4 位
京都学園	● 2 - 21	● 1 - 2	● 4 - 9	○ 12 - 11		1	0	3	5 位

※ Aブロック1位～3位・Bブロック3位～5位は、得失点差規定より決定

3部優勝決定戦

大阪工業大学 4－2 近畿大学

※大阪工業大学は2部自動昇格

1部－2部入れ替え戦

神戸大学 1－2 四天王寺大学

※四天王寺大学は1部昇格

2部－3部入れ替え戦

佛教大学 4－8 近畿大学

近畿大学は2部降格

【総評】

1部リーグは当初の予想通り、立命館大学が順当に全勝優勝を飾った。ただ、ここ数年1部で頑

張っていた大阪産業大学がついに最下位となって、自動降格。今季10数年ぶりに1部復帰を果たした神戸大学も5位で、入れ替え戦でも破れ、2部降格となった。

2部では、両ブロックとも大混戦となったが、四天王寺大学と神戸学院大学が抜け出して優勝。インカレ出場とともに1部昇格というダブルのうれしさを手にした。また、3部はBブロックを圧倒的に制した近畿大学がブロック決勝でも快勝し、初めての2部昇格切符を手にした。来季は新たな旋風を巻き起こしてほしい。

(理事長 森田啓之)

平成22年度第42回春季関西学生ソフトボールリーグ戦（女子）

会期：平成22年4月10・11・17・18・25・29日、5月2・3・4日

会場：園田学園女子大学・武庫川女子大学・四天王寺大学

1部リーグ戦成績

チーム	武庫川	園田学園	大阪国際	神戸親和	龍谷	大阪大谷	立命館	関西外語
武庫川		○2－1	○3－2	○5－4	●0－1	●0－1	○8－6	○4－1
園田学園	●1－2		●0－3	○4－2	○7－0	○5－2	○4－3	○8－0
大阪国際	●2－3	○3－0		○4－2	○2－1	●1－2	●2－3	○8－2
神戸親和	●4－5	●2－4	●2－4		○6－1	○9－5	○2－0	○8－2
龍谷	○1－0	●0－7	●1－2	●1－6		○5－3	○4－3	○8－5
大阪大谷	○1－0	●2－5	○2－1	●5－9	●3－5		○5－4	○9－0
立命館	●6－8	●3－4	○3－2	●0－2	●3－4	●4－5		○5－2
関西外語	●1－4	●0－8	●2－8	●2－8	●5－8	●0－9	●2－5	

※1～2位、3～6位は、当該チーム間の直接対戦の勝敗による。

1部最終成績

優勝 武庫川女子大学（5勝0分2敗）
 2位 園田学園女子大学（5勝0分2敗）
 3位 大阪国際大学（4勝0分3敗）
 4位 神戸親和女子大学（4勝0分3敗）

5位 龍谷大学（4勝0分3敗）
 6位 大阪大谷大学（4勝0分3敗）
 7位 立命館大学（2勝0分5敗）
 8位 関西外国語大学（0勝0分7敗）

1 部個人表彰

打撃成績

順位	氏 名	大 学	打 率
1 位	西岡 宏華	園田学園女子大学	0.563
2 位	胡子 路代	園田学園女子大学	0.533
3 位	北川百百子	龍谷大学	0.440
4 位	西山 遥子	大阪国際大学	0.429
5 位	佐野由貴美	神戸親和女子大学	0.423
6 位	青野 可奈	立命館大学	0.419
7 位	濱崎可央理	立命館大学	0.417
8 位	木村 光里	立命館大学	0.414
9 位	杉山 里奈	神戸親和女子大学	0.409
9 位	米坂 知恵	神戸親和女子大学	0.407

投手成績

順位	氏 名	大 学	防 御 率
1 位	西岡 里恵	園田学園女子大学	0.56
2 位	森田由衣子	大阪国際大学	0.76

2 部リーグ戦対戦成績

チーム	天 理	大阪体育	びわこ成蹊	兵庫教育	四天王寺	勝	分	敗	順 位
天 理		○ 3 - 1	○ 10 - 0	○ 11 - 0	○ 5 - 0	4	0	0	1 位
大阪体育	● 1 - 3		○ 11 - 5	○ 13 - 0	○ 11 - 4	3	0	1	2 位
びわこ成蹊	● 0 - 10	● 5 - 11		○ 8 - 0	○ 10 - 5	2	0	2	3 位
兵庫教育	● 0 - 11	● 0 - 13	● 0 - 8		○ 6 - 5	1	0	3	4 位
四天王寺	● 0 - 5	● 4 - 11	● 5 - 10	● 5 - 6		0	0	4	5 位

2 部個人表彰

打撃成績

順位	氏 名	大 学	打 率
1 位	松下 優子	びわこ成蹊スポーツ大学	0.560
2 位	仁賀奈綾佳	四天王寺大学	0.555
3 位	上原花奈恵	びわこ成蹊スポーツ大学	0.500
3 位	寺西 麻美	天理大学	0.500
5 位	辻本 紗希	びわこ成蹊スポーツ大学	0.440
6 位	山本 瞳依	大阪体育大学	0.416
7 位	千葉 有紀	天理大学	0.400
7 位	市来 遥	大阪体育大学	0.400
7 位	金井紗知代	びわこ成蹊スポーツ大学	0.400
10 位	青木万里子	大阪体育大学	0.388

3 位	高橋 那々	龍谷大学	1.19
4 位	内海 花菜	武庫川女子大学	1.89
5 位	笹山 彩夏	神戸親和女子大学	2.24

ベストプレー賞

大 学	氏 名	守備位置
武庫川女子大学	内海 花菜	投 手
園田学園女子大学	西岡 里恵	投 手
大阪国際大学	森田由衣子	投 手
神戸親和女子大学	佐野由貴美	外野手
龍谷大学	山口 絢子	中堅手
大阪大谷大学	西沢奈甫子	内野手
立命館大学	青野 可奈	内野手
関西外国語大学	松尾亜沙子	投 手

盗塁賞：村川由香梨 大阪大谷大学 記録 6

ホームラン賞：瀬田 美波 武庫川女子大学
記録 3 林 仁美 大阪国際大学

10 位	小杉はるな	四天王寺大学	0.388
------	-------	--------	-------

投手成績

順位	氏 名	大 学	防 御 率
1 位	梶岡祐女也	天理大学	1.25
2 位	仁賀奈綾佳	四天王寺大学	1.37
3 位	夏川麻沙子	大阪体育大学	4.11

ベストプレイ賞

大 学	氏 名	守備位置
天理大学	石田 千紘	中堅手
大阪体育大学	上田 翔子	内野手
びわこ成蹊スポーツ大	辻本 紗希	内野手
兵庫教育大学	金田 朋子	中堅手
四天王寺大学	小杉はるな	内野手

盗塁賞：仁賀奈綾香 四天王寺大学 記録10

3部対戦成績表

チーム	奈良教育	大阪府立	摂南	京都女子	勝	分	敗	順位
奈良教育		○9-6	○14-4	○15-13	3	0	0	1位
大阪府立	●6-9		○9-4	○18-2	2	1	0	2位
摂南	●4-14	●4-9		○12-8	1	2	0	3位
京都女子	●13-15	●2-18	●8-12		0	3	0	4位

3部個人表彰

打撃成績

順位	氏名	大学	打率
1位	阿久香保里	奈良教育大学	0.692
2位	前川 美幸	京都女子大学	0.636
3位	福本 季恵	大阪府立大学	0.555
4位	久保このみ	摂南大学	0.500
5位	森本 遥	兵庫教育大学	0.466
6位	山本美智子	奈良教育大学	0.466
6位	山田彩容子	大阪府立大学	0.400
8位	花田 麻央	大阪府立大学	0.400
8位	山口 千智	京都女子大学	0.400
10位	弓山 美希	大阪府立大学	0.375

投手成績

順位	氏名	大学	防御率
1位	中山 静香	兵庫教育大学	3.32
2位	栗津 恵子	京都女子大学	6.12
3位	鼻登 紗弥	奈良教育大学	7.25

ベストプレー賞

大学	氏名	守備位置
奈良教育大学	佐藤 智美	外野手
大阪府立大学	前田有紀奈	投手
摂南大学	長南 悠	捕手
京都女子大学	横地里加子	捕手

盗塁賞：松尾 有起 摂南大学 記録4

垣内 愛美 摂南大学 記録4

リーグ戦総評

【1部評価】

今回の春季リーグは最終戦まで、インカレ5枠

が決まらない状況の中、例年にないくらい白熱した試合ばかりであった。2次部別リーグからは1試合も負けられない試合が続いた。

そしてどの大学も勝負の世界の厳しさを痛感したであろう。一球、一試合にかける気持ちが全面に出ていたのではないだろうか。

混戦した中で武庫川女子大学は10年ぶりに優勝を果たした。インカレ優勝を目標に出場校はまた練習に励んで欲しい。

インカレ、西カレ出場校は関西地区の代表として頑張っで欲しい。そして関西地区からの日本一を期待する。

文責： 十代田 彩（園田学園女子大学）

【2部評価】

2部のグラウンドはフェンスがなく、その為に取られてしまう点と、取られなくてすむ点があり、守備の仕方を凄く考えさせられました。

また、2部での当番校のスコアの記帳が、エラーをヒットにしていたりするので、データがあやふやだと感じましたし、それを審判さんが容認しているような所もあったので、そこはきっちりデータを出した方がいいと感じました。

文責： 西原 理真（天理大学）

【3部評価】

気温が高く、暑い中での試合が続いたので、試合後半になってくるとミスも増えていたように思う。それを踏まえて、今後は、試合の最後まで元気に精一杯プレイすることで、関西リーグを盛り上げていきたい。

文責： 松尾 彩香（奈良教育大学）

平成22年度第42回秋季関西学生ソフトボールリーグ戦（男子）

会期：平成22年10月 3・10・17・24・31日、11月 3・7・14日

会場：吹田市／万博公園スポーツ広場

1部リーグ戦結果

1部	立命館	関西	同志社	京都産業	神戸学院	四天王寺	勝	分	敗	順位
立命館		● 2-4	○ 4-2	○ 4-1	● 3-6	● 1-2	2	0	3	4位
関西	○ 4-2		○ 4-1	○ 4-3	● 6-7	○ 5-1	4	0	1	2位
同志社	● 2-4	● 1-4		● 1-11	● 0-10	△ 1-1	0	1	4	6位
京都産業	● 1-4	● 3-4	○ 11-1		○ 8-1	○ 7-0	3	0	2	3位
神戸学院	○ 6-3	○ 7-6	○ 10-0	● 1-8		○ 1-0	4	0	1	優勝
四天王寺	○ 2-1	● 1-5	△ 1-1	● 0-7	● 0-1		1	1	3	5位

※神戸学院大学は15季ぶり6度目の優勝、1～2位は当該チーム間勝ち点規定により決定、同志社大学は2部に自動降格

2部リーグ戦結果

2部A	京都	近畿	大阪工業	龍谷	兵庫教育	勝	分	敗	順位
京都		● 0-7	○ 8-1	○ 7-3	○ 1-0	3	0	1	1位
近畿	○ 7-0		○ 10-2	△ 7-7	● 0-10	2	1	1	3位
大阪工業	● 1-8	● 2-10		● 14-4	● 1-9	0	0	4	5位
龍谷	● 3-7	△ 7-7	○ 14-4		● 4-8	1	1	2	4位
兵庫教育	● 0-1	○ 10-0	○ 9-1	○ 8-4		3	0	1	2位

※1～2位は当該チーム間勝ち点規定により決定

2部B	大阪	大阪経済	大阪産業	神戸	大阪体育	勝	分	敗	順位
大阪		○ 11-9	● 2-5	● 2-6	○ 13-12	2	0	2	3位
大阪経済	● 9-11		○ 7-2	● 0-10	● 4-9	1	0	3	4位
大阪産業	○ 5-2	● 2-7		● 2-9	● 5-6	1	0	3	5位
神戸	○ 6-2	○ 10-0	○ 9-2		● 2-3	3	0	1	2位
大阪体育	● 12-13	○ 9-4	○ 6-5	○ 3-2		3	0	1	1位

※1～2位、4～5位は当該チーム間勝ち点規定により決定

2部優勝決定戦

京都大学 4-2 大阪体育大学

※京都大学は2部優勝・1部自動昇格

2部9・10位決定戦

大阪工業大学 5-11 大阪産業大学

※大阪工業大学は自動的に3部に降格

3部リーグ戦結果

3部A	甲 南	大阪市立	大阪経法	関西学院	和歌山	勝	分	敗	順位
甲 南		● 7 - 9	● 0 - 16	● 12 - 13	○ 11 - 10	1	0	3	4位
大阪市立	○ 9 - 7		△ 2 - 2	△ 3 - 3	○ 26 - 0	2	2	0	2位
大阪経法	○ 16 - 0	△ 2 - 2		○ 6 - 5	○ 14 - 0	3	1	0	1位
関西学院	○ 13 - 12	△ 3 - 3	● 5 - 6		○ 9 - 1	2	1	1	3位
和歌山	● 10 - 11	● 0 - 26	● 0 - 14	● 1 - 9		0	0	4	5位

3部B	京都学園	佛教	大阪府立	奈良教育	流通科学	勝	分	敗	順位
京都学園		● 0 - 4	● 0 - 7	● 6 - 7	○ 5 - 2	1	0	3	5位
佛教	○ 4 - 0		○ 11 - 1	○ 7 - 1	○ 9 - 3	4	0	0	1位
大阪府立	○ 7 - 0	● 1 - 11		○ 5 - 4	● 1 - 8	2	0	2	3位
奈良教育	○ 7 - 6	● 1 - 7	● 4 - 5		● 1 - 13	1	0	3	4位
流通科学	● 2 - 5	● 3 - 9	○ 8 - 1	○ 13 - 1		2	0	2	2位

※2～3位、4～5位は当該チーム間勝ち点規定により決定

3部優勝決定戦

大阪経法大学 3 - 4 佛教大学

※佛教大学は2部自動昇格

1部 - 2部入れ替え戦

四天王寺大学 3 - 4 大阪体育大学

※大阪体育大学は1部昇格

※四天王寺大学は2部降格

2部 - 3部入れ替え戦

大阪産業大学 6 - 0 大阪経法大学

※両大学とも残留

【総評】

インカレが終了して1ヶ月も経たないうちに開幕を迎えたことも関係したのか、激動の秋リーグであった。

まず、1部はインカレで準優勝だった同志社大学が最下位となって、2部に自動降格。5位の四天王寺大学も入れ替え戦で破れて降格。2季連続で、1部下位チームと2部上位チームが入れ替わった。また、優勝候補であった立命館大学が神戸

学院大学に敗れるという波乱があり、優勝争いは混沌となった。神戸学院大学はその勢いのまま関西大学との直接対決をも制して、15季ぶり6回目の優勝を飾った。

2部は両ブロックとも混戦となったが、京都大学と大阪体育大学がそれぞれ1位となり、春から待望の1部参入となった。また、3部は全勝でブロック優勝を果たした佛教大学が、大阪工業大学と入れ替わって2部に復帰した。

ここ1年程、2部と3部上位チームの差がなくなってきたとの認識は広まっていたが、今度は1部下位、極端な表現をすれば1部全体と2部上位チームの差は確実に縮まっている。多くのチームが1試合毎に一喜一憂することはリーグ全体の盛り上がりという点では良いことであるが、その原因を考えると手放しに喜べない。それは、投手力の低下であり、それが攻撃力（打力）の低下＝貧打にもつながっている。日頃の練習から、いいボールを打っていることが必要であり、チーム力ア

ップに向けて各チームは、この冬に鍛錬に励んでほしい。

(理事長 森田啓之)

平成22年度第42回秋季関西学生ソフトボールリーグ戦（女子）

会期：平成22年9月25・26日、10月2・3・9・10・11・16日

会場：園田学園女子大学・武庫川女子大学・大阪大谷大学・四天王寺大学

1部リーグ戦成績

チーム	園田学園	大阪国際	大阪大谷	天理	関西外語	武庫川	立命館	神戸親和
園田学園		○8-3	△1-1	○4-1	○1-0	○10-0	○8-2	○2-1
大阪国際	●3-8		○3-2	○2-0	○9-1	○8-3	○3-1	○5-2
大阪大谷	△1-1	●2-3		●1-6	○6-1	○5-3	○3-2	△8-8
天理	●1-4	●0-2	○6-1		○8-0	●1-2	○4-2	○2-0
関西外語	●0-1	●1-9	●1-6	●0-8		●0-4	●1-3	○2-1
武庫川	●0-10	●3-8	●3-5	○2-1	○4-0		○2-0	△3-3
立命館	●2-8	●1-3	●2-3	●2-4	○3-1	●0-2		●0-5
神戸親和	●1-2	●2-5	△8-8	●0-2	●1-2	△3-3	○5-0	

※1・2位、4・5位は、当該チームの直接対戦、6・7・8位は勝ち点、当該チームの直接対戦による。

1部最終成績

- 優勝 園田学園女子大学（6勝1分0敗）
 2位 大阪国際大学（6勝0分1敗）
 3位 天理大学（4勝0分3敗）
 4位 大阪大谷大学（3勝2分2敗）
 5位 武庫川女子大学（3勝1分3敗）
 6位 神戸親和女子大学（1勝2分4敗）
 7位 立命館大学（1勝0分6敗）
 8位 関西外国語大学（1勝0分6敗）

1部個人表彰

打撃成績

順位	氏名	大学	打率
1位	西沢奈甫子	大阪大谷大学	0.523
2位	桑原 愛	立命館大学	0.500
3位	尾崎 望	園田学園女子大学	0.450
4位	大村英利佳	大阪国際大学	0.444
5位	竹森 久実	武庫川女子大学	0.440

- 6位 森田 涼 園田学園女子大学 0.429
 7位 柳田 優香 大阪国際大学 0.421
 7位 清原 奈侑 園田学園女子大学 0.421
 9位 米田あやめ 大阪大谷大学 0.416
 10位 近藤 琴美 園田学園女子大学 0.400

投手成績

順位	氏名	大学	防御率
1位	泉 礼花	園田学園女子大学	0.00
2位	内海 花菜	武庫川女子大学	0.62
3位	梶岡祐女也	天理大学	0.80
4位	笹山 彩夏	神戸親和女子大学	2.03
5位	宮本 佳奈	立命館大学	2.10

ベストプレイ賞

大学	氏名	守備位置
園田学園女子大学	尾崎 望良	投手
大阪国際大学	林 仁美	外野手
天理大学	梶岡祐女也	投手

大阪大谷大学 樽谷 知香 遊撃手
 武庫川女子大学 竹森 久実 遊撃手
 神戸親和女子大学 末方 悠加 遊撃手
 立命館大学 宮本 佳奈 投手

関西外国語大学 横山 実加 右翼手

盗塁賞：森上 真衣 武庫川女子大学 記録6

ホームラン賞：清原 奈侑 園田学園女子大学
 記録3

2部リーグ戦対戦成績

チーム	龍 谷	大阪体育	四天王寺	びわこ成蹊	奈良教育	兵庫教育	勝	分	敗	順 位
龍 谷		● 2 - 3	○ 9 - 0	○ 10 - 0	○ 18 - 0	○ 7 - 0	4	0	1	2 位
大阪体育	○ 3 - 2		○ 15 - 3	○ 10 - 0	○ 6 - 0	○ 8 - 1	5	0	0	1 位
四天王寺	● 0 - 9	● 3 - 15		● 1 - 9	● 4 - 7	● 5 - 6	0	0	5	6 位
びわこ成蹊	● 0 - 10	● 0 - 10	○ 9 - 1		○ 4 - 0	○ 8 - 3	3	0	2	3 位
奈良教育	● 0 - 18	● 0 - 6	○ 7 - 4	● 0 - 4		● 9 - 12	1	0	4	5 位
兵庫教育	● 0 - 7	● 1 - 8	○ 6 - 5	● 3 - 8	○ 12 - 9		2	0	3	4 位

2部個人表彰

打撃成績

順位	氏 名	大 学	打率
1 位	小杉はるな	四天王寺大学	0.631
2 位	上原花奈恵	びわこ成蹊スポーツ大学	0.600
2 位	清木 知子	大阪体育大学	0.600
2 位	田井 静華	龍谷大学	0.600
2 位	松下 優子	びわこ成蹊スポーツ大学	0.600
6 位	西岡 薫未	びわこ成蹊スポーツ大学	0.538
7 位	山田華菜子	四天王寺大学	0.530
8 位	上田 翔子	大阪体育大学	0.470
9 位	青木万里子	大阪体育大学	0.429
10 位	岡田 明弥	四天王寺大学	0.421
10 位	藤井 恵	兵庫教育大学	0.421

投手成績

順位	氏 名	大 学	防御率
1 位	中村 華菜	びわこ成蹊スポーツ大学	1.40
2 位	河邊まな美	びわこ成蹊スポーツ大学	3.68
3 位	上田 翔子	大阪体育大学	3.94

ベストプレイ賞

大 学	氏 名	守備位置
大阪体育大学	上田 翔子	投 手
龍谷大学	越川さつき	左翼手
びわこ成蹊スポーツ大学	松下 優子	捕 手
兵庫教育大学	松葉 有香	投 手
奈良教育大学	和田千恵子	捕 手
四天王寺大学	小杉はるな	捕 手

盗塁賞：上原花奈恵 びわこ成蹊スポーツ大学
 記録7

3部対戦成績表

チーム	奈良教育	摂 南	京都女子	佛 教	勝	分	敗	順 位
奈良教育		○ 8 - 7	○ 7 - 6	● 8 - 10	2	0	1	1 位
摂 南	● 7 - 8		△ 10 - 10	○ 13 - 0	1	1	1	3 位
京都女子	● 6 - 7	△ 10 - 10		○ 10 - 0	1	1	1	2 位
佛 教	○ 10 - 8	● 0 - 13	● 0 - 10		1	0	2	4 位

3部個人表彰

打撃成績

順位	氏名	大学	打率
1位	山口 千智	京都女子大学	0.583
2位	森本 遙	大阪府立大学	0.556
3位	松尾 有起	摂南大学	0.500
4位	中川 静香	摂南大学	0.471
5位	江口 舞	摂南大学	0.438
5位	山田 瑞希	佛教大学	0.438
7位	山田彩容子	大阪府立大学	0.375
8位	大宅 那々	大阪府立大学	0.364
9位	岩元 七菜	京都女子大学	0.357
9位	酒井 郁美	摂南大学	0.357

投手成績

順位	氏名	大学	防御率
1位	西井 沙織	佛教大学	4.20
2位	堀尾 遙	京都女子大学	6.26
3位	前田 有紀	大阪府立大学	6.93

ベストプレー賞

大学	氏名	守備位置
大阪府立大学	前田 有紀奈	投手

摂南大学	酒井 郁美	内野手
京都女子大学	山口 千智	三塁手
佛教大学	梅本 優香	外野手

盗塁賞

前田 有紀奈 大阪府立大学 記録5

【秋リーグ戦総評】

秋季リーグ戦では、ほとんどの大学が若手のチームで挑み、熱戦が繰り広げられた。

1部では、4回生の残る大阪国際大学と園田学園女子大学が優勝をかけ戦った。大阪国際大学が先制点を取るものの、園田学園女子大学が流れを呼び寄せ、逆転に成功し勝利をつかみ取った。今年の関西リーグは天候に左右されることも多かったが、色々な人に支えられ最後は選手全員が笑顔で終わることができた。そして武庫川女子大学は10年ぶりのインカレ出場であったが、準優勝という好成績を残し、関西リーグの意地を見せつけてくれた。来年こそ、関西リーグからの日本一を期待し、関西地区の発展を願う。

文責： 阪井 あかね（園田学園女子大学）

第45回全日本大学・第41回西日本大学ソフトボール選手権大会中国地区予選会

会期：平成22年5月22日(土)・23日(日)

会場：山口県宇部市／東部体育広場

男子Aゾーン

広島大学	0	
岡山商科大学	1	10
環太平洋大学	13	10
近畿大学工学部	14	9
鳥取大学	4	9
広島工業大学	14	12
東亜大学	1	12

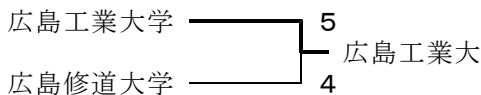
環太平洋大

男子Bゾーン

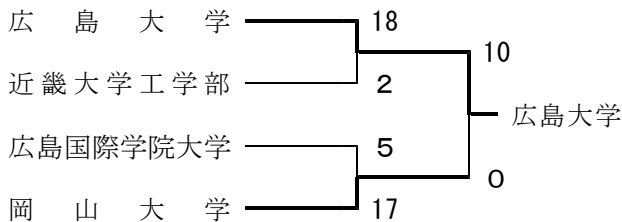
広島国際学院大学	4	
広島修道大学	11	29
広島国際大学	4	29
岡山理科大学	1	8
広島経済大学	15	8
岡山大学	2	11

広島経済大

全日本大学選手権大会第三代表決定戦
(A・Bゾーン決勝戦敗退チーム)



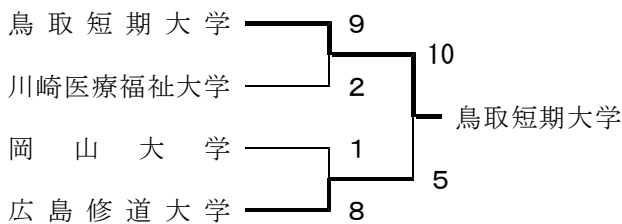
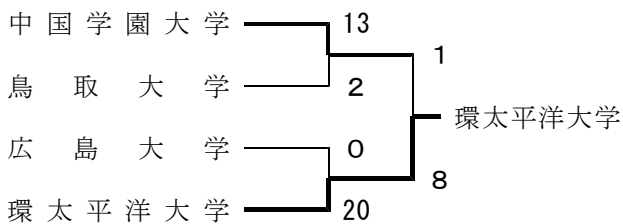
西日本大学選手権大会五代表決定戦
(A・Bゾーン準決勝戦敗退チーム)



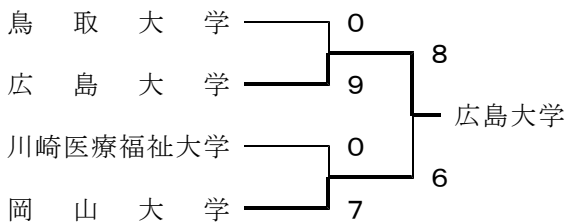
全日本大学選手権大会出場権獲得大学：環太平洋大学・広島経済大学・広島工業大学

西日本大学選手権大会出場権獲得大学：環太平洋大学・広島経済大学・広島工業大学・
広島修道大学・広島大学

女子



西日本大学選手権大会五代表決定戦



全日本大学選手権大会出場権獲得大学：
環太平洋大学・鳥取短期大学

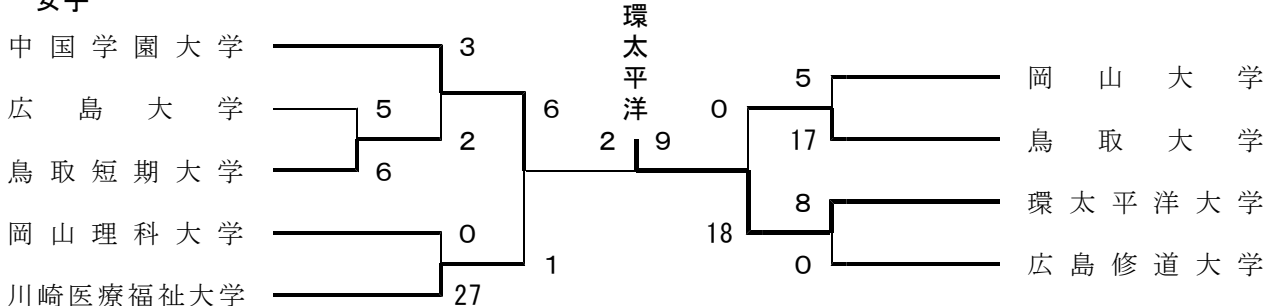
西日本大学選手権大会出場権獲得大学：
環太平洋大学・鳥取短期大学・中国学園大学・
広島修道大学・広島大学

第10回中国地区大学ソフトボール選手権大会

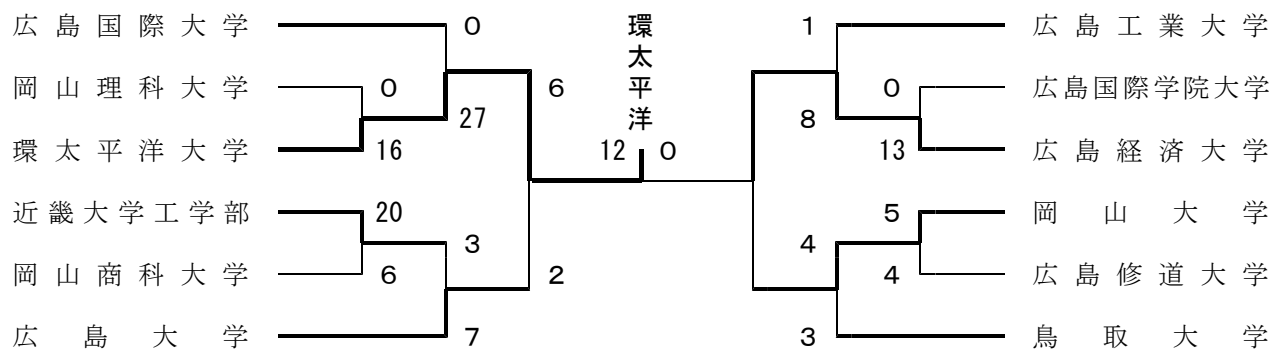
会期：平成22年11月13日（土）・14日（日）

会場：広島市／広島修道大学グラウンド

女子



男子



平成22年度四国地区大学男子ソフトボール春季大会

会期：平成22年4月24日（土）・25日（日）

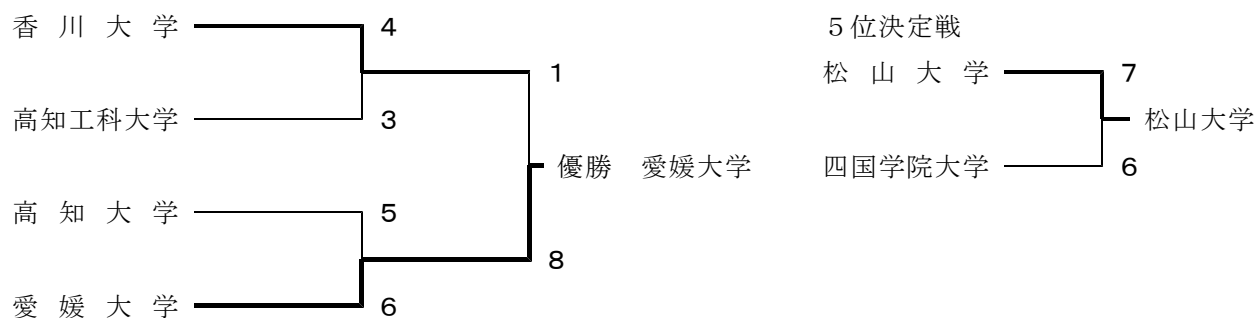
会場：香川県坂出市／（株）トクヤマ坂出グラウンド

予選リーグ戦（4月24日）

Aグループ	香川	松山	高知	順
香川		○ 7 - 6	○ 5 - 1	1
松山	● 6 - 7		● 1 - 9	3
高知	● 1 - 5	○ 9 - 1		2

Bグループ	高知工科	愛媛	四国学院	順
高知工科		● 1 - 4	○ 13 - 8	2
愛媛	○ 4 - 1		○ 8 - 3	1
四国学院	● 8 - 13	● 3 - 8		3

決勝トーナメント（4月25日）

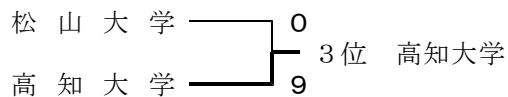
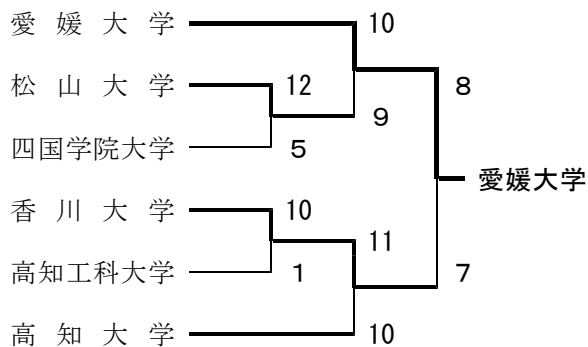


第45回全日本大学(男・女)ソフトボール選手権大会四国予選会 一兼、第42回西日本大学ソフトボール選手権大会四国予選会一

会期：平成22年5月22日（土）

会場：香川県坂出市／（株）トクヤマ坂出グラウンド 他

男子



全日本大学選手権出場権獲得校：愛媛大学・

香川大学

西日本大学選手権出場権獲得校：愛媛大学・

香川大学・

高知大学

女子

チーム	四国学院	香川	愛媛女短	勝	敗	順位
四国学院大学		● 3-21	● 0-19	0	2	3位
香川大学	○ 21-3		● 0-11	1	1	2位
愛媛女子短期大学	○ 19-0	○ 11-0		2	0	1位

全日本大学選手権出場権獲得校：愛媛女子短期大学

西日本大学選手権出場権獲得校：愛媛女子短期大学・
香川大学

平成22年度四国地区大学(男・女)ソフトボール秋季大会

会期：平成22年10月16日(土)・17日(日)

会場：香川県坂出市ノトクヤマ坂出グラウンド

男子予選リーグ

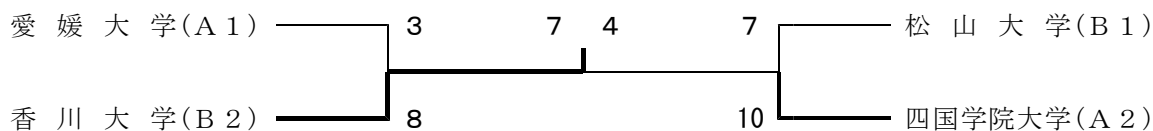
Aグループ	愛媛	高工	四学	順
愛媛		△ 8-8	○ 7-6	1
高知工科	△ 8-8		● 6-7	3
四国学院	● 6-7	○ 7-6		2

Bグループ	松山	高知	香川	四国	順
松山		○ 17-10		○ 24-1	1
高知	● 10-17		● 1-9		3
香川		○ 9-1		○ 15-3	2
四国	● 1-24		● 3-15		4

※順位は得失点差による。

男子決勝トーナメント

優勝 香川大学



男子3位決定戦

愛媛大学	11	
松山大学	3	愛媛大学

女子

愛媛女子短期大学	13	
香川大学	4	優勝 愛媛女子短期大学

第29回九州地区大学（男子・女子）ソフトボール春季大会
(兼、第45回全日本大学(男子・女子)ソフトボール選手権大会予選会)

会期：平成22年5月29日(土)・30日(日)日

会場：鹿児島県知覧町／平和公園多目的球場他

男子

1. 福岡大学	26																		
2. 立命館アジア太平洋大学	0																		
3. 長崎国際大学	10																		
4. 久留米工業大学	0																		
5. 佐賀大学	15																		
6. 日本経済大学	2																		
7. 第一工業大学	9																		
8. 福岡工業大学	4																		
9. 宮崎大学	0																		
10. 崇城大学	2																		
11. 鹿児島国際大学	5																		
12. 大分大学医学部	2																		
13. 九州大学	17																		
14. 九州共立大学	12																		
15. 熊本学園大学	10																		
16. 沖縄国際大学	8																		
17. 長崎県立大学	8																		
18. 九州産業大学	1																		
19. 日本文理大学	2																		
20. 名桜大学	13																		

熊本学園大学
(4年ぶり6回目)

第5代表決定戦

佐賀大学	0		
崇城大学	11		
沖縄国際大学	6		
鹿児島国際大学	4		
		9	2
			崇城大学

※第45回全日本大学(男子)選手権大会出場権獲得校：熊本学園大学・福岡大学・名桜大学・日本経済大学・崇城大学

女子

予選リーグA	福岡	日 文	沖 国	順位
福岡大学		● 4-7	○ 7-0	2位
日本文理大学	○ 7-4		○ 20-1	1位
沖縄国際大学	● 0-7	● 1-20		3位

予選リーグB	九 共	熊 学	名 桜	順位
九州共立大学		● 2-7	○ 8-0	2位
熊本学園大学	○ 7-2		○ 7-0	1位
名桜大学	● 0-8	● 0-7		3位

決勝トーナメント

日本文理大学	6		
九州共立大学	7		
熊本学園大学	4		
福岡大学	5		
		1	5
			優勝 福岡大学（4年ぶり13回目）

※福岡大学が全日本大学選手権の出場権獲得

第9回九州地区大学（男子・女子）ソフトボール秋季大会

会期：平成22年11月13日（土）・14日（日）

会場：沖縄県読谷村／平和の森多目的広場他

男 子

【予選リンク戦】

Aリンク（3チーム、1位：熊本学園大学）

熊本学園大学 7-3 長崎国際大学

沖縄国際大学 7-0 長崎国際大学

沖縄国際大学 0-10 熊本学園大学

Bリンク（4チーム、1位：九州産業大学）

名桜大学 2-7 九州産業大学

Cリンク（4チーム、1位：鹿児島国際大学）

日本経済大学 22-0 琉球大学

鹿児島国際大学 6-0 福岡工業大学

琉球大学 7-4 福岡工業大学

日本経済大学 5-16 鹿児島国際大学

Dリンク（3チーム、1位：福岡大学）

第一工業大学 10-12 九州大学
九州産業大学 7-0 九州大学
名桜大学 3-1 第一工業大学

福岡大学 18-4 九州共立大学
崇城大学 16-17 九州共立大学
崇城大学 6-13 福岡大学

【決勝トーナメント】

雨天中止となり、4校同時優勝

女 子

【予選リーグ戦】

Aグループ	福岡	名桜	熊学	順
福岡		○ 16-0	● 4-5	2
名桜	● 0-16		● 1-10	3
熊本学園	○ 5-4	○ 10-1		1

Bグループ	九共	沖国	日 文	順
九州共立		○ 5-3	● 2-3	2
沖縄国際	● 3-5		● 0-14	3
日本文理	○ 3-2	○ 14-0		1

【決勝トーナメント】

熊本学園大学	4			
九州共立大学	1	4		
日本文理大学	1		優勝 熊本学園大学(初)	
福岡大学	0	1		

【調査研究部会】

原稿並びに研究企画などの募集

来年度以降も、内容をいっそう充実・発展させていくために、どしどし原稿をお願いします。論説、提言から研究報告、あるいは情報の提供に至るまで、多様なものを期待しています。とともに、こんな研究内容や企画をしてほしい！というようなものがあれば、併せて連絡をくださいますようお願いいたします。特に学生の皆さんから。なお、毎年10月末日が原稿の〆切となりますが、随時受付しておりますので、下記までご連絡をください。(研究調査委員会 小川幸三・森田啓之)

森 田 啓 之

〒673-1494 兵庫県加東郡社町下久米942-1 兵庫教育大学

TEL & FAX : (0795) 44-2227

E-mail: hmorita@hyogo-u.ac.jp

投 稿 規 程

平成11年7月30日交付

1. 投稿資格

原稿を投稿できる者は、全日本大学ソフトボール連盟に登録された者（理事、監督、コーチ、選手等）に限る。調査・研究委員会が特に必要と認めた者については、この限りではない。

2. 投稿内容

内容はソフトボールに関したものとし、巻頭言、提言、総説、論文（含、抄録）、実践研究、事例報告、卒・修論、その他などとする。原稿は、原則として一編につき本誌4ページ以内（巻頭言、提言の場合は1ページ以内）とするが、調査・研究委員会が必要と認めた場合はこの限りで

はない。なお、未刊行のものが望ましいが、既刊のものであってもよい。

3. 投稿原稿の審査

原則として投稿されたものはすべて受理・採択する。

なお、書式等に問題がある場合は、調査・研究委員会名で修正を求める場合がある。

4. 原稿の提出

原稿は所定の執筆要項に準拠して作成し、総説、論文などの別を指定して、調査・研究委員会へ書留郵便で送付する。投稿の締め切りは特に設けないが、毎年10月20日で区切るものとする。

執 筆 要 項

原稿の執筆にあたっては、以下の事項を厳守されたい。

投稿原稿をそのままオフセット印刷するので、原稿を作成する場合は、A4版縦置き横書き、本文は全角22字×40行の2段組（上下余白25mm・左

右余白20mm・段間10mm）、文字サイズは10ポイント・和文フォントは明朝体を基本とする。ワープロソフトは、「Word」もしくは「一太郎」とし（「Excel」は認められない。）、CD-Rなどのメディアとともに提出すること。

【広報記録部会】

全日本大学ソフトボール連盟表彰

全日本大学ソフトボール連盟の役員として、永年にわたり連盟の運営にご尽力を賜り、ここに「功労表彰」を受けられた方々をご紹介します。なお、表彰は、平成22年2月21日の総合役員会の席上において一谷宣宏会長が行いました。（順不同・敬称略・所属大学並びに役職は受賞時のもの）

中 野 紀 明（国士舘大学、副会長） ・ 末 井 健 作（兵庫県立大学、理事長）



平成22・23年度
全日本大学ソフトボール連盟役員

職 名	氏 名	所 属	氏 名	所 属
会 長	一 谷 宣 宏	園田学園女子大学	—	
副 会 長	武 藤 幸 政	城西大学	中 野 元	熊本学園大学
	吉 野 みね子	東京女子体育大学	丸 山 悟	日本福祉大学
顧 問	坂 井 正 郎	国士舘大学名誉教授	角 田 真一郎	早稲田大学名誉教授
	水 野 信 義	WSM教育研究所	斎 藤 滋 雄	学習院大学名誉教授
	大 内 敬 哉	中京大学名誉教授	中 野 紀 明	国士舘大学名誉教授
	末 井 健 作	姫路県立大学名誉教授	—	
理 事 長	高 橋 伸 次	高崎経済大学	—	
副理事長	逢 坂 秀 樹	鳥取短期大学	岩 間 英 明	松本大学
常任理事	森 田 啓 之	兵庫教育大学（事務局長）hmorita@hyogo-u.ac.jp		
	大 塚 健 樹	盛岡大学	小 川 幸 三	日本体育大学
	黒 田 重 靖	富山大学	大 塚 隆	東海大学
	矢 澤 久 史	東海学院大学	久保田 豊 司	大阪国際大学
	宮 尾 直 海	愛媛女子短期大学	濱 貴 一	熊本学園大学
理 事	小 嶋 高 良	八戸工業大学	舟 山 健 一	東北福祉大学
	岡 田 万 嗣	山梨学院大学	丸 山 克 俊	東京理科大学
	立 山 利 治	国際武道大学	水 谷 博	至学館大学
	山 本 英 弘	朝日大学	石 井 賀一郎	中京学院大学
	二 瓶 雄 樹	中京大学	鈴 木 正 明	四天王寺大学
	板 谷 昭 彦	園田学園女子大学	但 尾 哲 哉	神戸親和女子大学

理 事	山 本 孔 一	IPU環太平洋大学	新 垣 實	沖縄国際大学
	富 田 国 興	(広島修道大学)	—	
評 議 員	飯 島 隆	盛岡大学	高 橋 知 美	富士大学
	友 坂 敏 信	富山大学	櫻 井 佳代子	新島学園短期大学
	石 井 雅 章	城西大学	清 水 正	山梨学院大学
	高 橋 流 星	日本体育大学	谷 口 佳津宏	南山大学
	松 井 健	日本福祉大学	大 矢 隆 二	常葉学園大学
	菅 野 貴 広	静岡大学	河 崎 靖	京都大学
	児 玉 公 正	大阪大谷大学	浅 野 浅 春	関西外国語大学
	秋 澤 俊 史	摂南大学	落 合 功	広島修道大学
	山 中 卓	鹿児島国際大学	—	
監 事	平 野 義 明	関西大学	細 田 きみ子	東京女子体育大学
事 務 局	〒370-0801 高崎市上並榎町1300 高崎経済大学 高橋伸次			
	FAX : (027) 343-4840		E-mail : takahas@tcue.ac.jp	
学 生 委 員 長	石 井 新 菜	専修大学	—	
学 生 副 委 員 長	原 田 大 樹	関西大学	山 中 祐 貴	愛知みずほ大学
学 生 委 員	斎 藤 奈 月	富山大学	熊 谷 英 紀	高崎経済大学
	杉 本 咲 子	東海大学	米 田 伸 之	文教大学
	今 井 ちはる	日本体育大学	五反田 裕 子	学習院大学
	村 田 誉	早稲田大学	坂 井 佳 文	関西大学
	十 代 田 彩	園田学園女子大学	岩 切 万 耶	園田学園女子大学
	下 村 タケル	長崎国際大学	—	

平成22年度 男子加盟大学一覧			全日本大学ソフトボール連盟
地 区	数	加 盟 大 学 名	
北海道・東北	10	仙台大学 東北大学 東北学院大学 日本大学工学部 八戸工業大学 弘前大学 福島大学 北海道大学 宮城教育大学 盛岡大学	
関 東	20	茨城大学 関東学園大学 国際武道大学 埼玉大学 芝浦工業大学 城西大学 城西国際大学 高崎経済大学 千葉大学 筑波大学 中央学院大学 都留文科大学 獨協大学 東海大学 東京国際大学 東京理科大学 日本大学生物資源科学部 日本大学生産工学部 文教大学 山梨学院大学	
北 信 越	7	石川県立大学 金沢大学 信州大学 富山大学 長野大学 福井大学 福井県立大学	
東 京	23	桜美林大学 学習院大学 慶應義塾大学 国際基督教大学 国士舘大学 専修大学 成蹊大学 大東文化大学 中央大学 帝京大学 東京大学 東京学芸大学 東京農業大学 東洋大学 日本大学 日本歯科大学 日本体育大学 一橋大学 文教大学湘南 東京都市大学 明治大学 立教大学 早稲田大学	
東 海	18	愛知大学 愛知学院大学 愛知教育大学 愛知みずほ大学 朝日大学 岐阜聖徳学園大学 静岡大学 中京大学 中京学院大学 中部大学 東海学園大学 常葉学園大学 名古屋大学 名古屋産業 名古屋商科大学 南山大学 日本福祉大学 名城大学	
近 畿	28	大阪大学 大阪経済大学 大阪経済法科大学 大阪工業大学 大阪産業大学 大阪市立大学 大阪体育大学 大阪府立大学 関西大学 関西学院大学 京都大学 京都学園大学 京都産業大学 近畿大学 神戸大学 神戸学院大学 甲南大学 四天王寺大学 同志社大学 奈良教育大学 姫路獨協大学 兵庫教育大学 兵庫県立大学 佛教大学 立命館大学 龍谷大学 流通科学大学 和歌山大学	
中 国	14	岡山大学 岡山商科大学 岡山理科大学 川崎医科大学 環太平洋大学 近畿大学工学部 東亜大学 鳥取大学 広島大学 広島経済大学 広島工業大学 広島修道大学 広島国際大学 広島国際学院大学	
四 国	7	愛媛大学 香川大学 高知大学 高知工科大学 四国大学 四国学院大学 松山大学	
九 州	25	沖縄国際大学 大分大学医学部 鹿児島国際大学 九州大学 九州共立大学 九州産業大学 熊本学園大学 久留米工業大学 佐賀大学 産業医科大学 西南学院大学 崇城大学 第一工業大学 長崎県立大学 長崎大学 長崎国際大学 西日本工業大学 日本文理大学 日本経済大学 福岡大学 福岡工業大学 宮崎大学 名桜大学 立命館アジア太平洋大学 琉球大学	

平成22年度 女子加盟大学一覧			全日本大学ソフトボール連盟
地 区	数	加 盟 大 学 名	
北海道・東北	7	仙台大学 東北福祉大学 弘前大学 富士大学 北翔大学 宮城教育大学 盛岡大学	
関 東	18	茨城大学 関東学園大学 国際武道大学 埼玉大学 相模女子大学 淑徳大学 順天堂大学 城西大学 城西国際大学 清和大学 千葉大学 筑波大学 東海大学 東京国際大学 日本大学生物資源科学部 新島学園短期大学 文教大学 山梨学院大学	
北 信 越	7	金沢大学 金沢学院大学 上越教育大学 信州大学 富山大学 福井大学 松本大学	
東 京	18	桜美林大学 学習院大学 慶應義塾大学 国士舘大学 国際基督教大学 実践女子大学 専修大学 成蹊大学 創価大学 中央大学 東京学芸大学 東京女子体育大学 東洋大学 日本大学 日本女子体育大学 日本体育大学 明治大学 早稲田大学	
東 海	13	愛知教育大学 至学館大学 岐阜聖徳学園大学 静岡大学 鈴鹿国際大学 中京大学 中京学院大学 東海学院大学 東海学園大学 常葉学園大学 名古屋大学 日本福祉大学 浜松大学	
近 畿	18	大阪国際大学 大阪体育大学 大阪府立大学 大阪大谷大学 関西外国語大学 京都女子大学 神戸親和女子大学 四天王寺大学 摂南大学 園田学園女子大学 天理大学 奈良教育大学 兵庫教育大学 びわこ成蹊スポーツ大学 佛教大学 武庫川女子大学 立命館大学 龍谷大学	
中 国	8	岡山大学 川崎医療福祉大学 環太平洋大学 中国学園大学 鳥取大学 鳥取短期大学 広島大学 広島修道大学	
四 国	4	愛媛女子短期大学 香川大学 四国大学 四国学院大学	
九 州	6	沖縄国際大学 九州共立大学 熊本学園大学 日本文理大学 福岡大学 名桜大学	
男 子	152大学		
女 子	99大学		
合 計	251大学		平成22年11月1日現在

編 集 後 記

パワースポットがブームだそうです。そんなところへ行けば、たちどころに力が得られるなどということは決してあり得ないことです。「ポパイのハウレンソウ」（意味のわからない学生諸君はWikipediaででも調べてください。）などというものは、テレビアニメの中だけの話です。やはり、「継続は力」や「千里の道も一歩から」という言葉の方がスポーツマンには納得できます。楽しいことは楽なことの中にはないように思います。その一歩が本誌に掲載されていたり、その一歩を本誌の中から見つけ出していただければ望外の喜びです。

ところで、この20年ほどの間ソフトボール界は、「メジャーへ！」のかけ声とともに一気にその坂を駆け上がってきたように思います。その頂点が北京オリンピックでの金メダルでした。そのために、ルールやボールの変更、用具の改良など様々なことが行われました。しかし、その結果がオリンピックとアジア大会からの種目除外というのは、あまりにも皮肉です。「Back softball!」の声も今ではあまり聞かれなくなりました。また、競技会の主催団体として大会の開催をお願いすると、立派なソフトボール場であってもその借用を断られることは度々経験させられます。その理由は、革ボールは危険だから、というものです。事実、ある競技団体が1年間に支払った保険金の総額は、トータル12日間で72万余円に達したと聞いたことがあります。その内容はガラスの破損等の補償のみで、人身傷害は含まれていないとのことです。これは正に、現在のソフトボール競技に球場が対応できていないことを示す典型例です。子どもの頃に、原っぱや河川敷で暗くなるまで白球を追っかけていた時代とは隔世の感があります。今一度、「野球に比べ、狭い土地でも行うことができ、ボールも大きく安全性が高いため、老若男女を問わずに楽しむことができる。」（Wikipedia）という原点に返って考えてみる必要があるのではないかと思います。

そのような思いも込めて、本号ではバットとボールに関する調査報告等も掲載しました。議論の資料にいただければ幸いです。なお、調査結果やインカレのデータなどは広報記録部会で保管していますので、卒業研究などで必要な場合は提供します。次ページのアドレスへmailでお問い合わせください。

また、本号から表紙を一新しました。デザインしていただいた川北氏は、地域でソフトボールを楽しまれる画家です。ソフトボールをよくご存じなだけにその思いが伝わってきます。表紙用の写真を送っていただいた方には申し訳ありませんが、しばらくはこれで行こうと思っています。

最後になりましたが、本号に原稿や情報をお寄せいただいた方々に感謝申し上げ、編集後記といたします。

広報記録部会：水谷 博（至学館大学）・山本英弘（朝日大学）・矢澤久史（東海学院大学）

表紙デザイン：川北卓史（長野県安曇野市在住）
日本のイメージである赤と黒(墨)という色彩を用い、
黄線は青春や若さ、赤線は情熱や力強さを表し、
ウインドミルの回転の動きを毛筆の筆運びでソフトボールのイメージを表現した。

全日本大学ソフトボール連盟機関誌 **ウインドミル** 第14号

2011年1月15日発行

発 行 者 全日本大学ソフトボール連盟会長 一谷 宣宏

編集責任者 広報記録部長 水谷 博

E-mail : mztn@sgk.ac.jp

発 行 所 全日本大学ソフトボール連盟

〒370-0801 高崎市上並榎町1300 高崎経済大学

F A X (0 2 7) 3 4 3 - 4 8 4 0

U R L <http://www.sgk.ac.jp/ajc-softball/>

E-mail : takahas@tcue.ac.jp

印 刷 西濃印刷(株)

〒500-8074 岐阜市七軒町15番地

T E L (0 5 8) 2 6 3 - 4 1 0 1

I S S N 1 3 4 3 - 4 3 9 X

想いを込める一球がある。



NAIGAI SOFTBALL

(財)日本ソフトボール協会検定球 検定1号・2号・3号・皮製3号・14インチ



NAIGAI BASEBALL

(財)全日本軟式野球連盟公認球 A号・B号・C号・D号・H号

内外ゴム株式会社

熱いゲームが、
KENKOから
はじまる。



ケンコーソフトボール
(革製/3号球)
財団法人日本ソフトボール協会検定球



健康コミュニティを創造する
ナガセケンコー株式会社
NAGASE KENKO CORPORATION

Rawlings®
Est. 1887

こだわりを包み込むカタチ。

自分自身のパフォーマンスを最大に活かすため、生まれる用具への強い「こだわり」。

アシックス&ローリングスは、そのさまざまな「こだわり」に応え、
プレーヤーがパフォーマンスを発揮できる用具を届けていきたい。「こだわり」を「カタチ」に変えて。



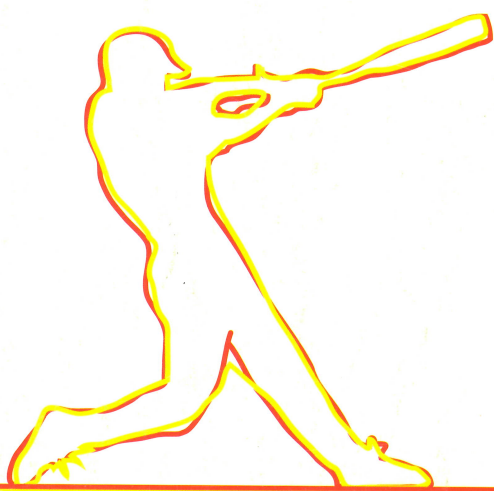
株式会社 アシックス

<http://www.asics.co.jp/yakyu/> ☎ 0120-77-6338

※アシックスシューズのストライプデザインはアシックスの商標であり、世界の多くの国で登録された商標です。

asics®

sound mind, sound body



ウインドミル NO.14 (2010)

ISSN 1343-439X